

大阪大学

大学院副専攻プログラム 大学院等高度副プログラム



本学では、学際融合教育（学部・研究科の枠にとらわれない教育）として、「副専攻プログラム」・「高度副プログラム」以外に、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」を提供しています。

プログラム	大学院副専攻プログラム [プログラム履修]	大学院等高度副プログラム [プログラム履修]	知のジムナスティックス (高度教養プログラム) [科目履修]
目的 及び概要	自分の専攻に関連する、あるいは専攻以外の分野内容を、主専攻に準ずるレベルで体系的に学ぶことにより、複眼的視野と学際的・俯瞰的な視点を獲得するプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。高度副プログラムより修了要件単位数が多い。	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を体系的に学ぶことにより、複眼的視野と学際的・俯瞰的な視点を獲得するプログラム。プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。副専攻プログラムより修了要件単位数が少ない。	他の専門分野の科目及び共通的に学ぶべき科目を履修することにより、社会人として必要なつよさ・しなやかさ・バランス感覚を兼ね備えた知性を養う。履修内容は、自分の所属部局以外の科目の中から、個人の必要性に応じ、自分でコーディネートする。
対象	・大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く)	・大学院学生 ・一部プログラムは6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5、6年次学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く)	・全学3年次以上の学部生 ・大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く)
提供数 (平成27年度)	5プログラム	46プログラム	390科目以上
履修者数 (平成26年度)	148名	732名	366(学部学生) 1,229(大学院学生)
プログラム 開始申請	必要 (プログラム申請と科目履修登録)	必要 (プログラム申請と科目履修登録)	不要 (科目履修登録のみ)
要件単位	あり(14単位以上) *14単位以上の一貫した専門性をもつ内容から構成されており、所属する研究科の修了要件単位と7単位までは重なっていてもかまわない。(詳細はP8参照)	あり(8単位以上) *8単位以上のもともった内容から構成されており、所属する研究科・学部の修了・卒業要件単位と4単位までは重なっていてもかまわない。(詳細はP8参照)	なし *1科目から履修可能
修了認定証	発行あり (総長とプログラム実施部局長との連名による発行)	発行あり (総長とプログラム実施部局長との連名による発行)	発行なし (成績証明書に「知のジムナスティックス(高度教養プログラム)」科目である旨を記載)
専攻の修了と プログラムとの関係	<p>研究科 修了要件単位 (30単位*)</p> <p>当該プログラムのための単位</p> <p>副専攻プログラム 修了要件単位 (14単位以上)</p> <p>7単位以上</p> <p>専攻の修了 + 副専攻プログラム修了</p> <p>*博士前期課程の場合</p>	<p>研究科 修了要件単位 (30単位*)</p> <p>当該プログラムのための単位</p> <p>高度副プログラム 修了要件単位 (8単位以上)</p> <p>4単位以上</p> <p>専攻の修了 + 高度副プログラム修了</p> <p>*博士前期課程の場合</p>	<p>研究科 修了要件単位 (30単位*)</p> <p>知のジムナスティックス (高度教養プログラム) (修了要件外単位)</p> <p>専攻の修了</p> <p>*博士前期課程の場合</p>

なお、「副専攻プログラム」、「高度副プログラム」の構成科目の中には、同時に「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」として全学に提供している科目もあります。

目 次

はじめに

1. プログラムの概要	1
(1) 「大学院副専攻プログラム」「大学院等高度副プログラム」とは	
(2) プログラムの種類の違い	
(3) プログラム履修開始から修了までの流れの例	
2. 履修対象者・履修条件等について	3
(1) 履修対象者	
(2) 履修条件	
(3) 費用	
3. 各プログラムのカリキュラム内容について	4
(1) プログラムのカリキュラムについて	
(2) プログラムの修了要件の満たし方について	
(3) プログラムの授業科目の開講期間について	
4. プログラム申請等に関する手続について	5
(1) プログラム受講開始時の手続について	
(2) プログラム及びプログラム科目に関わる通知について	
(3) プログラムの修了について	
(4) プログラムの内容に関する問い合わせについて	
5. プログラム選択の支援について	6
(1) 各プログラムの合同ガイダンスについて	
(2) 「学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム (Web)」について	
(3) その他の広報活動について	
EX. 補足事項	8
(1) 単位修得方法の注意点	
(2) プログラム申請前の修得単位の扱いについて	
(3) プログラムを修了しないで研究科を修了した場合の科目の取り扱いについて	
平成 27 年度 各プログラム個別紹介	
(副専攻プログラム)	
・プログラム及び説明会予定一覧	13
・各プログラム紹介	14 ~ 23
(高度副プログラム)	
・プログラム及び説明会予定一覧	27 ~ 29
・各プログラム紹介	30 ~ 121
学際融合教育科目について	122 ~ 123

1 | プログラムの概要

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」とはどのようなものか解説します。

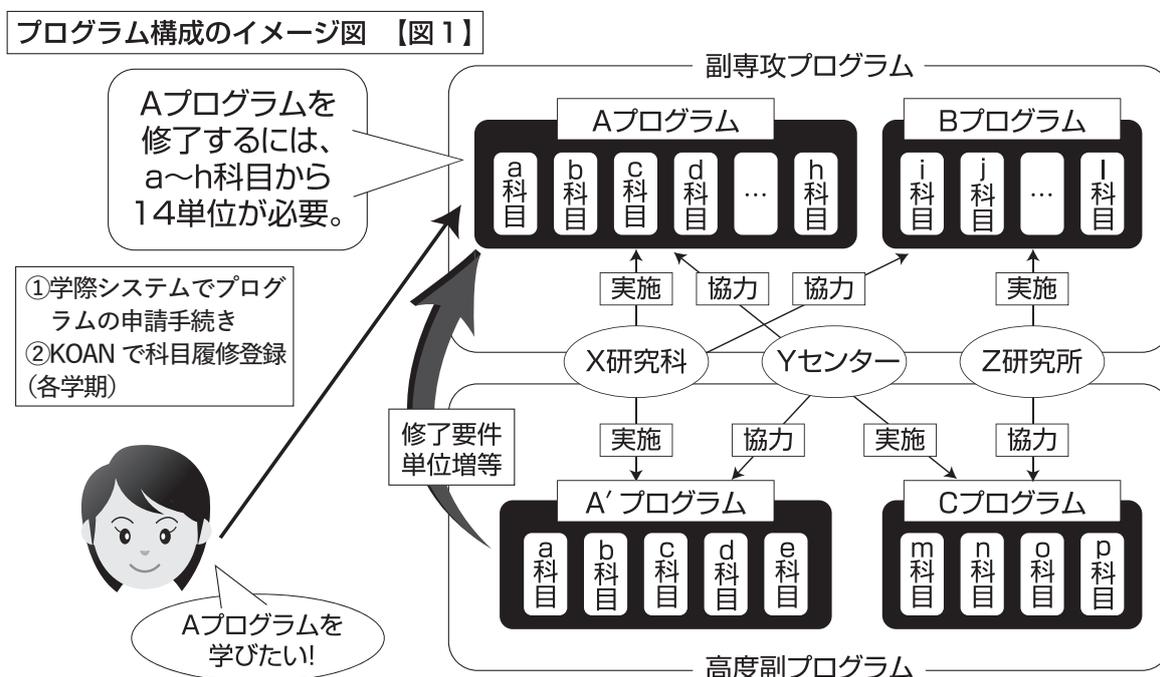
(1) 「大学院副専攻プログラム」「大学院等高度副プログラム」とは

「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」は、学生が**所属する主専攻の教育課程（カリキュラム）以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラム**です。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った、一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、所属する大学院の課程を修了（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）する際に当該プログラムの修了認定証が交付されます。

平成 27 年度は、「副専攻プログラム」 5 プログラム、「高度副プログラム」 46 プログラムが実施されます。

イメージとしては、以下の図のようになります。



【図 1】の例では、副専攻プログラムの1つとして、「Aプログラム」という教育プログラムがあります。「Aプログラム」は、X研究科がYセンターの協力のもと実施しているプログラムであり、同研究科・センターが開講しているa～h科目で構成されています。「Aプログラム」については、その中から14単位を修得すれば修了することができるかと定められています。

この例と同じように、他にもさまざまな研究科・研究所・センターなどが実施部局^{*1}あるい

は協力部局となり、独自に体系的な教育プログラムを構成しています。

なお、「Aプログラム」と「A'プログラム」のように、「副専攻プログラム」と「高度副プログラム」で、同じ教育目標を掲げるプログラムもありますが、多くの場合、修得すべき科目が「副専攻プログラム」の方が多く設定され、より詳細な内容を学んだと認定されます。

※1) ここでの「部局」とは、大阪大学に置かれた「学部・研究科」「附置研究所」「学内共同教育研究施設」「全国共同利用施設」等を指します。

(2) プログラムの種類の違い

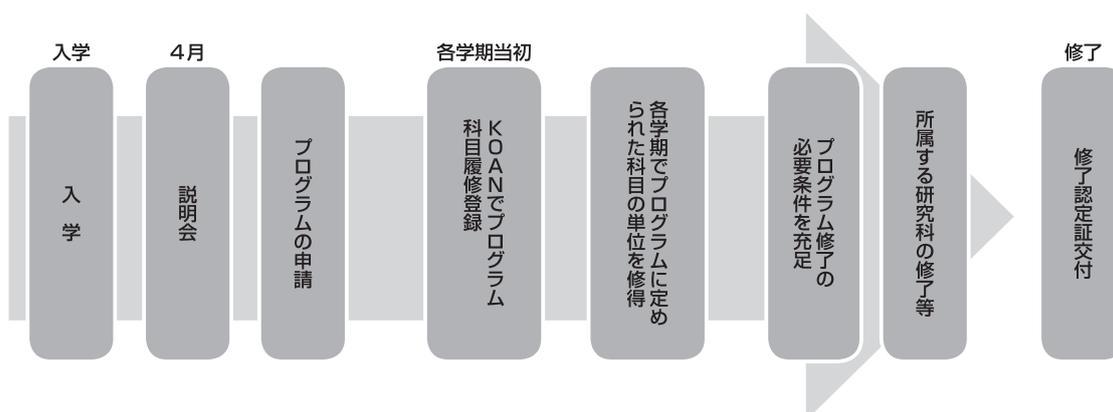
プログラムは、主に以下のように区別されています。

	大学院副専攻プログラム	大学院等高度副プログラム
目的及び概要	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を、主専攻に準ずるレベルで体系的に学ぶことにより、複眼的視野と学際的・俯瞰的な視点を獲得するプログラム。 プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。高度副プログラムより修了要件単位数が多い。	自分の専攻に関連する、あるいはそれ以外の分野の内容を体系的に学ぶことにより、複眼的視野と学際的・俯瞰的な視点を獲得するプログラム。 プログラムは複数あり、そのルールに則って履修する。副専攻プログラムより修了要件単位数が少ない。
履修対象者	大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く)	大学院学生 (科目等履修生・特別聴講学生を除く) 一部のプログラムは6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5,6年次学生 ^{※2}
修了要件	14単位以上 ^{※3}	8単位以上 ^{※3}
提供プログラム数	5プログラム(平成27年度)	46プログラム(平成27年度)

※2) 以下の解説文中では、大学院学生を想定し、「研究科・専攻」「修了」という文言を使用しています。「大学院等高度副プログラム」の一部のプログラムは6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5,6年次学生を対象にしている場合がありますので、その場合は、「研究科・専攻」を「学部・学科」に、「修了」を「卒業」に読み替えてください。

※3) あくまで制度上の最低単位です。実際は、プログラム毎に設定が異なり、この条件より要件が多く設定されていたり、必修科目があったりする場合があります。必ず各プログラムの紹介を参照してください。

(3) プログラム履修開始から修了までの流れの例【図2】



2 履修対象者・履修条件等について

プログラムを履修することができる者、条件の概要を解説します。

(1) 履修対象者

大学院学生（科目等履修生・特別聴講学生を除く）

高度副プログラムの一部は、6年制課程の学部（医学部・歯学部・薬学部）5、6年次学生を含む。

(2) 履修条件

大阪大学大学院の課程（高度副プログラムの一部のプログラムは6年制課程の学部5、6年次（医学部・歯学部・薬学部））に在学していることが必要です。その他、プログラム毎に履修条件や履修者数の制限を設けている場合がありますので、個々のプログラムの説明を参照してください。履修制限のないプログラムについては、所属する研究科・学年を問わず履修することができます。

なお、複数のプログラムを同時に履修することも可能です。

ただし、「博士前期課程・修士課程」、「博士後期課程・博士課程」及び「6年制課程の学部5、6年次（医学部・歯学部・薬学部）」とでは、履修できるプログラムが異なりますので、詳細はプログラム一覧（P 13・P 27～P 29）で確認してください。

(3) 費用

プログラムを履修することに対しては特別な費用はかかりません。ただし、プログラムの科目によっては、授業を受ける際に交通費などの実費がかかることがあります。

3 各プログラムのカリキュラム内容について

プログラムのカリキュラムの成り立ちや修了の方法について解説します。

(1) プログラムのカリキュラムについて

各プログラムのカリキュラムは、プログラム実施部局及び連携部局^{※4}が企画し、プログラム科目や修了要件単位数を決めています。原則、プログラム科目は、プログラム実施部局や連携部局等で開講する授業科目から構成されています。

本冊子ではプログラムの概要と構成科目を紹介していますが、科目の内容については、各プログラムが発行する冊子等を参照するかK O A Nのシラバスを検索してください。

(※4) プログラム実施部局とは、副専攻プログラム・高度副プログラムを企画し、開講するプログラムに対して責任を持つ研究科等の組織をいい、連携部局とは複数の研究科等の組織が連携して1つのプログラムを開講する場合の実施部局以外の部局をいいます。それぞれのプログラムの連携部局がどのような役割を担うかはプログラムによって違います。

(2) プログラムの修了要件の満たし方について

修了要件はプログラム毎に違い、本冊子には、プログラムの修了に必要な最低単位数を記載していますが、プログラムによっては必修科目を設けたり、コースを選択したりするなど、条件に違いがあります。詳細については、各プログラムの紹介冊子等で確認してください。

なお、プログラムの修了に必要な単位と所属している研究科の専攻の修了に必要な単位との重複は認められます（当該プログラムの単位が、専攻の修了に必要な単位として認められるかどうかは、所属する研究科の教務担当係に確認してください）。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に、副専攻プログラムの場合は最低7単位、高度副プログラムの場合は最低4単位を当該プログラムのための単位として修得する必要があります。^{※5}

また、複数のプログラムを履修する場合は、それぞれのプログラムの修了に必要な単位の重複は認められます。

(※5) 単位の修得方法の詳細は、補足事項（P. 8）にて解説しているので必ず参照してください。

(3) プログラムの授業科目の開講期間について

プログラムの提供する授業科目の開講は、プログラムを履修している当該学生の課程の標準修業年限内は保証されますが、それ以降はカリキュラムの変更等の理由で開講されない場合がありますのでご注意ください。

4 | プログラム申請等に関する手続について

プログラムの申請、プログラム科目の履修について解説します。

(1) プログラム受講開始時の手続について

プログラムを受講するには、「プログラムの申請」と「プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）」の両方を行う必要があります。

例えば、P.1の【図1】で、学生が副専攻プログラム「Aプログラム」の内容を学びたいと考えたとします。プログラムの履修を開始するには、一般的に、①「Aプログラム」が定める申請手続を行い、②KOANで「Aプログラム」の構成科目a～hについて履修登録を行うこととなります。

プログラムの申請は、Web（学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム）を使用して行うプログラムと申請書の提出にて行うプログラムがあります。Webによる申請については、各学期の始めにKOAN掲示板にて、申請書の提出による申請については、各プログラムが発行する冊子やホームページにてお知らせします。

プログラム科目の履修登録（KOANでの登録）は、学期毎にKOANを使用して当該学期に履修する授業科目について、所属する研究科で設定している各学期の履修登録期間と、プログラム科目の開講部局で設定している履修登録期間内に行ってください。

その他、プログラムによっては、KOANの履修登録以外に年度当初又は学期毎に、履修するプログラム科目の申請が必要な場合もあります。各プログラムの指示に従ってください。

(2) プログラム及びプログラム科目に関わる通知について

プログラムは、実施部局あるいは連携部局により運営されていますので、それぞれから通知があることがあります。一方、プログラム科目は、いずれかの部局で開講されている科目ですので、原則、開講部局より通知があります。

これらのプログラムに関する通知や、プログラム科目の授業運営に関する通知（休講、課題等）の連絡は、原則、KOANの広報システム（掲示板等）により行います。ただし、プログラムによってはメールやホームページを使用する場合がありますので、各プログラムの指示に従ってください。

(3) プログラムの修了について

プログラムの修了に必要な条件を全て満たすと、所属研究科の課程を修了するとき（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）にプログラムの修了認定証を授与します。修了認定証の交付は、所属する研究科の教務担当係より行われます。

(4) プログラムの内容に関する問い合わせについて

その他、プログラムについて質問や連絡することがありましたら、プログラム実施部局におかれている担当事務室にお尋ねください。

5 | プログラム選択の支援について

数多くあるプログラムの中からどれを選択すればよいかについて、各種ガイドを用意しています。

(1) 各プログラムの合同ガイダンスについて

各プログラムについて、下記のとおり合同のガイダンス^{※6}を行います。合同ガイダンスでは、各プログラムについて説明を行い、質問に答えますので、受講選択に役立つ情報が得られます。

【副専攻プログラム・高度副プログラム合同ガイダンス】

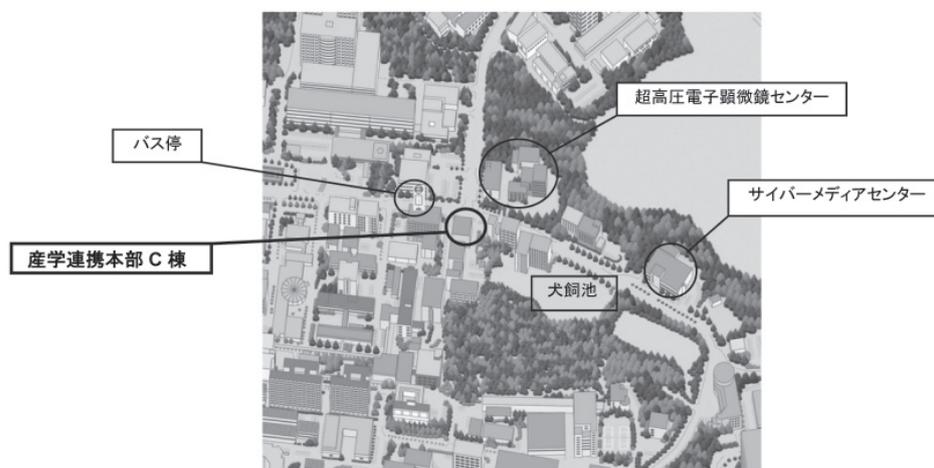
(豊中キャンパス) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分

基礎工学国際棟1階 セミナー室



(吹田キャンパス) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分

産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房



(※6) 合同ガイダンスには全プログラムが参加するわけではありません。独自の説明会を実施するプログラムもあります。詳細はP 11以降を参照のこと。

(2) 「学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム (Web)」について

様々なプログラムの中から、学びたい「知」や将来の進路等、希望に合ったプログラムや授業科目をガイドし、プログラムの受講申請を行う機能を持った Web システムとして、「学際融合教育プログラム受講ガイダンスシステム (<https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/>)」があります。本システムでプログラム構成科目の時間割やシラバスを参照・比較することができ、履修計画に役立てることができます。

なお、本システムへは直接 URL アドレス入力の外、下記サイトからリンクしています。

① KOAN トップページ <左メニュー>

② 大阪大学ポータルサイト「マイハンダイ」 <トップページの「大阪大学 Web サービスリンク集」>

(3) その他の広報活動について

大阪大学ホームページの「教育・研究活動」→「副専攻的な教育」の中に「副専攻プログラム」・「高度副プログラム」についてのページを設けてあります。各プログラムのホームページへもリンクしています。

アドレス (<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/fukusenkou>)

EX 補足事項

各解説事項を補足します。

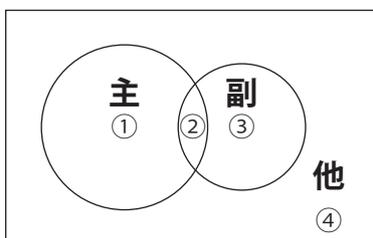
(1) 単位修得方法の注意点

「副専攻プログラム」「高度副プログラム」は、所属研究科・専攻以外の内容や主専攻の専門性を活かすための関連分野を学ぶプログラムです。よって、プログラムの要件単位数を満たしても、所属研究科・専攻の修了要件単位と重複する（内数として利用される）単位のみでは同プログラムを修了したと認定されず、【制度上の最低修得単位数の半数（「副専攻プログラム」は7単位、「高度副プログラム」は4単位）】は、当該プログラムのための単位として修得する必要があります。すなわち、【制度上の最低修得単位数の半数】は、研究科・専攻の修了要件ではない単位、あるいは修了要件単位となる科目で、修了のために利用する単位数以上の余分に追加された単位である必要があります。

なお、「副専攻プログラム」・「高度副プログラム」の所属研究科・専攻以外の構成科目でも、同研究科が規定する申請を行うことにより、修了要件単位に算入することができる場合がありますが、当該科目を修了要件の内数として利用する場合は、それ以外に単位の上乗せが必要となる場合があることに注意が必要です。

図解例

修得した単位を下記の区分①～④に分けた場合、



- ①…研究科の修了要件科目の単位
- ②…研究科の修了要件科目かつ副専攻／高度副プログラム科目の単位
- ③…副専攻／高度副プログラム科目の単位
- ④…研究科の修了要件〔外〕科目かつ副専攻／高度副プログラム〔外〕科目の単位

研究科の修了要件単位数を「(A) 単位」とすると、以下の3つの条件をすべて満たすことが必要です。

・条件1：副専攻／高度副プログラムの修了要件単位を満たすこと。

・条件2：副専攻プログラム『①+②+③ \geq (A)+7』

／高度副プログラム『①+②+③ \geq (A)+4』を満たすこと。

(例. 副専攻プログラムを申請し、博士前期課程で(A)=30の場合、「37単位以上」)

副専攻／高度副プログラム科目の単位と、所属している研究科の修了要件単位との重複は認められるが、研究科の修了に必要な最低修得単位数以外に最低7単位／最低4単位は、研究科の修了要件ではない当該副専攻／高度副プログラムの単位を修得することが必要。

・条件3：大学院を修了すること。

(修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。)

実際の履修例

所属研究科の修了要件単位 () が 30 単位であり、
申請した「高度副プログラム」の修了要件単位数 () が 8 単位^{※7} の場合

ケース1

研究科修了要件の単位をプログラム修了要件とは別に修得している場合

① 30 単位

③ 8 単位

→研究科を修了し、プログラムも**修了可能**である。

なお、③ 8 単位 は、研究科の修了要件となる科目でも可。

ケース2

研究科修了要件とプログラム修了要件で、4単位が重複する場合

① 30 単位

② 4 単位

③ 4 単位

→研究科を修了し、プログラムも**修了可能**である。

なお、③ 4 単位 は、研究科の修了要件となる科目でも可。

ケース3

研究科修了要件とプログラム修了要件で、6単位が重複する場合

① 30 単位

② 6 単位

③ 2 単位

→研究科を修了できるが、プログラムは**修了不可**である。

この場合、上図の状態からさらに ③ 2 単位 を追加することが必要。

同単位は研究科の修了要件となる科目でも可。

ケース4

研究科修了要件とプログラム修了要件で、8単位が重複する場合

① 30 単位

② 8 単位

→研究科を修了できるが、プログラムは**修了不可**である。

この場合、上図の状態からさらに ③ 4 単位 を追加することが必要。

同単位は研究科の修了要件となる科目でも可。

(※7) 「副専攻プログラム」の場合、14 単位と想定され、最低 7 単位の余剰が必要となります。

(2) プログラム申請前の修得単位の扱いについて

プログラムで定める授業科目をプログラムの申請以前に履修している場合は、既に修得している単位がプログラムの修了要件単位として認定されることがあります。詳細については各プログラム実施部局にお問い合わせください。

(3) プログラムを修了しないで研究科を修了した場合の科目の取り扱いについて

履修中のプログラムを修了せず大学院を修了又は退学し、当該プログラムの修得単位がある場合は、社会人対象の「科目等履修生高度プログラム※8」を履修する際に、当該単位を新たに履修する「科目等履修生高度プログラム」の既修得単位として認定することができる場合があります。詳細については各プログラム実施部局にお問い合わせください。**(ただし、新たに履修する「科目等履修生高度プログラム」において、修了しなかったプログラム修得単位の科目と共通する科目がある場合に限ります。)**

(※8)「科目等履修生高度プログラム」は、外部の社会人に対して開放されている学校教育法に定められた履修証明制度に基づくプログラムです。一部のプログラムは、「副専攻プログラム」「高度副プログラム」と重複する内容を扱っている場合があります。

平成 27 年度 各プログラム個別紹介 (副専攻プログラム)

※この冊子に掲載されているプログラムは、平成 27 年度に募集を行っているプログラムの情報を掲載しています。
平成 28 年度以降に新たにプログラムの申請を行う場合は、当該年度発行の冊子をご覧ください。

平成 27 年度 副専攻プログラム及び説明会予定一覧

	プログラム名称	プログラム 実施部局	履修 対象者	説明会情報			説明 ページ
				合同ガイダンス		左記以外の 開催予定 (詳細は 個別ページ 参照)	
				4 / 8 豊中	4 / 10 吹田		
1	アントレプレナーシップ (アドバンスト・プログラム)	経済学研究科	M・D	○	○		14
2	公共圏における科学技術 政策	コミュニケーション デザイン・センター	M・D	○	○	4/15 (水) 実施予定	16
3	金融・保険	金融・保険教育研究 センター	M・D	○	○	4/10 (金) 実施予定	18
4	ナノサイエンス・ナノテ クノロジー高度学際教育 研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育 副専攻プログラム)	ナノサイエンス デザイン教育研究 センター	M	○	○	4 / 7・ 9・14 実施予定	20
5	超域イノベーション 副専攻プログラム	未来戦略機構	M・D	○	○		22

※履修対象者

M……博士前期課程・修士課程・生命機能研究科の博士課程 1、2 年次・法科大学院の課程
D……博士後期課程・博士課程・生命機能研究科の博士課程 3 年次以上

プログラム名称	アントレプレナーシップ（アドバンスト・プログラム）	
プログラム実施部局	経済学研究科	
連携部局	工学研究科、国際公共政策研究科、 グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 及び 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>グローバル化やICT化等の進展などによる社会構造の変化に伴い、自らのアイデアや技術をもとに起業し、自らの手でビジネスを展開するというアントレプレナーの社会からの需要が高まっています。アントレプレナーは、リスクを取りながら革新的なアイデアや技術をもとに新たなビジネスを起して社会に提供し、産業構造や人々のライフスタイルの変化を創出していきます。</p> <p>革新的な技術をもとにしたテクノロジービジネスを行うアントレプレナーに加え、ビジネスの手法で社会的課題解決を図る社会起業家やNPOや国際NGOなどの非営利組織において革新的な手法で被災者支援や途上国援助を行う人など多様なアントレプレナーが活躍しています。また、企業や団体などの組織の中でも新しいアイデアで新規事業を立ち上げていける人材が求められています。本プログラムでは起業マインドを身につけ、起業の基礎を学ぶことに加えて、多様なアントレプレナーのあり方を理解しアントレプレナーとなるための実践的な知識を身につけます。</p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 起業を巡る環境を理解する ② 起業プロセスの基礎を学ぶ ③ 実際に起業する際に必要な実践的な知識を身につける ④ 起業マインドを涵養する ⑤ 多様なアントレプレナーのあり方を学ぶ 	
履修資格・条件	特になし。全学からの参加を歓迎します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は不要。	
修了要件	14 単位以上	本プログラムの科目から必修科目 2 単位を含む 14 単位以上を修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	問い合わせ先（担当教員）： 松行輝昌（06-6850-6985, tma@celas.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成 27 年 4 月 8 日（水）11 時 30 分～13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>（吹田）平成 27 年 4 月 10 日（金）11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本副プログラムの受講申請は、受講ガイダンスシステム（https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/）から行うこと。 ・同一内容の科目を複数履修することはできません。自分の所属する課程（前期課程・後期課程）に対応する科目を履修してください。 	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232071	企業家活動	2		1 学期	経済学研究科（博士前期）	集中
237249	企業家活動特研	2		1 学期	経済学研究科（博士後期）	集中 232071 と同一
232073	イノベーション・マネ ジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232114	ベンチャービジネス 創成		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232072	ビジネスモデル論		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237235	ビジネスモデル論特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232072 と同一
280667 232003	アカウンティング/ ファイナンス		2	1 学期	工学研究科（博士前期） 経済学研究科（博士前期）	
232021	マーケティング・サイエ ンス		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237231	マーケティング・サイ エンス特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232021 と同一
280645 232167	知的財産権		2	1 学期	工学研究科（博士前期） 経済学研究科（博士前期）	
310271	非営利組織論		2	通年	国際公共政策研究科 （博士前期）	
232054	企業分析と評価		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
237239	企業分析と評価特研		2	1 学期	経済学研究科（博士後期）	232054 と同一
232189 281253	イノベーションデザイ ン実践		2	2 学期	工学研究科（博士前期） 経済学研究科（博士前期）	
720201	グローバルコラボレー ションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	公共圏における科学技術政策	
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
連携部局	人間科学研究科、法学研究科、医学系研究科、工学研究科、基礎工学研究科、国際公共政策研究科、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 第4期科学技術基本計画が掲げる「社会及び公共のための政策」「社会とともに創り進める政策」としての科学技術イノベーション政策の形成のためには、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められます。そのためには、定量的なエビデンスに加え、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）をふくむ「科学技術への公共的関与（public engagement）」や「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」研究が生み出すエビデンスが不可欠です。</p> <p>この認識のもと本プログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。</p> <p>なお、本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」の基盤的研究・人材育成拠点を担うものとして実施されます。</p> <p>【教育目標】 自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。</p>	
履修資格・条件	選考の上、受講生を決定します。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	14 単位以上	必修科目:6 単位、選択科目:8 単位以上。選択科目①(基軸科目群)および②(イシュー科目群)から、それぞれ 2 単位以上を選択
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページ： http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/learn/gmp/stips.php 全学教育推進機構等事務部 大学院係 E-mail: stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成 27 年 4 月 8 日 (水) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階 (吹田) 平成 27 年 4 月 10 日 (金) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p> <p>■副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」説明会 (豊中) 平成 27 年 4 月 15 日 (水) 18:00～19:00 全学教育推進機構学生コモンズ (2 階) セミナー室 2</p>	
特記事項	<ol style="list-style-type: none"> 履修希望者は、上記日時で開催予定の副専攻プログラム「公共圏における科学技術政策」説明会を受講してください。 履修希望者は、下記の期日までにメールにて申請書を提出ください。申請書は、上記の説明会で案内するほか、上記ホームページより入手してください。 日時：4 月 22 日 (水) 16:00 締切 提出先：stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp 面接日時は、申請書受理後、4 月 17 日 (金)、23 日 (木) 両日とも午後から実施します。両日不可の者は、個別相談の上、決定いたします。 	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360130	科学技術イノベーション政策概論	2		1 学期	C S C D（院）	
360428	科学技術コミュニケーションの理論と実践	2		1 学期	C S C D（院）	
360601	研究プロジェクト	2		通年	C S C D（院）	
360131 360226	科学技術とコミュニケーション		2	1 学期 2 学期	C S C D（院）	①
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	C S C D（院）	①
360602	科学技術イノベーション政策総合演習		2	1 学期	C S C D（院）	①
211686	社会における科学技術特定演習		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	①
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	①
220521	総合演習（トランスプロフェッショナルリテラシー）		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	①
281010	サステナビリティ評価・技術論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	①
290566	科学技術移転論		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	①
310402	公共政策 I		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	①
360227	科学技術と社会特論		2	2 学期	C S C D（院）	②
220515	総合演習（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	②
221407	特定研究（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士後期）	②
250520	ライフサイエンスの倫理と公共政策		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	②
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	②
280943	ライフサイクル工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	②
281099	都市デザイン論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	② 受講制限有り
290734	ナノテクノロジー社会受容特論B		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期） （ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	②
310571	環境法		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310655	特殊研究（環境法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②
310778	特殊講義（開発と環境）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310779	特殊研究（開発と環境）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士後期）	②
311320	プロジェクト演習（科学技術とソーシャル・エンタープライズ）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310787	特殊講義（人事の経済分析1）		2	通年	国際公共政策研究科（博士前期）	②
310670	プロジェクト演習（人事の経済分析3）		2	通年	国際公共政策研究科（博士後期）	②
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	②
720307	Food Security, Globalization and Sustainability		2	1 学期	GLOCOL（院）	②
C50306	ソーシャル・イノベーション：社会ニーズを世界で学ぶ		2	不開講	全学教育推進機構（産学連携本部）（院）	②

プログラム名称	金融・保険	
プログラム実施部局	金融・保険教育研究センター	
連携部局	基礎工学研究科、経済学研究科、理学研究科、情報科学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>文部科学省特別教育研究経費（連携融合）に採択された“新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発”の実施母体として、2006年4月に発足した大阪大学金融・保険教育研究センター（CSFI）が、金融・保険に関わる学際的分野でのスペシャリストを育成することを目標とし提供するプログラムです。</p> <p>この文理融合型教育プログラムは、学内の設立母体である基礎工学、経済学、理学、情報科学研究科の4研究科と、民間および公的金融機関の連携協力のもとに提供され、（M）数理計量ファイナンスコース、（E）金融経済・工学コース、（I）インシュアランスコースの3コースで構成されています。また最先端の学術的発展をも踏まえた教育に加え、実務家教員による実務教育にも力を入れています。</p> <p>（入学年度が平成25、24、23年度の大学院生に対しては、上記（M）、（E）、（I）の3コースはさらにスタンダード（博士前期課程レベル）とアドバンスト（博士後期課程レベル）の2コースに区分されています。詳細はセンター作成の便覧をご覧ください）</p>	
履修資格・条件	大阪大学内のいずれかの大学院・研究科の修士、博士前・後期課程に在学する者（平成26年度以降の入学・進学者のみを対象とします）	
前提知識の要否・目安	提供科目ごとに異なりますので、平成27年度教育プログラム便覧でご確認ください。	
修了要件	8科目以上 (16単位相当以上)	プログラムエントリー時点から3年以内に修了要件単位を満たすこと
	上記の3つのコースごとに、各科目を、基礎科目、専門科目に分類しており、プログラムの修了要件は上記の通りです。各コースの科目の分類については、CSFIの教育プログラム便覧 [科目対応時間割表、シラバスを含む] をご覧ください。	
ホームページ 問い合わせ先等	宛先：大阪大学 金融・保険教育研究センター（CSFI） 所在地：〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3 Phone：(06) 6850-6279 Fax：(06) 6850-6092 ホームページ：www-csfi.sigmath.es.osaka-u.ac.jp E-mail：csfi-questions@sigmath.es.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	■平成27年度のプログラムガイダンスを 4月10日（金）午後6時より豊中キャンパス、法経講義棟1階1番講義室にて開催する予定です。 ■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	1・2学期とも、エントリー・出願は学際システムから、科目の履修登録は、所定の期間内にKOANまたは学際システムによって受付けます。その際、CSFI作成の冊子（パンフレット、教育プログラム便覧 [科目対応時間割表、シラバスを含む]）および上記ホームページに重要な情報が掲載されていますので、ご参考になさってください。また、休講・補講、集中講義の日程、等の最新の情報につきましても、ホームページにご注意ください。 大学院への入学年度が平成25、24、23年度の者は金融・保険教育研究センター作成の教育プログラム便覧の「平成25、24、23年度入学者適用」のページをご覧ください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
金融・保険教育研究センター作成の冊子（パンフレット、教育プログラム便覧 [科目対応時間割表、シラバスを含む]）および左記ホームページを参照。						

プログラム名称	「ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育副専攻プログラム)」 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程副専攻)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー学研究センター	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>大阪大学大学院の各部局で従来個別に実施してきた学際性の極めて強いナノサイエンス・ナノテクノロジーに関連する大学院講義を部局横断型に再編統合し、独自の講義・実習・討論科目を付加して、複数の高度学際教育プログラムを編成してあります。これらの高度学際教育プログラムの履修により、従来の専門領域に加えてナノサイエンス・ナノテクノロジーの体系化された幅広い知識と、その社会・産業への展開方法を修得させ、よって有能なナノ関連分野の基礎研究開発能力を持つ人材の育成を目的とします。</p> <p>カリキュラム構成は、ナノサイエンス・ナノテクノロジーに関わる学生が広く聴講すべき講義群を、5つのコースに分類して、これに社会におけるナノテクノロジーの活用実例や実用化における課題を講義するナノテクキャリアアップ特論(必修科目、吹田・豊中遠隔中継)、社会普及、標準化、ナノリスクを説くナノテクノロジー社会受容特論A/B(1科目選択必修、土曜開講、吹田・豊中・中之島遠隔中継)、各種産業発展のロードマップを用いた要素技術の解説と自分の専門に対するケーススタディーを行うナノテクノロジーデザイン特論A/B(1科目選択必修、土曜開講、吹田・豊中・中之島遠隔中継)を加えて、将来ナノサイエンス・ナノテクノロジー関連分野へ進む全学の学生に対して副専攻プログラムを提供します。このプログラムでは講義のみならず、主に夏期集中で部局横断的な演習、実験を含めた高度実習訓練(約30課題)を行うことと、社会人を含めた討論重視の土曜講座への参加を特徴としています。また、平成27年度より「国際ナノ理工学特論A」(欧州とのTV交換講義)を開講します。</p> <p>大学院博士前期課程の高度学際教育副専攻プログラムとして、以下の5つのコースを平成27年度に実施します。</p> <p>①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学 ②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学 ③超分子ナノバイオプロセス学 ④ナノ構造・機能計測解析学 ⑤ナノフォトンクス学</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	一般に、理工系の学部レベルの知識を要します。	
修了要件	14単位以上	本プログラム修了認定には、1つのプログラムの中から講義科目13単位(うち所属の専攻又は領域の授業科目にない講義科目7単位以上を含む)、および集中実習科目1単位以上を修得することが必要です。ただし、修得した単位(「ナノテクキャリアアップ特論」、「ナノテクノロジー社会受容特論A/B」、「ナノテクノロジーデザイン特論A/B」、いずれかの「集中実習科目」は必修科目)のうち最低7単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行ってください。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。</p> <p>ナノプログラム事務局：豊中地区 文理融合型研究棟3階303号室 メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 内線(6398) ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/</p>	
説明会の日程	<p>■ナノサイエンスデザイン教育研究センター プログラム説明会</p> <p>【豊中】平成27年4月7日(火)12時10分～12時50分 基礎工学研究科G508(G棟5階) 【吹田】平成27年4月9日(木)12時10分～12時50分 工学研究科U2-212(U棟2階) 【豊中】平成27年4月14日(火)12時10分～12時50分 理学研究科G103(G棟1階 塩見記念室)</p> <p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中)平成27年4月8日(水)11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階セミナー室1階 (吹田)平成27年4月10日(金)11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>本副専攻プログラムを申請する学生は、同時に高度副プログラム【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程)】も申請することを推奨します。これは単位不足の場合でも副プログラム(9単位)の修了は可能な場合があるからです。</p> <p>複数年度にまたがる履修を認めます。但し、2年目以降履修の場合には、ナノプログラム事務局への直接申請が必要となりますので「前期課程プログラム履修申請書」を事務局へ必ず提出してください。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290627	ナノテクキャリアアップ特論	2		1 学期	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	吹田・豊中 TV 配信
290730	ナノテクノロジー社会 受容特論 A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	* A または B は選択必修
290734	ナノテクノロジー社会 受容特論 B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290705	ナノテクノロジーデザ イン特論 A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	* A または B は選択必修
290706	ナノテクノロジーデザ イン特論 B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290735	国際ナノ理工学特論 A		1	集中	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
① ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学						
290433	理論物質科学		2	1 学期	基礎工学研究科 (博士前期)	
241256	ナノマテリアル・ナノ デバイスデザイン学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
② ナノエレクトロニクス・ナノ材料学						
280776	結晶成長工学		2	1 学期	工学研究科 (博士前期)	
240928	ナノプロセス・物性・ デバイス学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
③ 超分子ナノバイオプロセス学						
290437	マイクロ分子分光学		2	2 学期	基礎工学研究科 (博士前期)	
240929	超分子ナノバイオプロ セス学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
④ ナノ構造・機能計測解析学						
280119	極微構造解析学		2	2 学期	工学研究科 (博士前期)	
240930	ナノ構造・機能計測解 析学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
⑤ ナノフォトンクス学						
280206	光量子工学		2	1 学期	工学研究科 (博士前期)	
240931	ナノフォトンクス学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習

※上記科目は、各コースの一部の科目のみ表示していますので、その他の科目については、ナノサイエンスデザイン
教育研究センターの発行する案内冊子を確認してください。

プログラム名称	超域イノベーション副専攻プログラム	
プログラム実施部局	未来戦略機構 第一部門（超域イノベーション博士課程プログラム）	
連携部局	—	
履修対象者	修士 ・ 博士 ※下記の履修資格・条件を参照のこと	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 現代社会は様々な知識によって支えられ、科学技術の進展は社会の発展に大きく寄与しています。その一方で、知の爆発的な拡大によって専門領域は細分化され、個々の専門の中で生み出される知識だけでは、社会に新たな価値を生み出し社会の問題を解決することが難しくなっています。 そのような困難を克服するためには、高い専門力を備えながら、同時に、異質なものへの想像力をもち、既存の境域を超えた考え方にに基づき、ひとりでは成し得ないであろうイノベーションを起こすことができる人材が必要となります。 超域イノベーション副専攻プログラムでは、高度な教養に基づく知識（文化と歴史、社会のしくみ、科学と技術など）と汎用性の高い技能（表現技法、コミュニケーション力、アカデミック・スキルなど）の修得と英語などの運用能力の向上に向けて、文理統合・学生参加型の授業科目を系統的に提供します。 なお、本副専攻プログラムは、博士課程教育リーディングプログラム「超域イノベーション博士課程プログラム」（以下「超域イノベーション博士課程プログラム」）の一部の授業科目により構成されています。</p> <p>【教育目標】 (1) 社会における諸課題の解決に向けた多様な基盤を能動的学習を通じて育成します。 (2) 専門以外の様々な領域についてのモジュール学習を通じて、異分野の理解力や学習能力を向上させます。 (3) プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力など、社会での活動の基盤となる能力を育成します。 (4) 社会で求められる英語での発信能力を総合的に育成します。</p>	
履修資格・条件	<p>【履修対象】 1. 平成 27 年 4 月より、超域イノベーション博士課程プログラムを履修する学生（以下「超域イノベーション履修生」） 2. 上記 1. 以外の者で、平成 27 年 4 月又は平成 26 年 10 月に、博士前期課程又は博士課程（医、歯、薬の 4 年制課程又は生命機能研究科）に入学した者</p> <p>【定員】 超域イノベーション履修生を含み、最大 24 名程度</p> <p>【選考】 超域イノベーション履修生以外は選考の上、受講生を決定します。 詳細については、KOAN 等によりお知らせする予定です。</p>	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	14 単位以上	下記の特記事項を参照のこと。
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページ：http://www.cbi.osaka-u.ac.jp/ 未来戦略機構第一部門（超域イノベーション博士課程プログラム） 事務室 E-mail：info@cbi.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成 27 年 4 月 8 日（水） 11 時 30 分～ 13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階 (吹田) 平成 27 年 4 月 10 日（金） 11 時 30 分～ 13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>【修了要件】 (1) 必修科目①の 2 単位を修得すること。 (2) 選択必修科目①から 2.4 単位以上、また、選択必修科目②、③からそれぞれ 0.6 単位以上を修得すること。 (3) 博士前期課程の学生（生命機能研究科の 1 年次・2 年次の者を含む）にあつては、必修科目②の 2 単位を、博士後期課程・博士課程の学生にあつては、必修科目③の 2 単位を修得すること。 (4) 超域イノベーション履修生にあつては、必修科目④、⑤の単位（計 2.1 単位）を修得すること。 (5) 以上のもとで、超域イノベーション履修生にあつては、必修科目を 6.1 単位、選択必修科目を 7.9 単位以上、その他の者にあつては、必修科目を 4 単位、選択必修科目を 10 単位以上修得すること。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選必			
必修科目①：超域イノベーション・コア 【2 単位修得】						
9A0002	社会の中の科学技術	2		1 学期	未来戦略機構（院）	
選択必修科目①：超域イノベーション・知識・教養（文化と歴史／社会のしくみ／科学と技術） 【2.4 単位以上修得】						
9A0007	超域人文学・哲学		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0008	超域人文学・倫理学		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0009	超域人文学・歴史学		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0010	超域人文学・文学		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0011	超域人文学・人類学		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0012	超域社会科学・法学		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0013	超域社会科学・経済学		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0014	超域社会科学・社会学		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0015	超域社会科学・政治学		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0016	超域社会科学・経営学		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0017	超域社会科学・マーケティング		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0018	超域理工学・数学		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0019	超域理工学・物理		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0020	超域理工学・化学		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0021	超域理工学・工学Ⅰ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0022	超域理工学・工学Ⅱ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0023	超域理工学・工学Ⅲ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0024	超域生命科学・生物学		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0025	超域学際・政策論Ⅰ		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0026	超域学際・政策論Ⅱ		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0027	超域学際・法制度論		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0028	超域学際・ソーシャルセキュリティ		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0029	超域学際・シチズンシップ組織論		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0030	超域学際・ボランティア実践論		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0031	超域学際・コミュニティデザイン論		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0032	超域学際・未来学Ⅰ		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0033	超域学際・未来学Ⅱ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0034	超域学際・メディアデザイン論		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0035	超域学際・国際協力論		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
選択必修科目②：超域イノベーション・展開力（トランスファラブルスキル系） 【0.6 単位以上修得】						
9A0037	超域展開力・ワークショップⅠ		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0038	超域展開力・ワークショップⅡ		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0039	超域展開力・映像表現Ⅰ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0040	超域展開力・映像表現Ⅱ		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0041	超域展開力・アート／キュレーション		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0042	超域展開力・ライティングスキルズ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0043	超域展開力・アカデミックスキルズ		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0044	超域展開力・アントレプレナーシップ		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
選択必修科目③：超域イノベーション・展開力（研究リテラシー系） 【0.6 単位以上修得】						
9A0045	超域展開力・統計リテラシー		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0046	超域展開力・リサーチデザイン		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0047	超域展開力・フィールドワーク		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0048	超域展開力・科学コミュニケーションⅠ		0.6	不開講	未来戦略機構（院）	
9A0049	超域展開力・科学コミュニケーションⅡ		0.6	2 学期	未来戦略機構（院）	
9A0050	超域展開力・研究倫理		0.6	1 学期	未来戦略機構（院）	
必修科目②：超域イノベーション・言語 【2 単位修得】 ※博士前期課程の学生対象（生命機能研究科の1 年次・2 年次の者を含む）						
9A0051	超域アカデミックイングリッシュⅠ	1		1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0052	超域アカデミックイングリッシュⅡ	1		2 学期	未来戦略機構（院）	
必修科目③：超域イノベーション・言語 【2 単位修得】 ※博士後期課程・博士課程の学生対象						
9A0053	超域アカデミックイングリッシュⅢ	1		1 学期	未来戦略機構（院）	
9A0054	超域アカデミックイングリッシュⅣ	1		2 学期	未来戦略機構（院）	
必修科目④：超域イノベーション・リサーチスキル・ラーニング 【0.9 単位修得】 ※超域イノベーション履修生のみ履修可						
9A0063	研究室エクスプロラ	0.9		1 学期	未来戦略機構（院）	
必修科目⑤：超域イノベーション・ライフスキル・トレーニング 【1.2 単位修得】 ※超域イノベーション履修生のみ履修可						
9A0064	スポーツコミュニケーション	1.2		2 学期	未来戦略機構（院）	

平成 27 年度 各プログラム個別紹介 (高度副プログラム)

※この冊子に掲載されているプログラムは、平成 27 年度に募集を行っているプログラムの情報を掲載しています。
平成 28 年度以降に新たにプログラムの申請を行う場合は、当該年度発行の冊子をご覧ください。

平成 27 年度 高度副プログラム及び説明会予定一覧

	プログラム名称	プログラム 実施部局	履修 対象者	説明会情報			説明 ページ
				合同ガイダンス		左記以外の 開催予定 (詳細は 個別ページ 参照)	
				4 / 8 豊中	4 / 10 吹田		
1	アート・メディオロジー 入門講座—理論と実践	文学研究科	M (Dも可)	○	○		30
2	グローバル化とコンフリ クト——人間科学的アプ ローチ	人間科学研究科	M	○	○		32
3	持続可能な日本の進路を 考える—成熟期を経た省 資源・少子高齢化の日本 の安心安全な進路のデザ イン—	法学研究科	M・D	○	○		34
4	イノベーションリーダー 人材育成基礎プログラム	経済学研究科	M・D	—	—		36
5	アントレプレナーシップ (スタンダード・プログラム)	経済学研究科	M・D	○	○		38
6	基礎理学計測学	理学研究科	M・D	○	○		40
7	放射線科学	理学研究科	M・D	○	○		42
8	健康医療問題解決能力の 涵養	医学系研究科 (医科学専攻)	M・D	—	—		44
9	医療通訳	医学系研究科 (医科学専攻)	M・D	ポスター のみ	ポスター のみ		46
10	健康・医療イノベーショ ンプログラム	医学系研究科 (医科学専攻)	M・D	ポスター のみ	ポスター のみ		48
11	高度がん医療人材育成プ ログラム	医学系研究科 (保健学専攻)	M・D	—	—		50
12	看護教育・管理人材育成 プログラム	医学系研究科 (保健学専攻)	M・D	—	—		52
13	まちづくりデザイン学	工学研究科	M	ポスター のみ	ポスター のみ		54
14	高度溶接技術者プログラム	工学研究科	M・D	○	○	決定次第 HP等で通知	56
15	学際光科学	工学研究科	M・D	○	○		58
16	キャリアデザイン ～高 度な学びを活かすキャリ アパスをデザインする～	工学研究科	M・D	○	○		60
17	国際標準化	工学研究科	M・D	○	○		62
18	量子エンジニアリングデザ イン研究特別プログラム	工学研究科	M・D	○	○		64

	プログラム名称	プログラム実施部局	履修対象者	説明会情報			説明ページ
				合同ガイダンス		左記以外の開催予定 (詳細は個別ページ参照)	
				4/8 豊中	4/10 吹田		
19	データ科学	基礎工学研究科	M・D	○	○		66
20	言語情報処理の手法と展開	言語文化研究科	M・D	—	—		68
21	文化と植民地主義	言語文化研究科	M・D	—	—	4/9日(木) 実施予定	70
22	グローバルリーダーシップ・プログラム	国際公共政策研究科	M・D	ポスターのみ	ポスターのみ	決定次第 KOANで通知	72
23	科学技術文明における公共倫理とソーシャルイノベーション	国際公共政策研究科	M・D	○	○		74
24	国際協力活動における公共倫理とソーシャルイノベーション	国際公共政策研究科	M・D	○	○		76
25	東南アジアにおける平和と人間の安全保障	国際公共政策研究科	M・D	○	—		78
26	組込みシステム	情報科学研究科	M	—	—	4/4(土) 入学ガイダンスで実施 予定	80
27	大規模適応設計プログラム	情報科学研究科	M	—	—	4/4(土) 入学ガイダンスで実施 予定	82
28	感染症学免疫学融合プログラム	微生物病研究所	D	ポスターのみ	ポスターのみ	4/7(火) 実施予定	84
29	インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	国際教育交流センター	M・D	ポスターのみ	○		86
30	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：専門科	国際医工情報センター	M・D	○	○		88
31	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：高度職業人育成科	国際医工情報センター	M・D	○	○		90
32	コミュニケーションデザイン	コミュニケーションデザイン・センター	B 5,6・ M・D	○	○		92
33	公共圏における科学技術政策	コミュニケーションデザイン・センター	M・D	○	○		94
34	グローバル共生	グローバルコラボレーションセンター	B 5,6・ M・D	○	○		96

	プログラム名称	プログラム実施部局	履修対象者	説明会情報			説明ページ
				合同ガイダンス		左記以外の開催予定 (詳細は個別ページ参照)	
				4/8 豊中	4/10 吹田		
35	司法通訳翻訳	グローバルコラボレーションセンター	B 5、6・ M・D	○	○		98
36	現代中国研究	グローバルコラボレーションセンター	M・D	○	○		100
37	国連政策エキスパートの養成	グローバルコラボレーションセンター	M・D	ポスターのみ	○		102
38	グローバル健康環境	グローバルコラボレーションセンター	M・D	ポスターのみ	○		104
39	東アジアの地域環境	グローバルコラボレーションセンター	B 5、6・ M・D	○	○		106
40	環境イノベーションデザイン学	環境イノベーションデザインセンター	M・D	○	○		108
41	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(博士前期課程高度学際教育)	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	M	○	○	4/7・9・14実施予定	110
42	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(博士後期課程社会人特別選抜)	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	D	○	○	3/27(金)実施予定	112
43	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(博士後期課程教育研究訓練プログラム)	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	D	○	○	4月下旬～5月上旬実施予定	114
44	知的財産法を修得した人材育成	知的財産センター	M・D	○	○	4/1(水)20:30～中之島センター	116
45	実学主義 ～企業の視点から科学する～	産学連携本部	M・D	○	○		118
46	大阪大学未来の大学教員養成プログラム	教育学習支援センター	M・D	○	○		120

※履修対象者

B 5、6……6年制課程の学部(医学部・歯学部・薬学部)の5、6年次

M………博士前期課程・修士課程・生命機能研究科の博士課程1、2年次・法科大学院の課程

D………博士後期課程・博士課程・生命機能研究科の博士課程3年次以上

プログラム名称	アート・メディアロジー入門講座—理論と実践	
プログラム実施部局	文学研究科	
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士（博士も可）	
プログラム概要 及び教育目標	<p>「アート・メディアロジー入門講座—理論と実践」は、現代社会でアートによるプロジェクトを計画し、社会的実践に結び付けて行くスペシャリストを育成するプログラムです。アートが現代社会の諸局面で活用される機会は増えてきていますが、アートの社会的機能についての根本的な理解なしには継続的で影響力のある実践はできません。アートを社会に生かし、社会に根付いたものにするためにはただ単に実践出来るだけではなく、アートについてその必要性を社会的に説明できることも重要です。このプログラムは、そのような現代社会の多ジャンルにまたがるアートのメディアとしての役割、現代社会における意義、未来への展望について理論的・歴史的に理解を深めるとともに、インターンシップや実践的なプロジェクトに参加することで具体的なアート・プロジェクトの過程を学びます。</p> <p>【教育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> メディアとしての各アートにおける基礎的知識の習得 アートを媒介にする社会的実践能力の育成 地域社会とアートを結び付けるデザイン力の涵養 	
履修資格・条件	<p>受講資格・条件は、特にありません。</p> <p>このプログラムは、博士前期（修士）課程のプログラムですが、博士後期課程の学生も受講することができます。</p>	
前提知識の要否・目安	特にありません。	
修了要件	8単位以上	1年以内に8単位を修得してください。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>ホームページ：http://www.let.osaka-u.ac.jp/ 問い合わせ先：文学研究科教務係 Email：bunsouhaku-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p> <p>（吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	本プログラムは1年間のプログラムです。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
20C201	アート・メディア史 講義	2		1学期	文学研究科（修士）	
20C205	メディア文化論講義		2	1学期	文学研究科（修士）	
20C211	芸術環境論講義		2	1学期	文学研究科（修士）	
20C207	映像メディア論講義		2	1学期	文学研究科（修士）	
20C213	アート・プロデュース 論演習		2	1学期	文学研究科（修士）	
20C216	メディア論B演習		2	2学期	文学研究科（修士）	
20C210	実践芸術論演習		2	2学期	文学研究科（修士）	
20C203	空間メディア論講義		2	2学期	文学研究科（修士）	

プログラム名称	グローバル化とコンフリクト——人間科学的アプローチ	
プログラム実施部局	人間科学研究科	
連携部局	文学研究科、国際公共政策研究科、グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>グローバル化する現代世界では、さまざまなコンフリクト（紛争、摩擦、葛藤）が生じています。これは、先進国と発展途上国、洋の東西南北を問わない、まさにグローバルな現象であり、日本に暮らす私たちにとっても現実的な問題です。私たちは、グローバル化とコンフリクトの因果関係を探求するとともに、個別のコンフリクトが生じるナショナルおよびローカルな文脈を見極める必要があります。言い換えれば、本課題を解明するには、普遍と特殊、全体と個別のあいだを縦横に往復しつつ、考察を深めていかねばなりません。それによってコンフリクトを解決あるいは軽減するための道筋も見えてくるはずです。本プログラムは、人類学を中心としつつ関連する諸学問分野の科目の履修を通じて、グローバル化とコンフリクトという課題を総合的かつ専門的に理解し対処する能力を養うことを目的としています。</p> <p>なお、本プログラムは、21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」およびグローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文学国際研究拠点」の成果を大学院博士前期課程の教育に還元し、継承発展させるために構想されたものです。</p>	
履修資格・条件	特に資格や条件はありません。理系・文系を問わず、全学からの参加を歓迎します。特に、グローバル化、ナショナリズム、民族紛争、開発・人道援助、貧困、移民・難民、文化摩擦などの課題に関心のある学生向きのプログラムです。	
前提知識の要否・目安	特に前提知識は必要としない。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から必修科目4単位を含む8単位以上を修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	人間科学研究科人類学研究室（内線 8085）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p> <p>（吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
211631	コンフリクトの人文学特講 I	2		1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211632	コンフリクトの人文学特講 II	2		2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211719	科学技術と文化特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216008	紛争復興開発論特講 I		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211200	ジェンダー論特講		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	
211199	家族社会学特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211708	セクシュアリティと教育特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	英語
219271	ジェンダー教育学特講（B）		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	英語
211234	政治経済の人類学特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211223	比較思想史特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211222	比較文明学特講		2	集中	人間科学研究科（博士前期）	
216002	国際協力学特講 I		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	英語
216003	国際協力学特講 II		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	英語
216001	人間開発学特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
20C419	言語接触論 I 講義		2	1 学期	文学研究科（博士前期）	
311164	特殊講義（紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311259	特殊講義（African politics and conflict）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	英語
720118	Theory and Practice of Human Security and Development		2	1 学期	GLOCOL（院）	英語
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	
360133	医療人類学		2	1 学期	CSCD（院）	
360123	セーフティネット論		2	1 学期	CSCD（院）	
360141	民族誌学		2	1 学期	CSCD（院）	

プログラム名称	持続可能な日本の進路を考える ー成熟期を経た省資源・少子高齢化の日本の安心安全な進路のデザイナーー	
プログラム実施部局	法学研究科	
連携部局	国際公共政策研究科、経済学研究科、工学研究科、 グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 グローバル社会が進展する中、我が国は先進諸国に先駆けて少子高齢化社会に移行し、加えて省資源の国として、様々な社会的課題に直面しています。高度な経済成長は終焉し、私達は持続可能な社会を構築することを求められています。このような時代に、グローバル化が進む世界の中での我が国の位置を的確に把握し、先進諸国を先導するような次世代社会を設計することは喫緊の課題です。</p> <p>本プログラムでは、日本の社会構造や産業構造の変遷、世界の中の日本の強み・弱みをグローバルな視点から把握・分析し、俯瞰的・大局的な知を修得します。これらをもとに、グループ・ディスカッションを含めて、現代の日本が抱える課題を分析し、それらに対する解決法を構想・議論し、持続可能で安心・安全な日本の進路をデザインします。</p> <p>【教育目標】 グローバル化社会における、 ①産業や社会の構造の変遷を知る ②平成にいたるまでの及び現在の経済状況と課題を知る ③世界の中の日本の強みと弱みを知る ④持続可能で安心・安全な日本の進路を考え、構想することを教育目標とします。</p>	
履修資格・条件	なし。全学からの参加を期待します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は不要。様々な研究科の学生や教員と共に真摯に未来社会の設計を考えようとする学生を歓迎する。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。
ホームページ 問い合わせ先等	問い合わせ先（担当教員）： 松行輝昌（06-6850-6985, tma@celas.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項		

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
220368	国際政治学概論		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220313	労働法 1		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220339	社会保障法		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220517	総合演習（日本の進路 をデザインする）		2	集中	法学研究科（博士前期）	履修登録に 当たっては、 注を参照
C50103	日本の進路をデザイン する				全学教育推進機構（院）	
310402	公共政策 I		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311162	プロジェクト演習 （マスコミと国際公共 政策）M		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
230158	比較産業史 I		2	不開講	経済学研究科（博士前期）	
230967	経済学特論 （日本商業史 I）		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
280649	知働社会論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
232168					経済学研究科（博士前期）	
281161	科学技術と社会 ー未来を拓く科学技術 を考えるー		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
720201	グローバルコラボレー ションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	

注：授業科目「総合演習（日本の進路をデザインする）」と「日本の進路をデザインする」の授業内容は、同じである。受講生は、下記を参考にして、どちらの部局の科目を選択するか決めることを勧める。

1. 法学研究科の学生

- ①授業科目「総合演習（日本の進路をデザインする）」が、自身の修了要件科目となっているかどうか確認
- ②上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、時間割コード 220517 を履修登録する

2. 法学研究科以外の学生

- ①授業科目「総合演習（日本の進路をデザインする）」と授業科目「日本の進路をデザインする」の両方あるいはどちらかが、自身の修了要件科目となっているかどうか確認
- ②上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、修了要件科目となっている方を履修登録する

プログラム名称	イノベーションリーダー人材育成基礎プログラム	
プログラム実施部局	経済学研究科	
連携部局	医学系研究科、工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>イノベーションスピードが速まり、最先端技術の分散が著しい今日において、関連する技術を束ねて、研究開発を推進する、商品開発を企画する、事業化を模索する、といった組織的活動におけるマネジメントニーズは日増しに高まってきています。高度成長期を経て、一気に成熟期に突入した日本が、今後グローバルに競争優位なポジションを維持するには、最先端技術を融合させた技術開発を実現するイノベーションリーダーの育成が必要不可欠であり、またそうした人材のマネジメント能力を向上させていかなければなりません。</p> <p>そこで我々経済学研究科では、主に経営学系専攻において開講されている科目を、全学に高度副プログラムとして提供することを通じて、大阪大学におけるイノベーションリーダー育成の基礎を構築したいと思っています。さらに医学系研究科（MEI センター）および工学研究科（BE 専攻）とも連携を図り、プログラムとしての射程を広げていきます。</p>	
履修資格・条件	主として、理工系・医歯薬系の博士前期・後期課程在籍者、およびそれに相当する学力を有する大学院生	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	10 単位以上	本プログラムの科目から必修科目 2 単位を含む 10 単位以上を修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>ホームページ： http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/subprograms 連絡先： CMI-Info@econ.osaka-u.ac.jp</p>	
説明会の日程	特になし。	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232073	イノベーション・マネ ジメント	2		1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232003 280667	アカウントティング/ ファイナンス		2	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	
232040 280671	オペレーションズ・リ サーチ/ネジメントサイ エンス		2	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	
232042 280669	ストラテジー/マーケ ティング		2	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	
232043 280668	マネジメント・コント ロール		2	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	
250279	医薬品開発計画論		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251502	医療経済・経営入門		1	2 学期	医学系研究科（修士）	
255129	医療経営学総論		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
280645 232167	知的財産権		2	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	
280646 232173	知的財産権演習		1	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	知的財産権と セットで履修の こと
280647 232169	技術融合論		2	1 学期	経済学研究科 / 工学研究科（博士前期）	

プログラム名称	アントレプレナーシップ（スタンダード・プログラム）	
プログラム実施部局	経済学研究科	
連携部局	工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>グローバル化や ICT 化等の進展などによる社会構造の変化に伴い、自らのアイデアや技術をもとに起業し、自らの手でビジネスを展開するというアントレプレナーの社会からの需要が高まっています。アントレプレナーは、リスクを取りながら革新的なアイデアや技術をもとに新たなビジネスを起して社会に提供し、産業構造や人々のライフスタイルの変化を創出していきます。また、企業や団体などの組織の中でも新しいアイデアで新規事業を立ち上げていける人材が求められています。本プログラムではアントレプレナーに求められる起業マインドを涵養し、起業の基礎を学びます。</p> <p>【教育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 起業を巡る環境を理解する ② 起業プロセスの基礎を学ぶ ③ 実際に起業する際に必要な基礎知識を身につける ④ 起業マインドを涵養する 	
履修資格・条件	特になし。全学からの参加を歓迎します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は不要。	
修了要件	8 単位以上	本プログラムの科目から必修科目 2 単位を含む 8 単位以上。
ホームページ 問い合わせ先等	問い合わせ先（担当教員）： 松行輝昌（06-6850-6985, tma@celas.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成 27 年 4 月 8 日（水）11 時 30 分～13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>（吹田）平成 27 年 4 月 10 日（金）11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本副プログラムの受講申請は、受講ガイダンスシステム（https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/）から行うこと。 	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
232071	企業家活動	2		1 学期	経済学研究科（博士前期）	集中
237249	企業家活動特研	2		1 学期	経済学研究科（博士後期）	集中 232071 と同一
232073	イノベーション・マネ ジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232114	ベンチャービジネス 創成		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232072	ビジネスモデル論		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237235	ビジネスモデル論特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232072 と同一
280667 232003	アカウンティング/ ファイナンス		2	1 学期	工学研究科（博士前期） 経済学研究科（博士前期）	
232021	マーケティング・サイ エンス		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
237231	マーケティング・サイ エンス特研		2	2 学期	経済学研究科（博士後期）	232021 と同一
280645 232167	知的財産権		2	1 学期	工学研究科（博士前期） 経済学研究科（博士前期）	

プログラム名称	基礎理学計測学	
プログラム実施部局	理学研究科	
連携部局	産学連携本部（イノベーション部 e-square）、核物理研究センター、工学研究科、生命機能研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>様々な計測機器や分析機器は、物理、化学、生物科学、ライフサイエンス、環境科学など幅広い分野の研究において、必要不可欠なものとして用いられています。しかしながら、近年、装置がブラックボックス化し、その原理をよく理解せずに機器を利用し、得られた結果についての考察や評価を十分に行えないケースが増えてきています。また、他の誰も見たことがないようなモノを見ようとする時には既存の計測機器では不可能な場合がほとんどで、新たに機器を開発することが必要となる場合もあります。このような場合にも、測定原理などをしっかりと理解していることが必須です。</p> <p>本プログラムでは、「質量分析」、「NMR」、「X線結晶解析」、「放射線計測」、「機器制御」、「分光計測」などの分析・計測法に関して、その機器や測定の基本原理を系統的に講義形式で学ぶとともに、その技術を体得するための実習も同時に行うことを特徴とします。さらにこのような最先端計測技術の基礎となっている原理についても講義形式で学ぶことができます。このプログラムで学んだ計測技術を実際の研究に役立てられることを目指します。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。 実習形式の講義（先端的研究法、先端機器制御学、分光計測学）の中から4単位以上必ず取得すること。
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページ： http://www.prc.sci.osaka-u.ac.jp/fukuprog/ 問い合わせ先：理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター 教授 豊田 岐聡 toyodam@phys.sci.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	実習形式の講義（先端的研究法、先端機器制御学、分光計測学）の中から4単位以上必ず取得すること。 実験施設などの運転スケジュールにより受け入れ人数に制限がある。学内の施設の予定が合わない場合は学外の施設を使用することもある。 実習を伴うため、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
241201	先端的研究法：質量分析		2	集中	理学研究科（博士前期）	4 単位 選択必修
241202	先端的研究法：X線結晶解析		2	集中	理学研究科（博士前期）	
241203	先端的研究法：NMR		2	集中	理学研究科（博士前期）	
241420	先端機器制御学		2	集中	理学研究科 /e-square （博士前期）	
241421	分光計測学		2	集中	理学研究科 /e-square （博士前期）	
241446	放射線計測基礎 1		1	集中	理学研究科 / 核物理研究 センター（博士前期）	
241447	放射線計測基礎 2		1	集中	理学研究科 / 核物理研究 センター（博士前期）	
241450	放射線取扱基礎		1	集中	理学研究科 / 核物理研究 センター（博士前期）	
240752	放射線計測学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
240173	放射光物理学		2	不開講	理学研究科（博士前期）	
240176	加速器科学		2	不開講	理学研究科（博士前期）	
240751	加速器物理学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241347	孤立系イオン物理学		2	不開講	理学研究科（博士前期）	
241186	有機分光化学（I）		1	2 学期	理学研究科（博士前期）	
241185	生体分子化学（I）		1	2 学期	理学研究科（博士前期）	
241164	核化学 1（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241167	核磁気共鳴分光学（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241162	無機分光化学概論		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241453	シンクロトロン分光学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
281194	物性分析工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280697	時空間フォトンクス		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281027	レーザー分光学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
320001	基礎物理学 I		2	集中	生命機能研究科（博士）	
320011	基礎物理学実習		1	集中	生命機能研究科（博士）	受け入れ人 数制限有り

プログラム名称	放射線科学	
プログラム実施部局	理学研究科	
連携部局	核物理研究センター、医学系研究科 医学物理士(医学博士)コース、RI センター他	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>放射線計測は素粒子原子核実験を行う上で基礎的な技術であり、いままなお先進的な研究開発が行われています。しかし、それにとどまらず、最先端の医療現場や様々な分野に応用され、研究・実用において不可欠なものとなっています。本プログラムでは、基礎的な計測技術の習得から、加速器を用いた最先端の放射線科学を、実験実習を中心として習得します。</p> <p>このようなプログラムに対する期待は日本だけでなく大きな加速器施設を持たない近隣諸国でも非常に高まっています。本プログラムでは英語による講義・実験もあわせて用いる事により、実験は基本的に英語で行い、英語のみでも修了可能とします。これにより、日本国内だけでなく世界に開かれたプログラムとします。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8 単位以上	本プログラムの科目から 8 単位以上。 実験科目（放射線計測基礎 1、放射線計測基礎 2、放射線計測応用）のうち 1 つ以上を履修すること。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>ホームページ： http://www.prc.sci.osaka-u.ac.jp/fukuprog/ 問い合わせ先：核物理研究センター 教授 能町 正治 nomachi@rcnp.osaka-u.ac.jp</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中) 平成 27 年 4 月 8 日 (水) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>(吹田) 平成 27 年 4 月 10 日 (金) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>実験科目（放射線計測基礎 1、放射線計測基礎 2、放射線計測応用）のうち 1 つ以上を履修する事。実験施設などの運転スケジュールにより、受け入れ人数に制限があります。</p> <p>学内（理学研究科物理学専攻協力講座）の施設の予定が合わない場合は時期を変更、または、学外の施設を使用することもあります。実習を伴うので、学生教育研究災害傷害保険に加入しておくこと。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
241446	放射線計測基礎 1		1	集中	理学研究科／核物理研究センター（博士前期）	実験
241447	放射線計測基礎 2		1	集中	理学研究科／核物理研究センター（博士前期）	実験
241423	放射線計測応用		2	集中	理学研究科／核物理研究センター（博士前期）	実験
240752	放射線計測学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
240176	加速器科学		2	不開講	理学研究科（博士前期）	
255148	放射線診断物理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255150	高精度放射線治療		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255152	粒子線治療		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
241164	核化学 1（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241448	原子核物理基礎 1		1	不開講	理学研究科（博士前期）	
241449	原子核物理基礎 2		1	不開講	理学研究科（博士前期）	英語による講義
241450	放射線取扱基礎		1	集中	理学研究科（博士前期）	
24P031	(IPC) Nuclear Physics in the Universe		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	英語による講義
241451	放射線計測学概論 1		1	集中	理学研究科（博士前期）	
241452	放射線計測学概論 2		1	集中	理学研究科（博士前期）	英語による講義

プログラム名称	健康医療問題解決能力の涵養	
プログラム実施部局	医学系研究科医科学専攻	
連携部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>保健医療系の分野において、狭義の医学領域のみではなく、人間社会の枠組みを律する人文社会科学系の知識・技能の修得が大切です。なぜなら、わが国では少子超高齢社会を迎え、健康や医療問題が複雑化している現在、健康医療問題の解決のためには、従来の健康・医療に関する知識のみで対応することは困難であり、疫学、医学統計学、社会科学、健康科学、環境科学、経済・経営学、法学、倫理学、政策学など多面的かつ広い視点からのアプローチが必要です。</p> <p>そこで、本プログラムでは、このような様々な科目を履修者のニーズに沿って自由に選択・履修することによって、短期間で効率よく健康医療問題に対応するための知識・実践能力を高め、将来この分野のリーダーとなりうる人材の養成を目指したものです。すなわち、大阪大学の教育・研究体系の柱である文理融合教育・研究の一環として、人文社会科学領域の基礎的知識を有し、社会性、倫理性、専門性、応用力、リーダーシップを兼ね備えた均衡のとれた研究者並びに専門職業人の育成を目指します。</p> <p>本プログラムでは、ロンドン大学との共催セミナーの実施（疫学各論）、ニューヨークで活躍する国際弁護士の事例検討（医療・法・裁判）、世界で問題となる感染症（国際感染症学）、英国と日本の健康医療制度・政策の比較検討（国際健康政策学）など、国際的な視野を広げるための授業科目を充実させていることも特長です。</p>	
履修資格・条件	博士前期・後期課程在籍者	
前提知識の要否・目安	無	
修了要件	8単位以上	本プログラムの修了要件は、上記の講義科目から8単位以上を修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	http://www.msc.med.osaka-u.ac.jp/index.html 大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室 Tel:06-6879-3912 Fax:06-6879-3919	
説明会の日程	なし	
特記事項	講義の場所・日時等は、KOAN あるいはプログラム HP 上で確認してください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
250506	疫学総論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250507	疫学各論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250519	疫学調査フィールド 実習		2	通年	医学系研究科（修士）	
250520	ライフサイエンスの 倫理と公共政策		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250521	環境健康フィールド 実習		1	通年	医学系研究科（修士）	
250525	スポーツ健康医科学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250544	臨床統計疫学特論 A		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250545	臨床統計疫学特論 B		2	通年	医学系研究科（修士）	
251501	経済学・経営学の基礎 理論		1	1 学期	医学系研究科（修士）	
251502	医療経済・経営入門		1	2 学期	医学系研究科（修士）	
251505	環境健康リスク論		2	通年	医学系研究科（修士）	
251513	国際感染症学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251516	医療，法，裁判 I		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251517	医療，法，裁判 II		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251518	行動医学・健康科学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251522	死因究明学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	医療通訳	
プログラム実施部局	医学系研究科（医科学専攻）	
連携部局	人間科学研究科、医学系研究科（保健学専攻）、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、薬学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>外国人登録者は約 200 万人を越し、海外から日本に入国する外国人旅行者も増えています。外国人に対する診療の必要性が高まり、外来および入院病棟での病歴、主訴、診断告知、治療方針などの正確な説明や、手術やガン告知などのインフォームド・コンセントなど、医療現場におけるプロフェッショナルな通訳者に対するニーズは急激に増大しています。日本語のできない外国人に対して、日本人と同水準の医療を提供するためには、保健医療分野に造詣の深い通訳者の専門性が求められています。</p> <p>本プログラムでは、①医療通訳を行うための基本的な保健医療知識を学び、②医療通訳の実践のための言語とコミュニケーションの技術を身につけ、③医療通訳士の役割や倫理について理解することをめざしています。</p> <p>カリキュラムとしては、医療通訳に関する理論と実践活動の概論を選択必修科目とし、受講者の関心に応じて、言語とコミュニケーションの技術、基本的な保健医療知識が習得できます。</p>	
履修資格・条件	<p>受講資格・条件は特にありません。日本語と通訳対象となる言語に関して高度な運用能力のある人、あるいは、日本人の保健医療関係者、外国人の保健医療関係者など、医療通訳に関心のある方を歓迎します。また、病院やNGOなどにおける医療通訳コーディネーターの方などの受講も想定しています。</p>	
前提知識の要否・目安	<p>特に必要ありません。ただし、言語に関する運用能力、あるいは保健医療に関する基礎的知識のどちらかをもっていることが望ましいです。</p>	
修了要件	8 単位以上	本プログラムが指定する必修科目（4 単位）と選択必修科目を併せて 8 単位以上修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>問合せ先：（担当教員）： 史 賢林（06-6879-8302、 shi@ort.med.osaka-u.ac.jp）</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス （豊中）平成 27 年 4 月 8 日（水） 11 時 30 分～ 13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階 （吹田）平成 27 年 4 月 10 日（金） 11 時 30 分～ 13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>同一内容の科目を複数履修することはできません。 部局ないし科目の統廃合により、平成 28 年度以降は開講されない可能性のある科目も含まれますので、ご注意ください。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必須科目						
216158	多文化医療通訳概論	2		1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
250528	医療通訳実践論	2		2 学期	医学系研究科（修士）	
選択必須科目（これらの科目から 4 単位以上を選び、習得すること）						
216154	医療通訳論 I		2	集中	人間科学研究科（博士前期）	
216155	医療通訳論 II		2	集中	人間科学研究科（博士前期）	
271074	医療薬学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
360403	医療対人関係論		2	集中	C S C D（院）	
360121	臨床コミュニケーション		2	1 学期	C S C D（院）	
255133	がんの病態生理学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255134	がんの病態生理学各論		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
250004	臨床医学概論		3	1 学期	医学系研究科（修士）	
250005	集団社会医学概論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251516	医療・法・裁判 I		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251517	医療・法・裁判 II		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
251502	医療経済・経営入門		1	2 学期	医学系研究科（修士）	
250520	ライフサイエンスの倫理と公共政策		2	1 学期	医学系研究科（修士）	

プログラム名称	健康・医療イノベーションプログラム	
プログラム実施部局	医学系研究科医科学専攻	
連携部局	人間科学研究科、薬学研究科、国際公共政策研究科、医学系研究科（保健学専攻）、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>1) 健康を維持することの重要性、2) 日本の保健・医療の優れている点、さらに新たに改善していくべき課題点、3) 海外の保健・医療事情、4) 日本での医療を支え、新たに推進していくには医療専門職（医師、看護師等）のみならず、広い人材が必要であること、以上の概念を習得し、さらに、医療イノベーションに従事して実践・教育・研究に携わる社会人を、養成すべき人材像とします。</p> <p>上記人材が、未来医療の開発現場に入り、日本の新規医薬品・医療機器や医療システムの海外展開により国益・国富となりうる職種（大学におけるトランスレーショナルリサーチエキスパートや国際医療エキスパート、製薬・医療機器開発メーカー、国内外の保健・医療行政）に就く人材を養成します。</p> <p>教育内容は全学共通教育「健康・医療イノベーション学」での概論をさらに発展し、未来医療開発の各ステップにつき、そのいずれか複数の内容を掘り下げて教育を行います。また、国際医療については、国外の保健・医療情勢、システムについての研修、ビデオ、阪大医学部附属病院での実地研修も行い、「国際・未来医療エキスパート」の人材育成を行います。このような人材育成の教育プログラムは従来の大学院教育にはなく、新規です。また、日本医療の現場からの今後求められるニーズを先取りした、日本の国富・国益に沿った独創的な教育です。</p>	
履修資格・条件	なし。文系、理系を問わず、全学からの積極的な参加を期待します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は一切不要です。様々な研究科の学生や教員とともに、世界の医療、未来の医療について真摯に考えようとする学生を歓迎します。	
修了要件	8単位以上	
ホームページ 問い合わせ先等	問合せ先：（担当教員）： 史 賢林（06-6879-8302、shi@ort.med.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p> <p>（吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	部局ないし科目の統廃合により、平成28年度以降は開講されない可能性のある科目も含まれますので、ご注意ください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
216153	国際健康開発論特講	2		1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
250526	健康・医療特論	2		2 学期	医学系研究科（修士）	
250525	スポーツ健康医科学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
250262	再生医学 - 近未来の医療にむけて -		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
255183	医療政策とヘルスケアサービス		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
271075	発展途上国における感染症の現状と対策 応用環境生物学特別講義		1	不開講	薬学研究科（博士前期）	
216158	多文化医療通訳概論		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216154	医療通訳論Ⅰ		2	集中	人間科学研究科（博士前期）	
216155	医療通訳論Ⅱ		2	集中	人間科学研究科（博士前期）	
311314	特殊講義 グローバル 公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311315	特殊講義 グローバル 公共政策の倫理とイノベーション論Ⅱ		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
360134	多文化サポート概論Ⅰ		2	1 学期	CSCD(院)	
360229	多文化サポート概論Ⅱ		2	2 学期	CSCD(院)	
360403	医療対人関係論		2	集中	CSCD(院)	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL(院)	
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL(院)	
720202	多言語共生社会演習		2	集中	GLOCOL(院)	

プログラム名称	高度がん医療人材育成プログラム	
プログラム実施部局	医学系研究科(保健学専攻)	
連携部局	薬学研究科、核物理研究センター、コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>がん医療の臨床・研究を担う種々の専門職・研究者等の人材育成を行うことを目的とする。昨年まではがん医療に直接、関わる医療職者(がん医療専門医、がん医療専門医療スタッフ)が中心であったが、がん予防・疫学、医工連携がん研究、産学連携がん研究などがんの研究や予防に関わる大学院生も対象とする。さらに、がん医療の専門職は目指してはいないが、心理学、栄養学、倫理学、経済学等、がん医療に関連する領域を学ぶ学生、またがんに興味をもつ学生の受講を歓迎する。がん医療には基礎科学に基づく研究から、医療現場における実践、また、がん患者、家族を取り巻く社会的、経済的な状況も加味した対応まで様々な側面があり、幅広い教育が必要である。医学部附属病院オンコロジーセンター主催で専門医師、医療スタッフによる症例検討を行い最適の診療方針を議論する場としてキャンサーボードや研究会、セミナーなども実施しており演習科目の一部として取り扱う。本副プログラムですべてを学んでもらうことは難しいが、現状の問題点を把握して各自が興味ある点を勉強してもらいたい。</p> <p>下記の開講講義は専門性の高い講義も含まれているので、事前に担当教員に相談の上、受講されたい。</p>	
履修資格・条件	<p>①～③の条件等有</p> <p>①演習科目について受講人数の制限有(詳細はシラバス・担当教員に確認要)</p> <p>②開講場所が学外で行われる場合がある(詳細は担当教員に確認要)</p> <p>③受講者数により開講時期を変更する場合がある(詳細は担当教員に確認要)</p>	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの中から8単位以上を修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>ホームページは以下の通りです。 http://osaka.ganpro.jp/index.html 問合せ先：医学系研究科保健学専攻教務係(内線2512)または実施責任者(松浦成昭、内線2591)</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中)平成27年4月8日(水)11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p> <p>(吹田)平成27年4月10日(金)11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
255126	がん登録とがん予防		2	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255133	がんの病態生理学		2	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255134	がんの病態生理学各論		2	2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255161	臨床腫瘍学総論Ⅰ		1	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255162	臨床腫瘍学総論Ⅱ		1	2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255136	緩和医療学概論		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
360410	クリニカルサイコオン コロジーの理論と実践		2	不開講	C S C D（院）	
255142	がん看護論		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
255143	がん看護援助論		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
255144	症状緩和論		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
255149	放射線治療物理学		2	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255150	高精度放射線治療		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
255151	小線源治療		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
255152	粒子線治療		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
255153	高精度外部放射線治療 実習		4	1～2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255154	小線源・粒子線治療実習		4	1～2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255147	放射線基礎物理学		2	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255167	放射線基礎物理学実習		2	2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255148	放射線診断物理学		2	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255155	病理細胞診断学特論Ⅰ		2	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255156	病理細胞診断学特論Ⅱ		2	2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255158	病理細胞診断学実習Ⅰ		4	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255159	病理細胞診断学実習Ⅱ		4	2 学期	医学系研究科（前期課程）	
255160	病理細胞診断学実習Ⅲ		4	1 学期	医学系研究科（前期課程）	
255135	臨床がん薬理学		2	不開講	医学系研究科（前期課程）	
271162	がん治療薬体内動態解 析学特論		1	不開講	薬学研究科（前期課程）	
271161	がん治療薬品学特論		1	不開講	薬学研究科（前期課程）	
271165	がん治療薬副作用学特論		1	1 学期	薬学研究科（前期課程）	
271164	緩和医療薬学特論		1	2 学期	薬学研究科（前期課程）	
271163	がん・緩和医療評価統 計学特論		1	不開講	薬学研究科（前期課程）	

プログラム名称	看護教育・管理人材育成プログラム	
プログラム実施部局	医学系研究科（保健学専攻）	
連携部局	—	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>ライフ・スパンの延長、医療の高度化、生活環境や価値観の変化を受けて、健康課題が多様化・複雑化する時代を迎え、多方面から人々の健康と幸せを支える働きかけができる資質の高い人材の育成が急務となっています。</p> <p>看護学は、人々の生きる力を引き出し高めるために、さまざまな学問領域の知識体系を基盤として実践される総合科学です。保健医療学系のみならず、人文・社会科学を含め、専門分野の学修をめざす大学院生の皆さんが、看護への知識を深め、医療・看護の質の向上を考えることは、広くライフサイエンスに関連する諸科学での知の集積を、教育・管理を中心とした看護実践を発展させることにつながると考えています。</p> <p>本プログラムでは、医療政策、ヘルスケアシステム、質の評価についての基本的知識を学び、看護教育・看護管理について理解を深め、各人の立場で資質の高い看護実践について提言することで、看護教育・看護管理に貢献できる人材の育成を目指します。</p>	
履修資格・条件	<p>①～③の条件等有</p> <p>①演習科目について受講人数の制限有（詳細はシラバス・担当教員に確認要）</p> <p>②臨地実習科目について受講要件・人数制限有（詳細はシラバス・担当教員に確認要）</p> <p>③受講者数により開講時期を変更する場合がある（詳細は担当教員に確認要）</p>	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	
ホームページ 問い合わせ先等	問合せ先：医学系研究科保健学専攻教務係（内線 2512）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成 27 年 4 月 8 日（水）11 時 30 分～13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>（吹田）平成 27 年 4 月 10 日（金）11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>本プログラムでは、プログラム申請から 2 年以内に 8 単位を修得してください。</p> <p>ただし、看護師免許を有する人は、修了要件単位数に受講要件に応じた臨地実習科目 4 単位を含むことが望ましい。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
255183	医療政策とヘルスケア サービス		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255191	看護教育・管理論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255192	看護基礎教育展開論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255141	看護管理・政策論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255125	看護管理科学特論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255137	看護理論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255140	看護教育論		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255184	看護基礎教育展開演習		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255185	臨地実習教育展開演習		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	一部集中
255186	看護教育・管理基礎実習		2	集中	医学系研究科（博士前期）	臨地実習
255187	看護実践能力開発実習		2	集中	医学系研究科（博士前期）	臨地実習
255188	看護現任教育実践実習		2	集中	医学系研究科（博士前期）	臨地実習
255189	看護管理実践実習		2	集中	医学系研究科（博士前期）	臨地実習

プログラム名称	まちづくりデザイン学	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 本教育プログラムにおいては、まちづくりにおいて必要とされる、「かたち」「しくみ」「こころ」の形成のあり方に関するデザイン力を、生活の質の向上、産業の活性化、社会サービスの効果的な提供などの視点を組み込み、養うことを目指します。そのため、主に居住まちづくり、交通まちづくり、環境まちづくり系の諸科目を基礎として学び、具体の地域・まちづくりデザインにおいて、これらの要素を総合化するという授業体系を備えています。</p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現実のまちが抱えている問題発見と課題抽出能力の養成 ②まちづくりデザインを構成する各分野における基礎的知識の習得 ③課題解決のための各分野における実践技術の習得 ④各分野における個別デザイン能力の養成 ⑤具体の地域における総合的デザイン能力の養成 	
履修資格・条件	特段設定せず。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	本プログラムの科目から8単位以上。
ホームページ 問い合わせ先等	工学研究科地球総合工学専攻 助教 猪井博登（いのいひろと） inoi@civil.eng.osaka-u.ac.jp 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 TEL：06-6879-7609 FAX：06-6879-7612	
説明会の日程	高度副プログラム合同ガイダンスに出展を予定していますので、そちらで情報収集をして下さい。 (参考) ◆豊中キャンパス 日時：平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 場所：基礎工学国際棟1階 セミナー室 ◆吹田キャンパス 日時：平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 場所：産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	まちづくりにおいて必要とされる、「かたち」「しくみ」「こころ」の形成のあり方に関するデザイン力を、生活の質の向上、産業の活性化、社会サービスの効果的な提供などの視点を組み込み、養うことを目指します。そのため、主に居住まちづくり、交通まちづくり、環境まちづくり系の諸科目を基礎として学び、具体の地域・まちづくりデザインにおいて、これらの要素を総合化するという授業体系を備えています。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
280096	環境行動論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280190	交通システム分析論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280658	都市・地域再生論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280845	共生都市環境論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280846	共生環境デザイン論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280907	交通・地域計画論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280968	地域施設整備論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281099	都市デザイン論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281110	社会空間デザイン論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281180	建築マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281193	集落・都市のコンテクスチャ ルデザイン		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
360107	リノベーションまちづくりデ ザイン		2	1 学期	C S C D（院）	
360234	まち・みちづくり概論		2	2 学期	C S C D（院）	

プログラム名称	高度溶接技術者プログラム	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	接合科学研究所	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>溶接技術は、素材から製品の組み立てに至るものづくり基盤技術の中核として、あらゆる製造分野で活用されています。溶接の原理は、アークやレーザーなどの熱源によって、材料局部を溶かしてつなぐことですが、急速な加熱・冷却は溶接部分の強度や耐食性などを劣化させ、同時に変形や残留応力発生の原因にもなります。</p> <p>従って、製品品質や安全性を確保するためには、溶接の前後工程の適切な処理や品質検査を実施する必要があります。溶接技術は未だ完成された技術ではなく、製品に応じた適正な溶接継手を作るためには、溶接施工に関わる技術者の知識・経験が不可欠であることが、国際標準 ISO14731「溶接技術者の任務と責務」にも明記されています。</p> <p>本プログラムでは、ものづくり分野で必要とされている高度溶接技術者の育成に向けて、溶接プロセス・機器、材料・溶接性、溶接構造物の力学、溶接施工管理に関する知識を修得できるよう体系化しています。</p>	
履修資格・条件	<p>学生教育研究災害傷害保険に加入していること。(大阪大学学生は全員加入することになっています。)</p>	
前提知識の要否・目安	<p>IWE ディプロマ資格(終身資格)の取得を目指す方は、工科系4年制大学卒以上の学歴が必要です。資格取得を目指さない方は、特に前提知識は必要ありません。不明な点等があれば、問合せ先にお尋ね下さい。</p>	
修了要件	10単位以上	<p>本プログラムの科目から10単位以上。ただし、溶接プロセス学特論、ジョイニングプロセス特論Ⅱ、構造化設計学、溶接施工管理論Ⅰの4科目8単位は必修。</p> <p>※本プログラムの修了に必要な単位(必修の4科目8単位を含めて10単位以上)と各自の所属研究科の専攻の修了に必要な単位との重複は認められます。ただし、所属する専攻の修了に必要な最低修得単位数以外に最低4単位は、本プログラムの単位として修得する必要があります。</p>
ホームページ 問い合わせ先等	<p>http://www.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/mmsiwe/index.html 工学研究科マテリアル生産科学専攻 教授 平田 好則 hirata@mapse.eng.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6879-7554 同専攻 助教 高原 渉 takahara@mapse.eng.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6879-7534</p>	
説明会の日程	<p>合同説明会とは別に、個別での説明会も行いますが、その日程・場所等は、決まり次第、ホームページ等で通知します。</p> <p>■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>本プログラムを修了したのち、製造業に就職し、溶接・生産関連技術者としての経験を4年以上つむとともに、より実的な知識の修得に努めると、国際溶接学会(IIW)から発行され、世界に通用する国際溶接技術者(International Welding Engineer) IWE ディプロマ資格の取得につながります。</p> <p>授業のなかで一部、実習・演習を学外で行う場合があります。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
280791	構造化設計学	2		2 学期	工学研究科（博士前期）	
280950	ジョイニングプロセス特論 II	2		2 学期	工学研究科（博士前期）	
281134	溶接プロセス学特論	2		2 学期	工学研究科（博士前期）	
281135	溶接施工管理論 I	2		2 学期	工学研究科（博士前期）	
281136	溶接施工管理論 II		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281137	溶接施工管理論 III		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280949	ジョイニングプロセス特論 I		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280789	加工物理学 I		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280329	先端構造評価論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280792	構造化評価学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280115	機能材料学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280245	材料機能化設計学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280951	接合プロセスメタラジー論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280780	材料加工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280761	機械材料学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280348	弾塑性学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280965	構造体強度論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280901	応用鋼構造学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280228	鋼構造設計工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280652	材料創成論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	

専門外で授業についていけないか不安に思われる方へ

本プログラム「高度溶接技術者プログラム」の各開講科目は相当専門的といえます。しかし、「溶接」は、もともと学際的な分野で、これまでも、専門の異なる教員同士が協力して教育を行ってきました。よって、専門外の方で、授業についていけないか不安に思われる方でも、少しでも興味があれば、気楽に問合せ先に御連絡ください。可能であれば、個別に、各人の動機や専門分野、学習環境等を伺った上でアドバイスできれば、と考えています。

プログラム名称	学際光科学	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	理学研究科、基礎工学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>光科学は情報探索手段としてだけでなく、エネルギー創生、通信、デバイス、加工、医療などの分野で重要な役割を担っています。そのため、光科学は様々な分野、コミュニティとの連携が可能な学際型科学としての性質があります。一方、大阪大学では基礎研究から産業応用に至る各分野で、光に関する優れた研究が数多く行われています。本プログラムではこの特色を生かして、光科学の学際的専門性を身につけるための授業科目を提供します。さらに、研究開発のブレイクスルーに関する講演やそのためのコミュニケーション力、リーダーシップ力などに関する授業科目も取り入れています。</p> <p>本プログラムは、光科学に関する幅広い専門性を有し、複眼的な視野から光科学の研究開発のブレイクスルーを成し遂げられる研究者および職業人の育成を目標とします。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	前提知識不要	
修了要件	8単位以上	本プログラムの定めるカテゴリ「先端光」、「光物性」、「ナノフォトニクス」、「パワーフォトニクス」、「光の応用」、「計測・分光」、「社会人基礎力」のうち、2つ以上のカテゴリ（「社会人基礎力」は除く）から合計8単位以上の単位を修得することとします。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>光科学センター 担当：安食 博志（あじき ひろし） TA 棟 802 号室 内線 4453 メールアドレス：ppc@ppc.osaka-u.ac.jp ホームページ：http://www.ppc.osaka-u.ac.jp/fuku-puro/ 電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名を記載して下さい。</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成 27 年 4 月 8 日 (水) 11 時 30 分～13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階 (吹田) 平成 27 年 4 月 10 日 (金) 11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	複数年度にまたがる履修、博士前期課程と後期課程にまたがる履修を認めます。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
286254	先端レーザー工学特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
240173	放射光物理学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
280960	量子光工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
240172	光物性物理学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
280578	光物性・光エレクトロニクス		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
290370	汎分光		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290554	先端物質設計論		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
241256	ナノマテリアル・ナノデバイス デザイン学		1	集中	理学研究科（博士前期）	
280466	非線形光学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280601	量子光電子工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
290434	微小物質光学応答		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290238	量子エレクトロニクス		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
280494	分子光電デバイス		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
290565	先端微小物質科学特論		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290437	マイクロ分子分光学		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
280820	レーザープラズマ物理学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
240174	極限光物理学		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
280959	プラズマフォトンクス		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280815	パワーフォトンクスシステム		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280873	量子ビーム化学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280957	凝縮応用物理学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280825	核融合工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280035	レーザープラズマ工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280827	レーザー応用理工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280874	レーザーエネルギー工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280203	光波電子工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280840	光電波伝送工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
290581	光波・マイクロ波工学		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290558	環境光化学		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
280576	光学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280760	光マイクロ機械計測学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
290479	科学計測学		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
241162	無機分光化学概論		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241167	核磁気共鳴分光学（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
241186	有機分光化学（I）		1	2 学期	理学研究科（博士前期）	
280649	知価社会論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281141	インターンシップ・オン・キャンパス		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
240192	量子多体系の物理		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
240209	素粒子・核分光学特論		2	1 学期	理学研究科（博士前期）	
290279	物性基礎理論Ⅱ		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	

プログラム名称	キャリアデザイン ～高度な学びを活かすキャリアパスをデザインする～	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	基礎工学研究科、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 本プログラムにおいては、大学院での学びを通して得られる「高度専門知識と研究能力」の意味と価値を考え、得た高度専門知識と研究能力を「どのように職業に活かして行くか」について、先行する人々の多様なケースを学びつつ考え、議論します。加えて、高度な学びを通して身につけた知識・能力を、各自が就く職業において大いに発揮し活躍するのに必要な能力について、企業や組織の最前線で活躍する方々の講話と議論を通して学びます。これらを通して、将来のキャリアを考えた「受講生各自の学びのデザイン」を行います。</p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「大学院での高度専門知識と研究能力の涵養」の意味と価値を考え・知る ② 「大学院で涵養した高度専門知識と研究能力」の職業への活かし方を考え・知る ③ 職業人として必要な能力を涵養する ④ 自らの「価値」獲得目標を明確にし、自身の「キャリアをデザイン」する 	
履修資格・条件	特になし。ただし大学院における高度な学びの意味と職業への接続について、教員、講師と受講生と共に、真剣に考え議論する意欲を持つ学生の受講を期待します。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	「キャリアデザイン」副プログラム構成科目群(7科目)から複数の科目を受講し、2年間で8単位以上を修得すること。
ホームページ 問い合わせ先等	問い合わせ先(担当教員): 松行輝昌(06-6850-6985, tma@celas.osaka-u.ac.jp)	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p> <p>(吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	本副プログラムの受講申請は、学際融合教育受講ガイダンスシステム(https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/)から行うこと。 集中講義科目の開講日程については、別途 KOAN 等で掲示する。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
C50405	現代キャリアデザイン 特論		2	1 学期	全学教育推進機構 (TLSC) (院)	
C50102	学際科目（高度な学び の意味を考える）		2	集中	全学教育推進機構（院）	
290712	高度な学びの職業への 接続を考える		2	集中	基礎工学研究科（博士前期）	本年度不開講
281161	科学技術と社会 ー未来を拓く科学技術 を考えるー		2	集中	工学研究科（博士前期）	
280649	知価社会論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281141	インターンシップ・オン・ キャンパス		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
084030	総合科目Ⅲ（キャリア デザイン）		2	1 学期	工学部	

プログラム名称	国際標準化	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	国際公共政策研究科、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 本プログラムにおいては、様々な領域において進められているグローバルスタンダード化（国際標準化）について、日本の成長の鍵となる「国際ビジネス」と標準化の関わりについて広く学ぶことを通して「国際標準化」の意義について理解し、次に「学協会や企業活動」における具体的な標準化の取組みを学び、標準化への取組みにおいて極めて重要な役割を果たす「知的財産権」に関する知を修得し、標準化案を、複数の国の利害を超えて合意形成しまとめるプロセスにおいて大きなウエイトを占める「交渉力」について実践を交えて身につける。</p> <p>【教育目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「標準化」について、「国際ビジネス」における重要性と、「国際標準化」を策定する機関や仕組みについて学び・理解する。 ② 「国際標準化」を進める際に重要となる「知的財産権」について学び、標準化との関係を理解する。 ③ 「学協会・企業活動」での具体的な国際標準化の取組みを学び・理解する。 ④ 上記学びを通して、「国際標準化」について相当の知識を有し、グローバルに活躍できる標準化マインドを持った学生を輩出し、将来のリーダーとしての資質を備えさせる。 	
履修資格・条件	特に無し。ただし、グローバルスタンダード化（国際標準化）について、教員、講師と受講生と共に、真剣に学び考え議論する意欲を持つ学生の受講を期待する。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に要しない。グループ討論等への積極的に取り組むマインドが必要	
修了要件	8 単位以上	「国際標準化」副プログラム構成科目群から複数の科目を受講し、2 年以内に選択必修科目 1 科目（2 単位）を含む 8 単位以上を修得すること
ホームページ 問い合わせ先等	問い合わせ先（担当教員）： 松行輝昌（06-6850-6985, tma@celas.osaka-u.ac.jp） 上西啓介（06-6879-4078, uenishi@mit.eng.osaka-u.ac.jp）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成 27 年 4 月 8 日（水）11 時 30 分～13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>（吹田）平成 27 年 4 月 10 日（金）11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>本副プログラム受講希望者は、受講登録に先立ち、本プログラム実施教員（松行輝昌もしくは上西啓介）に下記事項を送付のこと。</p> <p>氏名（ふりがな）、学籍番号、電話番号、メールアドレス、履修希望科目名と科目コード。その際、件名を「高度副プログラム履修登録」として下さい。なお、連絡が無い場合は履修できません。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
281158	国際ビジネスと標準化	2		集中	工学研究科（博士前期）	注
C50101	学際科目（国際ビジネスと標準化）	2		集中	全学教育推進機構（院）	注
280645	知的財産権		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280646	知的財産権演習※ 1		1	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280649	知価社会論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
310983	プロジェクト演習（ネゴシエーション I）M		2	集中	国際公共政策研究科（博士前期）	
W-1517	情報通信と国際標準化		2	2 学期	早稲田大学 国際情報通信研究科	部局間で単位互換協定を締結済み。遠隔講義で開講
W-1518	企業ビジネスと国際標準化		2	1 学期	早稲田大学 国際情報通信研究科	
280641	テクノロジーデザイン論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280642	テクノロジーデザイン演習※ 2		1	2 学期	工学研究科（博士前期）	
286209	テクノロジーデザイン特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	

※ 1 必ず知的財産権とセットで履修すること。演習のみの受講は認められない。

※ 2 必ずテクノロジーデザイン論とセットで履修すること。演習のみの受講は認められない。

注：授業科目「国際ビジネスと標準化」と授業科目「学際科目（国際ビジネスと標準化）」の授業内容は、同じである。受講生は、下記を参考にして、どちらの科目を選択するか決めることを勧める。

1. 工学研究科の学生

① 授業科目「国際ビジネスと標準化」が、自身の修了要件科目となっているかどうか確認

② 上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、「国際ビジネスと標準化」を履修登録する

③ 上記①で、修了要件科目となっていない場合

a. 授業科目「国際ビジネスと標準化」を選択すると、【知のジムナスティクス（高度教養プログラム）】科目として単位が認定されない。

b. 授業科目「学際科目（国際ビジネスと標準化）」を選択すると、【知のジムナスティクス（高度教養プログラム）】科目として単位が認定される。

2. 工学研究科以外の学生

① 授業科目「国際ビジネスと標準化」と授業科目「学際科目（国際ビジネスと標準化）」の両方あるいはどちらかが、自身の修了要件科目となっているかどうか確認

② 上記①で、修了要件科目となっている場合で、修了要件単位修得のために履修したい場合は、修了要件科目となっている方を履修登録する

③ 上記①で、修了要件科目となっていない場合

両方ともに【知のジムナスティクス（高度教養プログラム）】科目になっており、どちらを選択しても、本副プログラムの修了要件単位となる。

プログラム名称	量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム	
プログラム実施部局	工学研究科	
連携部局	理学研究科、情報科学研究科、基礎工学研究科、産業科学研究所、超高压電子顕微鏡センター、アトミックデザイン研究センター、高度人材育成センター	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム（QED-C）在籍の留学生を対象とした国際教育プログラムを、高度副プログラムとして開講しています。英語での講義やゼミナールを通じ、教員、留学生、日本人学生が交流することにより、グローバル化の進む研究機関や企業で活躍できる国際的な視野を持った研究者の育成を目指します。	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	初等量子力学の知識のある方が望ましい。	
修了要件	8単位以上	
ホームページ 問い合わせ先等	量子エンジニアリング研究特別プログラム事務局： 工学研究科精密科学・応用物理学専攻 Tel：06-6879-7857 e-mail：staff@dyn.ap.eng.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
241168	化学反応論（I）		1	1 学期	理学研究科（博士前期）	
280118	極限精密加工学特論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280461	半導体物性論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280476	表面・界面物性		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280478	表面原子制御特論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280485	物性基礎理論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280488	物性物理		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280498	分子電子工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280571	近接場ナノ工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280601	量子光電子工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280651	機能創成デザイン論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280769	量子材料物性論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280772	界面制御工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280797	ナノプラズマ工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280939	解析力学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281217	計算機ナノマテリアルデザイン チュートリアル I		1	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281218	計算機ナノマテリアルデザイン チュートリアル II		1	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281073	計算科学特論 I		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281164	量子シミュレーション特論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281198	核融合物理学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
286050	計算物理特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286060	原子制御プロセス特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286081	材料物性学特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286128	超精密加工学特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286141	表面物性特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286146	物性物理特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286209	テクノロジーデザイン特論		2	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286262	先端集積エレクトロニクス工学 特論		2	1 学期	工学研究科（博士後期）	
286350	計算機ナノマテリアルデザイン チュートリアル III		1	2 学期	工学研究科（博士後期）	
286351	計算機ナノマテリアルデザイン チュートリアル IV		1	1 学期	工学研究科（博士後期）	
290433	理論物質科学		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290623	固体力学特論		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290624	計算力学特論		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
331205	数値情報解析		2	2 学期	情報科学研究科（博士前期）	
333202	情報非線形数理学		2	2 学期	情報科学研究科（博士後期）	

プログラム名称	データ科学	
プログラム実施部局	基礎工学研究科	
連携部局	経済学研究科、人間科学研究科、医学系研究科、工学研究科、理学研究科、情報科学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>データ科学には定まった定義はありませんが、データ科学をデータが関わる研究を行う学問と考えるならばその守備範囲は広大です。大学は学問の府ですから、データが重要な役割を果たす実証研究に直結する研究のデザインやデータのハンドリングの方法（統計手法）の習得が、データ科学の中でも、肝要です。本副プログラムは、こういった意味でのデータ科学の実践的かつ包括的な教育コースを提供します。実証研究のデータ科学を身に付けた修了生は、実社会でもデータに関わる実務においてそのスキルを十分に活かすことができるようになります。</p> <p>各専攻においても基本的なデータ処理の教育はなされています。しかし、それらは十分でない場合が多いように思います。実際、実証研究を中心に行う専攻では、自身の研究テーマに直結するデータ分析の手続きはよくトレーニングされていますが、データ分析の基礎的な事柄の理解は危うく、状況が変化すると適切に分析できなくなることがあります。一方、数理統計学やデータ科学の基礎を学ぶ専攻では、実際のデータ分析を体験したり批判を受けたりすることは少なく、統計手法の応用上の意味や分析の困難さを学ぶ機会は少ないのではないのでしょうか。本副プログラムはこのような問題意識に鑑み、下記の目的をもって開設します。なお、主専攻とは受講生自身が所属する専攻を指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ科学の基本的な考え方と統計手法の数理的基礎を理解する ・主専攻の研究分野に直結する統計手法を体系的に学ぶ ・主専攻でない分野におけるデータ科学を知り学際的な視点を養う ・最新の統計手法に関する情報を得る ・データ科学の教育における課題を発見し教育方法の改善に資する <p>本プログラムには5つのコースがあります。コースを修了するためには、コースごとに指定された選択必修科目と選択科目から、それぞれ、6単位ならびに2単位以上、合計10単位以上を修得する必要があります。統計検定（日本統計学会公式認定）の受験を推奨します。</p> <p>主専攻に関わるコースにおいても他専攻の講義がいくつか配してあり、それらの履修を勧めます。さらに、主専攻とは異なる視点でデータ科学を観るため、他専攻のコース修了を推奨します。多くの異なった分野における固有の技術や概念を学習しデータ科学の観点からそれらを見つめ直すことは、学際的・俯瞰的な視野の醸成に資すると期待します。</p> <p>なお、本プログラムは文部科学省 平成24年度採択 大学間連携共同教育推進事業の取組「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」の活動の一環として実施されます。</p>	
履修資格・条件	統計関連科目を受講していること。研究や実務等において実データ解析を行った経験があることが望ましい。	
前提知識の要否・目安	統計検定2級対応「統計学基礎」東京図書のレベルを基準とします。データ解析環境Rの経験があったほうがよいでしょう。	
修了要件	10単位	
ホームページ 問い合わせ先等	http://www.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/~Estat/subprogram.html 西田 豊：nishida@sigmath.es.osaka-u.ac.jp 狩野 裕：kano@sigmath.es.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	なし	

構成科目

構成科目：統計数理コース、主要担当部局：基礎工学研究科

時間割コード	授業科目名	単位数		開講学期	開講部局（課程）	備考
		選必	選択			
290724	データ科学特論Ⅰ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290729	データ科学特論Ⅱ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	偶数年度開講
290350	統計的推測	2		2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290157	多変量解析	2		2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290352	時系列解析		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290346	確率解析		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290590	確率微分方程式		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
211689	行動統計科学特講Ⅱ		2	1学期	人間科学研究科（博士前期）	心理統計法
240033	統計・情報数学概論		2	1学期	理学研究科（博士前期）	

データ科学特論Ⅰとデータ科学特論Ⅱは隔年開講（夏季集中）
選必修科目から6単位以上、選択科目から2単位以上、合計10単位以上を修得すること

構成科目：機械学習コース、主要担当部局：工学研究科

時間割コード	授業科目名	単位数		開講学期	開講部局（課程）	備考
		選必	選択			
290724	データ科学特論Ⅰ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290729	データ科学特論Ⅱ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	偶数年度開講
280834	データマイニング工学	2		2学期	工学研究科（博士前期）	
290349	統計解析	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
280653	リスク評価論		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
331220	知能と学習		2	1学期	情報科学研究科（博士前期）	
290728	統計モデリング		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290020	データ解析		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290723	数理特論Ⅱ		2	1学期	基礎工学研究科（博士前期）	非常勤

データ科学特論Ⅰとデータ科学特論Ⅱは隔年開講（夏季集中）
選択必修科目から6単位以上、選択科目から2単位以上、合計10単位以上を修得すること

構成科目：人文社会統計学コース、主要担当部局：人間科学研究科

時間割コード	授業科目名	単位数		開講学期	開講部局（課程）	備考
		選必	選択			
290724	データ科学特論Ⅰ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290729	データ科学特論Ⅱ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	偶数年度開講
211688	行動統計科学特講Ⅰ	2		2学期	人間科学研究科（博士前期）	多変量データ科学
211187	経験社会学特講	2		2学期	人間科学研究科（博士前期）	
211689	行動統計科学特講Ⅱ		2	1学期	人間科学研究科（博士前期）	心理統計法
210646	計量社会学特講		2	1学期	人間科学研究科（博士前期）	偶数年度開講
211261	教育動態学特講		2	2学期	人間科学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290157	多変量解析		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
230722	標本調査		2	2学期	経済学研究科（博士前期）	奇数年度開講

データ科学特論Ⅰとデータ科学特論Ⅱは隔年開講（夏季集中）
選必修科目から6単位以上、選択科目から2単位以上、合計10単位以上を修得すること

構成科目：保健医療統計学コース、主要担当部局：医学系研究科

時間割コード	授業科目名	単位数		開講学期	開講部局（課程）	備考
		選必	選択			
290724	データ科学特論Ⅰ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290729	データ科学特論Ⅱ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	偶数年度開講
255005	保健情報論	2		1学期	医学系研究科（博士前期）	
250283	医学統計学特論B	2		2学期	医学系研究科（博士前期）	
250269	医学統計学応用		2	不開講	医学系研究科（博士前期）	
250276	臨床試験デザイン基礎		2	2学期	医学系研究科（博士前期）	
250284	観察研究の統計的方法		2	1学期	医学系研究科（博士前期）	
280653	リスク評価論		2	1学期	工学研究科（博士前期）	
211688	行動統計科学特講Ⅰ		2	2学期	人間科学研究科（博士前期）	多変量データ科学
211689	行動統計科学特講Ⅱ		2	1学期	人間科学研究科（博士前期）	心理統計法

データ科学特論Ⅰとデータ科学特論Ⅱは隔年開講（夏季集中）
選必修科目から6単位以上、選択科目から2単位以上、合計10単位以上を修得すること

構成科目：経済経営統計学コース、主要担当部局：経済学研究科

時間割コード	授業科目名	単位数		開講学期	開講部局（課程）	備考
		選必	選択			
290724	データ科学特論Ⅰ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290729	データ科学特論Ⅱ	2		1学期	基礎工学研究科（博士前期）	偶数年度開講
230017	エコノメトリックスⅠ	2		1学期	経済学研究科（博士前期）	
211688	行動統計科学特講Ⅰ	2		2学期	人間科学研究科（博士前期）	多変量データ科学
232020	統計解析		2	1学期	経済学研究科（博士前期）	
230018	エコノメトリックスⅡ		2	2学期	経済学研究科（博士前期）	
232021	マーケティング・サイエンス		2	2学期	経済学研究科（博士前期）	
230722	標本調査		2	2学期	経済学研究科（博士前期）	奇数年度開講
290157	多変量解析		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290020	データ解析		2	2学期	基礎工学研究科（博士前期）	

データ科学特論Ⅰとデータ科学特論Ⅱは隔年開講（夏季集中）
選必修科目から6単位以上、選択科目から2単位以上、合計10単位以上を修得すること

プログラム名称	言語情報処理の手法と展開	
プログラム実施部局	言語文化研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>情報メディアとしてのパーソナルコンピュータ、インターネットの普及により、文書・資料の電子化が急速に進み、デジタル化されたテキストの量は爆発的に増大しています。これにともない、膨大な自然言語データの中から有益な情報を効率的に抽出するための情報マイニング技術の開発が学界のみならず産業界においても求められています。大規模な自然言語データを分析・活用するためには、従来の言語学、文献学の理論・方法論に加え、情報工学、数理統計学、行動科学など関連領域の知見を統合した学際的なアプローチが必要となります。</p> <p>そこで、本プログラムでは、コーパス構築・分析と言語データの数理解析を二本の柱として、それぞれの基礎理論と応用実践の方法論を有機的に組み合わせて教授します。コーパス構築・分析に関しては、コーパスデザインに関する理論や、言語資料の電子化・構造化に関する基礎論から言語データ電子化のため国際共通規格である TEI (Text Encoding Initiative;) などについて学びます。さらに、自然言語データを処理するためのプログラミングや、言語処理ツールを駆使する技法を習得します。言語データの数理解析に関しては、データ解析のための統計数理モデルに関する講義を行うとともに、実践的なコーパス分析から解析結果の視覚化 (Visualization) 技術を応用する演習を行います。当プログラムが提供するコースワークを通して、受講生は、膨大な自然言語データの中から自分や社会のニーズに合致した情報の鉱脈を掘り当て活用する高度な言語情報処理能力を修得できるでしょう。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	
ホームページ 問い合わせ先等	言語文化研究科大学院係（豊中キャンパス） TEL 06（6850）5856 メールアドレス genbun-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	—	
特記事項	プログラムに該当する授業の内容は、KOAN のシラバスと各授業の第 1 回目にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
300311	コーパス言語学研究 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300312	コーパス言語学研究 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300315	コーパス言語学研究 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300316	コーパス言語学研究 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300349	コーパス言語学研究 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300350	コーパス言語学研究 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	

<該当授業と講師、その第1日目の授業日・場所の予定>

コーパス言語学研究 A	岩根 久	水曜 3 限	4 / 1 5	「CALL セミナー室」
コーパス言語学研究 B	岩根 久	水曜 3 限	1 0 / 7	「CALL セミナー室」
コーパス言語学研究 A	田畑智司	水曜 4 限	4 / 1 5	「言語情報処理 LL システム室」
コーパス言語学研究 B	田畑智司	水曜 4 限	1 0 / 7	「言語情報処理 LL システム室」
コーパス言語学研究 A	三宅真紀	水曜 5 限	4 / 1 5	「言語情報処理 LL システム室」
コーパス言語学研究 B	三宅真紀	水曜 5 限	1 0 / 7	「言語情報処理 LL システム室」

(注) 「CALL セミナー室」はサイバーメディアセンター豊中教育研究棟 4 階マルチメディアセミナー室、「言語情報処理 LL システム室 (307 室)」は言語文化 B 棟 3 階です。

プログラム名称	文化と植民地主義	
プログラム実施部局	言語文化研究科	
連携部局	文学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>近代植民地主義の開始は、15世紀末の大航海の時代にさかのぼるとされていますが、とくに18世紀以降、旧大英帝国をはじめとするヨーロッパ諸帝国による植民地支配が拡大し、世界各地の言語文化に大きな影響を与えてきました。日本文化もその例外ではありません。また、20世紀に入ってからアメリカ合衆国が世界の主導権を握り、近年ではグローバリゼーションの問題が大きく浮上してきましたが、これらの動きも以上のような近代植民地主義と無関係ではありません。</p> <p>一方、世界各地の植民地が次々と独立を果たした20世紀後半からは、エドワード・サイードの『オリエンタリズム』（1978年）をはじめ、旧植民地の人々の視点から、植民地主義の歴史やその文化的な影響を批判的に検討する一方、旧植民地における活発な文化活動に着目する研究、すなわちポストコロニアル研究が力強く進められてきました。</p> <p>本プログラムは、このようなポストコロニアル研究の成果を踏まえ、ポストコロニアル理論とその関連理論、旧植民地やその先住民の言語文化、植民地主義にかかわる西欧と日本の文化、また、これらの前提となる「文化」の概念などを検討することにより、受講生の理論的な理解力や、各種の言語文化に対する分析力を高めることを目的としています。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	大学生レベルの英文の読解力が必要	
修了要件	8単位以上	対象科目を履修して8単位以上取得すること。
ホームページ 問い合わせ先等	言語文化研究科大学院係（豊中キャンパス） TEL 06（6850）5856 メールアドレス genbun-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	個別ガイダンス 4月9日（木） 12時10分～13時00分 豊中キャンパス 言語文化研究科A棟2階 小会議室	
特記事項	プログラムに該当する授業の内容は、KOANのシラバスと各授業の第1回目にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
300237	現代超域文化論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300238	現代超域文化論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300235	現代超域文化論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300236	現代超域文化論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300213	言語文化変容論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300214	言語文化変容論 B		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
300386	言語文化理論研究 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300387	言語文化理論研究 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
202924	英文学作品研究演習		2	1 学期	文学研究科（博士前期）	
202920	英文学作品研究演習		2	2 学期	文学研究科（博士前期）	

プログラム名称	グローバルリーダーシップ・プログラム	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>地域医療や政治から環境、開発、人権や国際紛争まで、公共に関わる困難な問題は、原因と影響がグローバルに広がっています。このプログラムは、連携分野を通じた社会学連携を最大限に活用しつつ、国際機関、行政機関、外交、政治、企業、NGOで実際にリーダーとして活躍してきた人材を講師に迎え、グローバルな課題に取り組むリーダーシップに必要とされる考え方と方法を身につけることを目的とします。</p> <p>このプログラムの教育理念は、「学び合う。社会と学ぶ」です。参加者には上記目標を達成するための「場」と「機会」が与えられます。対話的授業（ソクラテックメソッド）、ケーススタディ、他大学との合同模擬事例演習、合宿、音楽家とのコラボなど、参加者の主体性を引き出す教育方法も魅力です。</p> <p>よきリーダーシップのためには継続的練習（習慣づけ）が重要です。そこで、企業やNPOとの連携により、プログラムの修了生、卒業生や一般市民に対して、気づきと学習の連鎖をうながすような課外教育プログラムも提供していきます。</p>	
履修資格・条件	<p>科目によっては、事前課題の提出、受講者人数の上限が定められる場合があり、正当な理由なく遅刻欠席をしないことが単位取得要件とされる場合があります。</p> <p>それぞれの科目ごとの受講要件は、シラバスを参照してください。</p>	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	必修科目「リーダーシップを考える」及び「実践グローバルリーダーシップ」を含み、全体で8単位以上履修すること。
ホームページ 問い合わせ先等	国際公共政策研究科（OSIPP）GLP事務局（野村研究室） 【E-mail】 glp@osipp.osaka-u.ac.jp（GLP事務局） 【TEL】 06-6850-5629（直通） 【FAX】 06-6850-5629（直通）	
説明会の日程	■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房 ※個別の説明会については、決定次第 KOAN の掲示板で通知します。	
特記事項	<p>2学期開講の「経営者と語るリーダーシップ」、「リーダーシップを考える」の履修のためには、1学期開講の「実践グローバルリーダーシップ」や「リーダーシップデザイン」の受講をすすめます。</p> <p>その他については各講義のシラバスを参照してください。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
310119	プロジェクト演習 (リーダーシップを考える)	2		2 学期	国際公共政策研究科 (博士前期)	
311127	プロジェクト演習 (実践グローバルリーダーシップ)	2		1 学期	国際公共政策研究科 (博士前期)	
311075	プロジェクト演習 (リーダーシップデザイン)		2	1 学期	国際公共政策研究科 (博士前期)	
310983	プロジェクト演習 (ネゴシエーション1)		2	1 学期	国際公共政策研究科 (博士前期)	
310984	プロジェクト演習 (ネゴシエーション2)		2	2 学期	国際公共政策研究科 (博士前期)	
311444	特殊講義 (経営者と語るリーダーシップ)		2	2 学期	国際公共政策研究科 (博士前期)	

プログラム名称	科学技術文明における公共倫理とソーシャル・イノベーション	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	コミュニケーションデザイン・センター（C S C D）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>本プログラムは、大阪大学大学院国際公共政策研究科が設置する「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション（稲盛財団）寄附講座」の一環として、「科学技術文明」に関わる倫理的な諸課題（生命・医療倫理、環境倫理、情報倫理、等）について多角的に学習するものです。ここで言う「公共倫理とソーシャル・イノベーション」とは、国際社会及び国内社会のさまざまな課題の解決において実現されるべき公共的価値について、それが社会にとって適切な変革を生み出していくプロセス（「ソーシャル・イノベーション」の構想）を考察し、そうした社会変革に携わる人々がもつべき責任感や倫理観について究明（「公共倫理」の実践）するものです。</p> <p>本プログラムは、必修科目たる総論科目、各人の関心に従い受講する各論科目及び公共的諸課題と日本との関係を考える「まとめ科目」から構成されます。</p> <p>高度な科学技術は人類に恩恵をもたらすとともに、その制御を誤ったときにもたらされる惨害は人類の手に余るものとなり得ます。そのため、本プログラムでは、現代世界の直面する具体的な課題を発見し、その課題の本質を見極める目を養うとともに、高度な倫理観をもってその解決にあたり、よりよい文明・世界・社会を構築するためのイノベーション（革新）を実現できるイノベーター（革新をリードする人材）の育成を目指します。</p>	
履修資格・条件	資格や条件はありません。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目（2単位）と選択科目を合わせて8単位以上取得することが必要です。
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページアドレス http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inamori/ 問い合わせ先 e-mail : kyomu@osipp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>（豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p> <p>（吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
311314	特殊講義（グローバル 公共政策の倫理とイノ ベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	①第2・3週
311330	特殊研究（グローバル 公共政策の倫理とイノ ベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科 （博士後期）	①第2・3週
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	CSCD（院）	
360131 360226	科学技術とコミュニ ケーション		2	1 学期 2 学期	CSCD（院）	※
360428	科学技術コミュニケー ション理論と実践		2	1 学期	CSCD（院）	集中講義
310878	国際公共政策のための 法律学		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311167	演習（核兵器と国際 関係）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311317	特殊講義（ソーシャル・ イノベーションとデザ イン思考）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311320	プロジェクト演習（科 学技術とソーシャル・ エンタープライズ）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	隔週講義
311075	プロジェクト演習 （リーダーシップデザ イン）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311365	特殊講義（公共倫理を 考えるⅠ）		2	1 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311366	特殊講義（公共倫理を 考えるⅡ）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
360139 360232	コミュニケーションデ ザインのいろは		2	1 学期 2 学期	CSCD（院） 豊中キャンパス CSCD（院） 吹田キャンパス	※ 隔週講義

①は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに担当している。

※は、同じ内容なので履修する場合、いずれか1科目のみ登録すること。

プログラム名称	国際協力活動における公共倫理とソーシャル・イノベーション	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>本プログラムは、大阪大学大学院国際公共政策研究科が設置する「グローバルな公共倫理とソーシャル・イノベーション(稲盛財団) 寄附講座」の一環として、「グローバルな公共政策」の諸課題(平和と安全、外交・政治、開発と環境・エネルギー、人権と人道、多文化共生、等)の解決に向けた対応や協力のあり方について、公共倫理とソーシャル・イノベーションの観点から、学習するものです。ここで言う「公共倫理とソーシャル・イノベーション」とは、国際社会及び国内社会のさまざまな課題の解決において実現されるべき公共的価値について、それが社会にとって適切な変革を生み出していくプロセス(「ソーシャル・イノベーション」の構想)を考察し、そうした社会変革に携わる人々がもつべき責任感や倫理観について究明(「公共倫理」の実践)するものです。</p> <p>本プログラムは、必修科目たる総論科目、各人の関心に従い受講する各論科目及び公共的諸課題と日本との関係を考える「まとめ科目」から構成されます。主たる教育目標は、現代世界の直面する具体的な課題を発見し、その課題の本質を見極める目を養うとともに、高度な倫理観をもってその解決にあたり、よりよい文明・世界・社会を構築するためのイノベーション(革新)を実現できるイノベーター(革新をリードする人材)の育成を目指します。</p>	
履修資格・条件	資格や条件はありません。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目(2単位)と選択科目を合わせて8単位以上取得することが必要です。
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページアドレス http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inamori/ 問い合わせ先 e-mail : kyomu@osipp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
311314	特殊講義（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	①第 2・3 週
311330	特殊研究（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅰ）	2		1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	①第 2・3 週
311315	特殊講義（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅱ）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②第 2・3 週
311331	特殊研究（グローバル公共政策の倫理とイノベーション論Ⅱ）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②第 2・3 週
311316	特殊講義（人間の安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	集中講義
310014	国際安全保障論		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310013	国際連合システム論		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	③集中講義
310629	特殊研究（国際連合システム論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	③集中講義
310412	経済開発論		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	不開講
310016	国際人権法		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	集中講義
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	※
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（院）	※
311082	特殊講義（武力紛争法の基本問題）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311301	特殊講義（国際人道法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	不開講
311319	プロジェクト演習（グローバル公益と日本）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	④
311333	プロジェクト演習（グローバル公益と日本）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	④
311350	特殊講義（民主化論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	⑤
311354	特殊研究（民主化論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	⑤
311351	特殊講義（政策評価のための定量的手法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	⑥集中講義
311353	特殊研究（政策評価のための定量的手法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	⑥集中講義
311352	特殊講義（身体文化論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	集中講義
360139	コミュニケーションデザインのいろは		2	1 学期	CSCD（院） 豊中キャンパス	※隔週講義
360232				2 学期	CSCD（院） 吹田キャンパス	

①～⑥は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに担当している。

※は、それぞれ同じ内容なので履修する場合、いずれか 1 科目のみ登録すること。

プログラム名称	東南アジアにおける平和と人間の安全保障	
プログラム実施部局	国際公共政策研究科	
連携部局	薬学研究科、人間科学研究科、言語文化研究科、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>東南アジア諸国と日本のこれからのあるべき関係は、過去の歴史から教訓を学び、文化・価値の多様性を尊重しつつ、同時代の問題に共感と連帯をもって取り組むことで、共同の未来を構築していくという関係です。そのために、東南アジアの固有の歴史や社会制度について学ぶとともに、同地域社会が直面する今日的諸課題—平和構築・平和共生、社会開発、保健衛生、多文化共生などを人間の安全保障という観点から総合的に理解することが求められます。本プログラムは、平和と人間の安全保障という概念の基本を学びつつ、それを東南アジアというフィールドにおいて具体的に理解するのに資する基礎知識、理論、フィールドワーク及びインターンシップに関する科目群を提供します。</p> <p>本プログラムは、日本学術振興会平成23年度大学の世界展開力強化事業に採択された『『アジア平和＝人間の安全保障大学連合』を通じた次世代高品位政策リーダーの育成』推進の一環として設置するもので、同事業下で連携する東南アジア5大学との学生交流を念頭におき、本学学生の東南アジアに対する関心を高めると同時に、平和と人間の安全保障の普及・推進の担い手となる若い人材を育成することを教育目標としています。</p>	
履修資格・条件	資格や条件はありません。	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する選択必修科目2単位と選択科目を合わせて8単位以上取得することとします。選択必修科目は、できる限り最初に履修してください。
	<p>(注1) 選択必修科目群から1科目のみを履修してください。</p> <p>(注2) 選択科目群Bの受講は4単位を上限とします。</p> <p>(注3) 「海外インターンシップⅡ」の履修は、「海外インターンシップⅠ」を履修済みであることを条件とします。</p>	
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページアドレス http://peace-hs.osipp.osaka-u.ac.jp/index.html 問い合わせ先 e-mail : kyomu@osipp.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階</p>	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
選択必修科目						
311318	特殊講義（東南アジアの平和と人間の安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	① 10.11 月開講
311332	特殊研究（東南アジアの平和と人間の安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	① 10.11 月開講
311164	特殊講義（紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	②
311181	特殊研究（紛争研究概論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	②
311316	特殊講義（人間の安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
選択科目群 A						
310014	国際安全保障論		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310006	国際関係論		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310412	経済開発論		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310016	国際人権法		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	集中
311265	特殊講義（地域統合）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311355	国際関係論の理論と方法		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311357	特殊研究（国際関係論の理論と方法）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	
271075	発展途上国における感染症の現状と対策		1	不開講	薬学研究科（博士前期）	
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	※
720159	国際協力を現場から考える（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	GLOCOL（院）	※
216069	地域秩序論特講Ⅰ（グローバル化時代の中国と国際社会）		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216070	地域秩序論特講Ⅱ（人間の安全保障と地域研究）		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	
219271	ジェンダー教育学特講（B）		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	隔年開講
219708	セクシュアリティと教育特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	隔年開講
選択科目群 B						
305493	アジア言語社会動態論Ⅶ A（インドネシア・イスラーム史研究）		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
305494	アジア言語社会動態論Ⅶ B（インドネシア・イスラーム史研究）		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
216063	超域地域論特講Ⅰ（法と法文化の地域研究）		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216064	超域地域論特講Ⅱ（医療と文化の地域研究）		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216058	地域創成学特講Ⅱ（東アジア諸国のコミュニティと福祉）		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
305165	アジア言語社会構造論Ⅱ A（東南アジア大陸部における少数民族と宗教）		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
216152	グローバル人間学実践英語特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720106	海外インターンシップⅠ		1	1 学期	GLOCOL（院）	
720107	海外インターンシップⅡ（A）		1	1 学期	GLOCOL（院）	
721107	海外インターンシップⅡ（B）		1	2 学期	GLOCOL（院）	
720509	海外フィールドスタディ A		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720510	海外フィールドスタディ B		2	2 学期	GLOCOL（院）	

①～②は、同じ科目を博士前期・博士後期それぞれに担当している。

※は、同じ内容なので履修する場合、いずれか1科目のみ登録すること。

プログラム名称	組込みシステム	
プログラム実施部局	情報科学研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士（博士前期課程 1 年生） ※他学年の希望者は問い合わせてください。	
プログラム概要 及び教育目標	<p>本高度副プログラム「組込みシステム」は、大阪大学の大学院生に対して、近年注目を集めている組込みシステムを理解、構築するために必要となる教育を提供します。現代は、身の回りのさまざまなところでコンピュータが使用されている時代です。我々は、意識している意識していないに関わらず、日々多数のコンピュータを利用しています。組込みシステムは、マイクロコンピュータが組込まれた専用のシステムで、アンビエント時代には不可欠な技術となります。本プログラムでは、組込みシステムを理解するために必要となる理論を理解するとともに、演習では組込みプロセッサを実際に動作させ、その構造とそのプロセッサの上でソフトウェアがどのように動作するのかを理解します。</p> <p>本プログラムを履修することで、以下の内容を理解できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> －組込みシステムの概要 －ハードウェア／ソフトウェア・コデザイン －組込みプロセッサ設計 －組込みシステム設計 －LSI 設計手法 －高信頼設計手法 	
履修資格・条件	博士前期課程 1 年生（他学年の希望者は担当者まで問い合わせてください。） ※応募者が多数の場合は、担当者で選考し、受講生を決定します。	
前提知識の要否・目安	コンピュータにおけるプログラムの動作について基礎的な知識を有すること。	
修了要件	8 単位以上	指定された授業科目より 8 単位以上修得してください。ただし、専攻の修了に必要な最低単位数以外に最低 4 単位は、本プログラムの単位として修得する必要があります。
ホームページ 問い合わせ先等	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻 武内 良典 准教授 電話：06-6879-4521 FAX：06-6879-4524 E-mail: takeuchi@ist.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	平成 27 年 4 月 4 日（情報科学研究科入学ガイダンス時に実施） 他研究科の学生は、問い合わせ先に連絡してください。	
特記事項	特になし	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
331401	システムレベル設計手法		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331402	VLSI 設計論		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331408	コンカレントシステム		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331420	ディペンダブルシステム		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331419	応用集積システム		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331404	計算機援用設計論		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	隔年開講
331413	情報システム工学演習 I	2		1 学期	情報科学研究科（博士前期）	
331325	コンピュータサイエンス基礎論		2	1 学期	情報科学研究科（博士前期）	
331525	情報ネットワーク学基礎論		2	2 学期	情報科学研究科（博士前期）	
331305	ソフトウェア開発論		2	2 学期	情報科学研究科（博士前期）	

プログラム名称	大規模適応設計プログラム	
プログラム実施部局	情報科学研究科	
連携部局	—	
履修対象者	修士（博士前期課程1年生） ※他学年の希望者は問い合わせてください。	
プログラム概要 及び教育目標	<p>本高度副プログラムは、産学連携に基づいた高度なソフトウェア技術の普及を目的として、近年注目を集めているクラウドコンピューティング技術を中心に、プロジェクトマネジメント、ソフトウェア開発技術について学びます。複数人の学生でチームを組んで実施する演習や分散環境で行うソフトウェア開発演習を通じて、実践的なソフトウェア開発技術を学びます。先ず、クラウドシステムの開発のための基礎知識、プロジェクト管理やプレゼンテーション、ソフトウェア開発プロセスについての基盤技術を学びます。次に、夏休み期間の合宿で、簡単なクラウドシステムの開発やクラウドの応用技術等を学びます。最後に、ビッグデータ分析、ビジネスモデルの提案といったクラウド技術の活用演習を行います。</p> <p>授業は主に金曜日の2限～5限に中之島センターで実施されます。夏休み期間の合宿（クラウド基礎PBLとクラウド開発応用）は7月～9月に集中講義で実施される予定です。</p>	
履修資格・条件	博士前期課程1年生（定員は12名程度）（他学年の希望者は事務局まで問い合わせてください。） ※応募者が多数の場合は、事務局で選考し、受講者を決定します。	
前提知識の要否・目安	プログラミングの経験があること	
修了要件	8単位	
ホームページ 問い合わせ先等	enP iT事務局 (B 511) 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-5 電話：06-6879-4395 FAX：06-6879-4649 Email: cloud-spiral-info@ist.osaka-u.ac.jp http://cloud-spiral.enpit.jp/	
説明会の日程	平成27年4月4日（情報科学研究科入学ガイダンス時に実施）	
特記事項	詳細については、事務局まで問い合わせてください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
331332	クラウド開発基礎	2		1 学期	情報科学研究科（博士前期）	集中
331335	クラウド基礎 PBL	1		1 学期	情報科学研究科（博士前期）	集中
331334	クラウド開発応用	1		1 学期	情報科学研究科（博士前期）	集中
331336	クラウド発展 PBL	2		2 学期	情報科学研究科（博士前期）	集中
331333	クラウド開発演習	2		通年	情報科学研究科（博士前期）	集中

プログラム名称	感染症学免疫学融合プログラム	
プログラム実施部局	微生物病研究所	
連携部局	医学系研究科・免疫学フロンティア研究センター	
履修対象者	博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>新型インフルエンザといった新興感染症や社会的に影響の大きい AIDS やマラリア等の感染症の治療法の開発には、宿主側の免疫応答の理解が欠かせません。また、近年、常在微生物による免疫系に対するインパクトが自己免疫疾患の発症に大きく寄与していることも分かってきており、こうした免疫系疾患の治療法の開発には微生物と宿主の相互作用の理解が不可欠です。こうした背景から、従来別個の学問として発展してきた感染症学と免疫学の両方に精通している研究者の育成が喫緊の課題となってきました。</p> <p>本高度副プログラムでは、そのような研究者の養成を目指して、微生物病研究所・免疫学フロンティア研究センター・医学系研究科という感染症学、免疫学のトップレベルの研究者が多数集積している有利な環境を最大限に生かした教育を行います。感染症学と免疫学の分野の第一線の講師陣が、(1) 基本概念のレクチャーと (2) 関連する領域の重要な文献に関するディスカッションという2つを1ユニットとして、プログラムを展開し、この領域で、指導的な役割を果たせる研究者の育成を実践的に行います。</p>	
履修資格・条件	広く生物学・医学の研究に携わっている大学院博士（後期）課程学生	
前提知識の要否・目安	大学教養課程程度の生物学の知識がある方が望ましい。	
修了要件	10 単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは2年間の課程です。受講開始は、偶数年度・奇数年度（西暦）のどちらからでも可能です。 ・「感染症学免疫学融合プログラム 1、2」及び「アドバンスプログラム 1、2」は全て必修です。
ホームページ 問い合わせ先等	大阪大学微生物病研究所 感染症学免疫学融合プログラム推進室 E-mail: suishin@biken.osaka-u.ac.jp Tel: 06-6879-8320	
説明会の日程	<p>■個別ガイダンス 日時：平成27年4月7日（火）実施予定</p> <p>■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
25DP01	感染症学免疫学融合プログラム1	4		通年	医学系研究科（博士）	偶数年度（西暦）のみ開講
25DP02	感染症学免疫学融合プログラム2	4		通年	医学系研究科（博士）	奇数年度（西暦）のみ開講
25DP03	アドバンスプログラム1	1		通年	医学系研究科（博士）	偶数年度（西暦）のみ開講
25DP04	アドバンスプログラム2	1		通年	医学系研究科（博士）	奇数年度（西暦）のみ開講

プログラム名称	インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	
プログラム実施部局	国際教育交流センター	
連携部局	言語文化研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっています。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もあります。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものです。</p> <p>本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考えます。これらの過程を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養することが本プログラムの目標です。</p> <p>提供科目の中で、言語の学習・教育やコミュニケーションに関心がある人は、「言語コミュニケーション論」を、書記言語コミュニケーションに関心がある人は、「言語技術研究」を受講することを勧めます。また、言語政策、政治・社会に関心を持つ人は、「言語文化教育論」、「言語文化政策論」を受講することを勧めます。</p>	
履修資格・条件	<p>特に資格等はありませんが、異文化への関心が高い人もあまり関心を持たない人も歓迎します。また、現在、異文化の人とのコミュニケーションに問題を感じている人や、将来多文化的な環境の中で生活する可能性や必要性を感じる人も、受講していただきたいと思います。なお、どの授業においても、受講者同士のディスカッションを歓迎します。また、受講者は自身の専門分野について、他の受講者に対し、可能な限り明確に、かつ平易に説明することが求められます。</p>	
前提知識の要否・目安	専門的な前提知識は特に必要としません。	
修了要件	(原則として1年で) 8単位以上	対象科目を履修して8単位以上取得すること。
ホームページ 問い合わせ先等	http://www.ciee.osaka-u.ac.jp 学生交流推進課 (kokusai-gakusei-ryugakusei@office.osaka-u.ac.jp 内線 3127 または 06-6879-7118)	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (吹田) 平成 27 年 4 月 10 日 (金) 11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p> <p>■各授業の初日において、オリエンテーションを行うため、受講希望者は、履修希望の授業の初日にできるだけ出席すること。</p>	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
300255	言語コミュニケーション論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300256	言語コミュニケーション論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300267	言語技術研究 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300268	言語技術研究 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300281	言語文化教育論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300282	言語文化教育論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300217	言語文化政策論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300218	言語文化政策論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	

プログラム名称	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム： 専門科	
プログラム実施部局	国際医工情報センター	
連携部局	医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、情報科学研究科、全学教育推進機構、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>高度先進医療福祉社会を築くことは、我が国の緊急課題です。そのためには、新規融合科学である「臨床医工学・情報科学融合領域」の社会に適合した発展が必須であり、決定的に不足しているこの領域の人材を育成することが急務です。</p> <p>本プログラムは、大学院修士・博士課程学生を対象に、最先端の工学・情報科学と医学・医療の双方に精通し、社会ニーズ・医療ニーズ・患者ニーズを理解した医療技術者など、この領域の高度技術者を育成することを目的とします。具体的には、次の3つの専門コースと1群の共通科目、および入門科目を設定し、必要なカリキュラムを専門コースごとに構成します。</p> <p>(1) バイオメディカルインフォマティクスコース (2) バイオマテリアル学コース (3) 高度診断治療工学コース</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	9 単位以上	①1つのコースの中から、講義科目8単位以上、および②演習科目から1単位以上を修得すること。ただし、①については、8単位のうち4単位以上は所属研究科外（医学系研究科においては医科学専攻と保健学専攻は別研究科とみなします。）の講義科目とします。入門科および共通科の授業科目については、コース修了要件としてはそれぞれ2単位までを認定します。
ホームページ 問い合わせ先等	詳細はMEIセンターホームページをご覧ください。 http://www.mei.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
国際医工情報センター作成の冊子（履修手引）および本センターホームページに掲載のシラバスを参照						

プログラム名称	臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム： 高度職業人育成科	
プログラム実施部局	国際医工情報センター	
連携部局	経済学研究科、医学系研究科、薬学研究科、コミュニケーションデザイン・センター（C S C D）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>臨床医工学・情報学分野の職業のプロフェッショナル教育を目指し、次の4つのコースを構成します。</p> <p>(1) クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース 「患者からはじまる医療」の確立を志向し、高い倫理観とコミュニケーション力、高度の専門的知識と技能、豊富な経験と実践力を兼ね備え、質の高い臨床研究を計画・遂行できる、良質な臨床研究専門家（臨床試験専門医、医学統計家、データマネージャー、臨床研究コーディネーターなど）の育成を目標とします。さらに、国際共同臨床試験への参画などを踏まえて、人材の国際性についても配慮し、これらの教育・指導にあたる担当者の育成を目標とします。</p> <p>(2) 分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース 医学、歯学、薬学、理学、工学、情報科学の学術的複合領域である分子イメージングの分野において、先端的知識を活用できる研究者、医師、歯科医師、薬剤師、医療技術者、企業研究者、治験計画立案者などを養成すると共に、プロフェッショナルな人材育成を目的とします。</p> <p>(3) 予測社会医学プロフェッショナル育成コース 医療環境を改善するために新しいシステムを適用しようとするとき、システム導入による影響をシミュレーションし、その結果をふまえてシステムを修正し、現場に応用します。さらにはシステム運用の結果として生じた影響を検証し問題点を克服するためのシステム修正を行います。このようなプロセスが、より良い医療システムの構築には必須です。このコースでは、公衆衛生学・実験経済学・基礎統計学を基本的に理解し、それらを融合した医療経済学を、実践的研究を通じて学ぶ場を提供します。</p> <p>(4) 医工連携がん研究プロフェッショナル育成コース がんの診断・治療の向上のためには工学の知識・技術を医療に応用する医工連携研究が必須です。本コースは医工連携教育によりがんの先端的な基礎的・臨床的研究を推進する理工系の人材を養成するものです。理工系の各専門分野の知識・技術に加えて、がんに関する基礎および臨床医学について学ぶことにより、領域横断的な研究者が養成され、新たな医療機器、医療材料、医薬品の開発や情報科学、数理統計学の医療への応用をめざした人材の育成をめざします。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	(1) クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース:10単位以上	基礎コア科目から6単位、専門コア科目から4単位以上を修得すること。副科目は修了要件科目に含めないが、コースの内容に関連するので、必要に応じて履修すること。
	(2) 分子イメージング創薬プロフェッショナル育成コース:11単位以上	必修科目7単位、選択科目から4単位以上を修得すること。
	(3) 予測社会医学プロフェッショナル育成コース:11単位以上	必修科目7単位、選択科目から4単位以上を修得すること。
	(4) 医工連携がん研究プロフェッショナル育成コース:10単位以上	必修科目6単位、選択科目から4単位以上を修得すること。
ホームページ 問い合わせ先等	詳細はMEIセンターホームページをご覧ください。 http://www.mei.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	特になし。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
国際医工情報センター作成の冊子（履修手引）および本センターホームページに掲載のシラバスを参照						

プログラム名称	コミュニケーションデザイン	
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
連携部局	文学研究科・グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）	
履修対象者	学部5、6年次・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>高度専門教育を受ける大学院学生に対して、その専門性の社会的意義を自覚させ、社会から信頼される専門家としての素養を与えるための、コミュニケーション能力の育成を図ります。</p> <p>本プログラムでは、文系、理工系、医科学系の大学院生の混成による教育を基本とし、異なる専門性のあいだの相互理解、自らの専門性の特質の理解、社会とのコミュニケーションの必要性の理解の獲得を目指します。またプログラムを通じて、インタラクティブな講義や実習、各種ワークショップ形式を組み込み、座学による知識の習得とは異なる観点からの教育を行います。</p> <p>本プログラムの基礎科目として「コミュニケーションデザインのいろは」(注1)を必修とし、多様な分野で求められる知的表現・プレゼンテーション（コミュニケーション）の基礎的スキルを与えるとともに、「コミュニケーションデザイン」という考え方を習得します。</p> <p>その上で、選択必修科目として6単位以上を修得します。ここでは、多様な領域におけるコミュニケーションデザインを実践的に学ぶことが期待されています。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	<p>(注1) 平成25年度まで開講していました「メディア技法と表現リテラシー」(プログラム基礎科目：必修)は平成26年度より「コミュニケーションデザインのいろは」に名称が変更しました。</p> <p>平成25年度以前の高度副プログラム申請者で「メディア技法と表現リテラシー」を修得していない場合は「コミュニケーションデザインのいろは」を履修してください。また既に「メディア技法と表現リテラシー」を修得している場合は、「コミュニケーションデザインのいろは」を履修できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部5、6年次生は、プログラムが指定する科目のうち、学部生が受講できる科目の中から、必修科目「コミュニケーションデザインのいろは」(2単位)を含む合計8単位以上を修得することが必要です。 大学院生は、プログラムが指定する全ての科目の中から、必修科目「コミュニケーションデザインのいろは」(2単位)を含む合計8単位以上を修得することが必要です。 文学研究科開講の科目については、備考欄に指定する担当者の授業のみ該当します。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>問い合わせ先：全学教育推進機構等事務部大学院係 Tel:06-6850-6214 E-mail: zenkyo-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp ホームページ：http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p> <p>■CSCD 提供科目の第1回目の授業の際に、各担当教員が説明を行います。</p>	
特記事項	<p>本プログラムの修了に必要な単位と所属専攻の修了に必要な単位との重複が認められるかどうかは、研究科・学部によって異なります。履修希望者は、事前に指導教員や所属研究科の大学院担当窓口には必ず相談してください。</p> <p>平成28年度はCSCD科目の大幅な改定の可能性がありますので、履修希望科目があれば、できる限り平成27年度の履修を勧めます。</p> <p>平成27年度より「領域横断・演劇創作ゼミナール」が必修科目(発展科目)から選択必修科目に変更されます。これに伴い、平成26年度以前の高度副プログラム申請者についても、プログラム修了要件が変更されますので、必修科目「コミュニケーションデザインのいろは」(2単位)を含む8単位以上を修得してください。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360139 360232	コミュニケーションデザインのいろは	2		1 学期 2 学期	C S C D (学部 5, 6・院)	
360501 360502	領域横断・演劇創作ゼミナール		2	1 学期 2 学期	C S C D (学部 5, 6・院)	
360131 360226	科学技術とコミュニケーション		2	1 学期 2 学期	C S C D (院)	
360428	科学技術コミュニケーションの理論と実践		2	1 学期	C S C D (院)	
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360130	科学技術イノベーション政策概論		2	1 学期	C S C D (院)	
360227	科学技術と社会特論		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360121	臨床コミュニケーション		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360122	ヒューマンコミュニケーション		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360128	認知症コミュニケーション A		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360224	認知症コミュニケーション B		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360221	身体コミュニケーション		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360403	医療対人関係論		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360123	セーフティネット論		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360410	コミュニケーションの理論と実践		2	不開講	C S C D (学部・院)	
360133	医療人類学		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360141	民族誌学		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360422	支縁コミュニケーション		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360411	アート・プロジェクト入門 I		4	通年	C S C D (学部・院)	
360412	アート・プロジェクト入門 II		4	1 学期	C S C D (学部・院)	
360207	アート・アーカイブズ概論		2	不開講	C S C D (学部・院)	
360103 360204	パフォーミングアーツの世界		2	1 学期 2 学期	C S C D (学部・院)	
360302 360218	文理融合創造ゼミナール		4	1 学期 2 学期	C S C D (院)	
360308	アート・プロデュース論演習		2	1 学期	C S C D (院)	
360136	放送のプロフェッショナルと社会を考える		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360234	まち・みちづくり概論		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360142	まち・みちづくり特論 I		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360424	まち・みちづくり特論 II		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360425	まち・みちづくり特論 III		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360427	まち・みちづくり演習 I		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360423	まち・みちづくり演習 II		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360426	まち・みち交流実践論		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360416	観光まちづくり学実践論		2	不開講	C S C D (学部・院)	
360134	多文化サポート概論 I		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360229	多文化サポート概論 II		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360107	リノベーションまちづくりデザイン		2	1 学期	C S C D (院)	
360219	Global Threats and Sustainability		2	2 学期	C S C D (院)	
360228	世界観の歴史		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360125	市民のための世界史 S		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
360135	私と世界の遠近法		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360137	対話技法論 I		2	1 学期	C S C D (院)	
360230	対話技法論 II		2	2 学期	C S C D (院)	
360127	思考の活動とメディア I		2	1 学期	C S C D (院)	
360223	思考の活動とメディア II		2	2 学期	C S C D (院)	
360414	サウンド・オブ・ミュージック		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360413	Frontier of Sustainability Science		2	1 学期	C S C D (院)	
360138	文化資源学入門		2	1 学期	C S C D (学部・院)	
360231	文学と社会		2	2 学期	C S C D (学部・院)	
200512	臨床哲学講義		2	1 学期	文学研究科 (博士前期)	浜渦辰二
200513	臨床哲学演習		2	2 学期	文学研究科 (博士前期)	浜渦辰二
200521	倫理学演習		2	不開講	文学研究科 (博士前期)	
204152	デザイン論講義		2	1 学期	文学研究科 (博士前期)	藤田治彦
209152	デザイン論特殊講義		2	2 学期	文学研究科 (博士後期)	藤田治彦
20C211	芸術環境論講義		2	1 学期	文学研究科 (修士)	富岡三智
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	G L O C O L (学部・院)	
720202	多言語共生社会演習		2	1 学期	G L O C O L (学部・院)	

プログラム名称	公共圏における科学技術政策	
プログラム実施部局	コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）	
連携部局	人間科学研究科、法学研究科、医学系研究科、工学研究科、基礎工学研究科、国際公共政策研究科、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>【プログラム概要】 第4期科学技術基本計画が掲げる「社会及び公共のための政策」「社会とともに創り進める政策」としての科学技術イノベーション政策の形成のためには、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められます。そのためには、定量的なエビデンスに加え、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）をふくむ「科学技術への公共的関与（public engagement）」や「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」研究が生み出すエビデンスが不可欠です。</p> <p>この認識のもと本プログラムは、「科学技術の倫理的・法的・社会的問題（ELSI）」に関する研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間を「つなぐ」ことを通じて政策形成に寄与できる人材」の育成を目指します。</p> <p>なお、本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進事業」の基盤的研究・人材育成拠点を担うものとして実施されます。</p> <p>【教育目標】 自らの専門分野の枠組みを超えて、広く俯瞰的・多角的に科学技術と社会の諸問題・課題を洞察・理解し、かつ公共的関与の活動と分析を行えるような知識とセンス、実践的な能力を備えた人材を育成します。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	特になし。	
修了要件	8単位以上	必修科目：2単位
ホームページ 問い合わせ先等	ホームページ：http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/learn/gp/stips.php 全学教育推進機構機構等事務部 大学院係 E-mail: stips-staff@cscd.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	学際融合教育支援システムの受講ガイダンス機能を利用して申請してください。 (https://idiscp.osaka-u.ac.jp/gakusai/)	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
360130	科学技術イノベーション政策概論	2		1 学期	C S C D（院）	
360428	科学技術コミュニケーションの理論と実践		2	1 学期	C S C D（院）	
360131 360226	科学技術とコミュニケーション		2	1 学期 2 学期	C S C D（院）	
360132	科学技術社会論基礎		2	1 学期	C S C D（院）	
360227	科学技術と社会特論		2	2 学期	C S C D（院）	
211686	社会における科学技術特定演習		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211546	フィールド調査法特講		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
220521	総合演習（トランスプロフェッショナルリテラシー）		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220515	総合演習（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
221407	特定研究（生命倫理と法）		2	2 学期	法学研究科（博士後期）	
250520	ライフサイエンスの倫理と公共政策		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
281010	サステイナビリティ評価・技術論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280943	ライフサイクル工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
281099	都市デザイン論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	受講制限あり
290566	科学技術移転論		2	2 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
290734	ナノテクノロジー社会受容特論 B		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期） （ナノサイエンスデザイン教育研究センター提供）	
310402	公共政策 I		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310571	環境法		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310655	特殊研究（環境法）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士前期）	
310779	特殊研究（開発と環境）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士後期）	
311320	プロジェクト演習（科学技術とソーシャル・エンタープライズ）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310787	特殊講義（人事の経済分析 1）		2	通年	国際公共政策研究科（博士前期）	
310670	プロジェクト演習（人事の経済分析 3）		2	通年	国際公共政策研究科（博士後期）	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720307	Food Security, Globalization and Sustainability		2	1 学期	GLOCOL（院）	
C50306	ソーシャル・イノベーション：社会ニーズを世界で学ぶ		2	不開講	全学教育推進機構 （産学連携本部）（院）	

プログラム名称	グローバル共生	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、法学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科、コミュニケーションデザイン・センター (C S C D)	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>グローバル共生社会とは、異なる文化や言語をもつ人々が相互に承認しあい共存する社会です。グローバル化が進めば、共生社会の到来は当たり前になるとは限りません。民族、言語、宗教などの違いによって、紛争や差別、不安が生じることがあります。つまり、グローバル共生は自然に生まれるものではなく、人々の努力がないと実現できません。言語や文化が異なる集団が、どのようなプロセスを経て違いを認識し、それぞれの文化に対して対等に敬意をもって接することができるのでしょうか。これまでの人類社会のさまざまな経験や教訓から多角的に学ぶ必要があるでしょう。グローバル共生プログラムは、専門家と実践者、市民が協働し、グローバル共生社会のデザインを描くための理論と実践方法について学ぶプログラムです。参加型・対話型・現場でのトレーニングなどの新しい教育手法を通じて、身体を動かしながら学ぶことを主眼としています。</p>	
履修資格・条件	<p>資格や条件はありません。理系・文系を問わず、全学からの受講を歓迎します。これまで多文化共生についてあまり意識してこなかった人、グローバル共生という視点から自分の生き方をとらえなおそうと考えている人を歓迎します。「足もとの国際化」に興味をもち社会貢献をめざす学生、将来国際協力などの現場で働くことを希望する学生にも向いたプログラムです。</p>	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません。	
修了要件	8単位以上	必修科目2単位、選択必修科目から2単位または4単位に加え、選択科目群から2単位以上取得します。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 / E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ : http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	科目名に“*”記号が付けられているものは、英語での開講となっています。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践	2		1 学期	GLOCOL（学部、院）	
選択必修科目（2 単位または 4 単位履修）						
720202	多言語共生社会演習		2	集中	GLOCOL（学部、院）	
720205	グローバル共生実践演習		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
選択科目（2 単位以上履修）						
360123	セーフティネット論		2	1 学期	CSCD（院）	
360121	臨床コミュニケーション		2	1 学期	CSCD（院）	
360122	ヒューマンコミュニケーション		2	1 学期	CSCD（院）	
360134	多文化サポート概論Ⅰ		2	1 学期	CSCD（院）	
360229	多文化サポート概論Ⅱ		2	2 学期	CSCD（院）	
210791	人権教育学特講		2	不開講	人間科学研究科（博士前期）	
216022	多文化共生社会論特定演習Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216046	多文化共生社会論特別演習Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	(216022 と同一科目)
216020	多文化共生社会論特講Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216021	多文化共生社会論特講Ⅱ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216026	人間環境論特講Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216027	人間環境論特講Ⅱ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216050	人間環境論特別演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216051	人間環境論特別演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216028	人間環境論特定演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	(216050 と同一科目)
216029	人間環境論特定演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	(216051 と同一科目)
216063	超域地域論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216087	超域地域論特別演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216088	超域地域論特別演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216065	超域地域論特定演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	(216087 と同一科目)
216066	超域地域論特定演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	(216088 と同一科目)
211234	政治経済の人類学特講		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216152	グローバル人間学実践英語特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
220424	総合演習 (地域福祉の政治思想)		2	不開講	法学研究科（博士前期）	
221299	特定研究 (地域福祉の政治思想)		2	不開講	法学研究科（博士後期）	(220424 と同一科目)
311116	プロジェクト演習 (NPO 研究フォーラム) M		2	通年	国際公共政策研究科（博士前期）	
311121	プロジェクト演習 (NPO 研究フォーラム) D		2	通年	国際公共政策研究科（博士後期）	(311116 と同一科目)
311220	特殊講義(ナショナリズム論)		2	不開講	国際公共政策研究科（博士前期）	
311221	演習(多文化共生論)		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311229	特殊研究(ナショナリズム論)		2	不開講	国際公共政策研究科（博士後期）	(311220 と同一科目)
311230	特殊研究(多文化共生論)		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士後期）	(311221 と同一科目)
300247	現代社会ダイナミクス論 A		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
300248	現代社会ダイナミクス論 B		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
300249	現代社会ダイナミクス論 A		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
300250	現代社会ダイナミクス論 B		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
300233	公共文化形成論 A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
300234	公共文化形成論 B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
306101	日本語教育学基礎論Ⅰ A		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
306102	日本語教育学基礎論Ⅰ B		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
211531	英語による論文作成・研究発表演習*		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720155	フィールドワークの方法Ⅱ		2	不開講	GLOCOL（学部、院）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
311313	特殊講義(難民問題から世界を見る)		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	履修する場合は、いずれか 1 科目のみ 2 科目は同一科目
720111	開発援助における評価の理論と実践		2	不開講	GLOCOL（院）	
720507	マイノリティとグローバリゼーション		2	2 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	司法通訳翻訳	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、法学部、法学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>21世紀の日本では、日本語を十分に解しないまま、外国人が刑事・民事・家事・少年といった司法手続に関わる、あるいは出入国管理や難民認定での行政手続などに臨む事案が格段に増えています。</p> <p>司法通訳翻訳とは、上記のような法的場面における実務通訳や翻訳の総称です。具体的には、様々な司法ないしは行政機関や団体（例えば、弁護士会）などが関与する業務において行われています。</p> <p>本プログラムは、そういった過程で必要不可欠な通訳翻訳について、特に、法律的手続、司法通訳翻訳人の役割や行動基準、実践的コミュニケーションの3つに関する知識の習得をめざします。また、模擬実習を通じて司法通訳翻訳スキルの向上の機会も提供します。科目によっては、裁判傍聴、入国管理局、刑務所、少年鑑別所等施設訪問、警察本部見学なども含まれます。</p> <p>カリキュラムとしては、選択必修科目のほか、実務通訳翻訳の理論・訓練法・職業倫理論などに関する科目群(A)、「司法通訳の現場を知る」科目群(B)、「司法通訳翻訳の背景を知る」科目群(C)、そして「通訳スキルと言語運用能力の滋養」に関する科目群(D)の4つの選択科目群の中から、各自の必要と関心に合わせて履修することができるようになっています。</p>	
履修資格・条件	日本語ともうひとつの言語両方（言語組み合わせは問わない）の運用能力を一定以上有していることを履修条件とします。特に、司法の領域での実務通訳翻訳に関心のある方を歓迎します。ただし、法曹三者を目指したり、国家公務員、地方公務員（警察官含む）などを志望していたり、通訳を受ける当事者である外国人やその権利について関心のある方などの受講も想定しています。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません	
修了要件	10単位以上	本プログラムで指定された選択必修科目のうち2単位を履修し、かつ、選択科目群(A)、(B)、(C)、(D)の中から、最低でも2つの科目群から単位を履修する必要があります。
	(注1) いくつかの科目については、履修制限があるので、科目リストを参照してください。 (注2) 学部生は、学部レベルに配当された科目から履修してください。	
ホームページ 問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 / E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ : http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。 ◆「法務省・検察庁における通訳翻訳実務論A」、「特別講義(法務省・検察庁における通訳翻訳実務論A)」および「法務省・検察庁における通訳翻訳実務論B」、「特別講義(法務省・検察庁における通訳翻訳実務論B)」を単位取得した者は、「法務行政論」、「特別講義(法務行政論)」を履修することはできません。 ◆「警察通訳翻訳実務論」、「特別講義(警察通訳翻訳実務論)」を単位取得した者は、「警察活動の理論と実務」、「特別講義(警察活動の理論と実務)」を履修することはできません。 ◆「弁護士通訳翻訳実務論」、「特別講義(弁護士通訳翻訳実務論)」を単位取得した者は、「グローバル化時代の弁護士実務」、「特別講義(グローバル化時代の弁護士実務)」を履修することはできません。 ※本プログラムの修了判定においては、上記3件については、旧科目を単位取得したものは、新科目を単位取得したものとみなします。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
選択必修科目（司法通訳翻訳実習）						
720512	法と共生社会実践演習Ⅰ	2		1学期	GLOCOL（学部、院）	3科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020668	特別講義（法と共生社会実践演習Ⅰ）	2		1学期	法学部	
220542	総合演習（法と共生社会実践演習Ⅰ）	2		1学期	法学研究科（博士前期）	
720513	法と共生社会実践演習Ⅱ	2		2学期	GLOCOL（学部、院）	3科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020669	特別講義（法と共生社会実践演習Ⅱ）	2		2学期	法学部	
220543	総合演習（法と共生社会実践演習Ⅱ）	2		2学期	法学研究科（博士前期）	
720511	司法通訳翻訳実践演習	2		2学期	GLOCOL（学部、院）	3科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020670	特別講義（司法通訳翻訳実践演習）	2		2学期	法学部	
220544	総合演習（司法通訳翻訳実践演習）	2		2学期	法学研究科（博士前期）	
720210	公益通訳翻訳論演習Ⅰ	2		不開講	GLOCOL（学部、院）	
720211	公益通訳翻訳論演習Ⅱ	2		不開講	GLOCOL（院）	
選択科目群 A（通訳・翻訳の基礎理論）						
720203	通訳翻訳学特論 A	2		不開講	GLOCOL（院）	3科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
305505	通訳翻訳学特論 A	2		不開講	言語文化研究科（博士前期）	
308093	通訳翻訳学特論 A	2		不開講	言語文化研究科（博士後期）	
720204	通訳翻訳学特論 B	2		不開講	GLOCOL（院）	3科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
305506	通訳翻訳学特論 B	2		不開講	言語文化研究科（博士前期）	
308094	通訳翻訳学特論 B	2		不開講	言語文化研究科（博士後期）	
300289	言語表現生態論 A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
300290	言語表現生態論 B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
216158	多文化医療通訳概論		2	1学期	人間科学研究科（博士前期）	旧「医療通訳とコミュニティ」
選択科目群 B（司法通訳翻訳の現場を知る）						
220539	法務行政論		2	2学期	法学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020665	特別講義（法務行政論）		2	2学期	法学部	
220535	グローバル化時代の弁護実務		2	2学期	法学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020649	特別講義（グローバル化時代の弁護実務）		2	2学期	法学部	
220540	警察活動の理論と実務		2	1学期	法学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020666	特別講義（警察活動の理論と実務）		2	1学期	法学部	
720159	難民問題から世界を見る		2	2学期	GLOCOL（学部、院）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
220541	総合演習（法と開発）		2	1学期	法学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020667	特別講義（法と開発）		2	1学期	法学部	
選択科目群 C（司法通訳翻訳の背景を知る）						
220434	日本法総合演習		2	1学期	法学研究科（博士前期）	主として留学生を対象とするが、日本人で法学を専攻していない者の履修は可。
020219	刑法2		4	2学期	法学部	法学研究科の学生の履修は不可。
020021	刑事訴訟法		4	2学期	法学部	
026001	法学の基礎		2	1学期	法学部	法学研究科の学生の履修は不可。
220546	中国法		2	1学期	法学研究科（博士前期）	
220322	法社会学		2	2学期	法学研究科（博士前期）	
216063	超域地域論特講Ⅰ		2	1学期	人間科学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
010582	超域地域論Ⅰ		2	1学期	人間科学部	
220532	総合演習（Topics in Japanese Law）		2	1学期	法学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020291	特別講義（Topics in Japanese Law）		2	1学期	法学部	
220533	総合演習（Topics in Comparative Law）		2	2学期	法学研究科（博士前期）	2科目は同一科目、履修する場合はいずれか1科目のみ
020292	特別講義（Topics in Comparative Law）		2	2学期	法学部	
選択科目群 D（通訳スキルと言語運用能力の滋養）						
020641	特別講義（英語による法的プレゼンテーションと交渉）		2	集中	法学部	
305103	アジア言語文化表象論Ⅳ A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
305104	アジア言語文化表象論Ⅳ B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
305011	広域言語実践論Ⅵ A		2	1学期	言語文化研究科（博士前期）	
305012	広域言語実践論Ⅵ B		2	2学期	言語文化研究科（博士前期）	
720208	通訳翻訳演習（中国語）		4	不開講	GLOCOL（院）	3科目は同一科目
305507	通訳翻訳演習（中国語）		4	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
308095	通訳翻訳演習（中国語）		4	不開講	言語文化研究科（博士後期）	
720207	通訳翻訳演習（韓国・朝鮮語）		4	不開講	GLOCOL（院）	3科目は同一科目
305508	通訳翻訳演習（韓国・朝鮮語）		4	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
308096	通訳翻訳演習（韓国・朝鮮語）		4	不開講	言語文化研究科（博士後期）	
720206	通訳翻訳演習（英語）		4	不開講	GLOCOL（院）	720206 または各課程の A と B を受講すること
305522	通訳翻訳演習（英語 A）		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
305523	通訳翻訳演習（英語 B）		2	不開講	言語文化研究科（博士前期）	
308134	通訳翻訳演習（英語 A）		2	不開講	言語文化研究科（博士後期）	
308135	通訳翻訳演習（英語 B）		2	不開講	言語文化研究科（博士後期）	

プログラム名称	現代中国研究	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	文学研究科・人間科学研究科・法学研究科・経済学研究科・言語文化研究科・国際公共政策研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>1990年代以降の中国市場の突出した存在感は、中国社会の変容のみならず、中国をとりまく東・東南アジアの政治的、経済的、文化的環境を大きく変容させることとなりました。こうした中国と中国をとりまく国際社会の変化を正しく理解するためには、中国近現代史や国際政治、経済学など複数の視点の獲得と、中国や台湾との国際的な学術交流ネットワークを通じた現象理解が不可欠です。本プログラムは、中国近現代史を基盤としつつ、様々な学問領域の専門家による分野横断的で多角的な対話と、中国、台湾などにおける現地実習をとりまぜ、中国の政治や経済、文化、さらには日中関係についての受講者の関心にこたえます。</p> <p>本プログラムには、中国史をはじめとする多様な分野の専門家から現代中国研究に関わる様々な論点を提示していただく「現代中国研究」、受講者がそれぞれのテーマに従って課題探求を行い、プレゼンテーションの技術を学びながら口頭発表する「中国文化コロキウム」(集中)の二つの必修科目に加えて、様々な選択科目が用意されています。</p>	
履修資格・条件	<p>資格や条件はありません。理系・文系を問わず、留学生も含めた全学からの受講を歓迎します。これまで中国についてあまり関心をもってこなかった人、中国に関心はあるが中国語に不安を感じている人を歓迎します。日中関係や東アジアの政治、経済、文化に興味をもつ学生、将来、国際協力など現場やマスメディア、企業などで幅と厚みのある実務家として働くことを希望する学生にも向いたプログラムです。</p>	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する基礎科目(必修)4単位と選択科目4単位以上を修得することとします。
	<p>なお、プログラムの修了要件科目が研究科の修了要件科目と重複する場合の必要単位数の計算方法は、それぞれの研究科の履修要件に従うこととします。</p>	
ホームページ 問い合わせ先等	<p>グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 / E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ : http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
基礎科目（4単位以上履修）						
220481	現代中国研究	2		1 学期	法学研究科（博士前期）	どちらか 1科目のみ 履修 ※必修
221400	現代中国研究特殊講義	2		1 学期	法学研究科（博士後期）	
720401	中国文化コロキウム	2		集中	GLOCOL（院）	
選択科目						
216063	超域地域論特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216064	超域地域論特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216087	超域地域論特別演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216088	超域地域論特別演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士後期）	
216065	超域地域論特定演習Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	（216087 と 同一科目）
216066	超域地域論特定演習Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	（216088 と 同一科目）
220354	アジア政治史		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
221282	アジア政治史特殊講義		2	2 学期	法学研究科（博士後期）	
232122	事例研究（中国企業経営）		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
232110	アジア企業・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
216026	人間環境論特講Ⅰ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216027	人間環境論特講Ⅱ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
305097	アジア言語文化表象論ⅠA		2	1 学期	言語文化研究科（博士前期）	
305098	アジア言語文化表象論ⅠB		2	2 学期	言語文化研究科（博士前期）	
311156	演習（軍備管理・軍縮論）		2	不開講	国際公共政策研究科 （博士前期）	
311179	特殊研究（軍備管理・軍縮論）		2	不開講	国際公共政策研究科 （博士後期）	（311156 と 同一科目）

プログラム名称	国連政策エキスパートの養成	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、医学系研究科、薬学研究科、国際公共政策研究科、コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>国連システムは、平和と安全、開発、人権の分野から、保健、環境まで多様な分野の専門機関も含め構成されており、ニューヨーク、ジュネーブ他の本部及び全世界のフィールドで活動しています。</p> <p>現在、国連への財政貢献に関し日本はアメリカに次いで第二位となっていますが、その財政貢献に比較し国連で働く日本人職員の数が増えていないことがかねてから指摘されています。国連では、多くの場合経験を積んでいる専門家が即戦力として求められており、学生が卒業後直後に国連で働ける機会は非常に限られています。しかしながら、大学時代はキャリアの方向性を定める重要な時期であり、関心分野の知識を深め、大学卒業後もその分野で実務経験を積むことによって、将来的に国連においてキャリアを得る可能性が高まります。</p> <p>本プログラムは、将来的に国連をはじめとする国際公共セクターでのキャリアを志向する学生に対し、諸課題の基礎知識及び実践的ノウハウを提供し、理系・文系を問わない幅広い教養とグローバル化した世界の現実に対する深い理解を涵養するための教育を行います。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	国連広報局発行の「国際連合の基礎知識」を一読して理解しておけばよい。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目（2単位）と選択科目を合わせて8単位以上取得することとします。必修科目は、できる限り最初に履修してください。
	(注)「難民問題から世界を見る」については、同名称の科目履修は1科目のみとしてください。	
ホームページ 問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 / E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ : http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成 27 年 4 月 8 日 (水) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階 (吹田) 平成 27 年 4 月 10 日 (金) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。 科目名に“*”記号が付けられているものは、英語での開講となっています。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
311277	特殊講義（国連政策エキスパート・キャリア形成論）	2		1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
選択科目						
310013	国際連合システム論		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311031	特殊講義（国際行政論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310534	プロジェクト演習（国際安全保障ワークショップ）M		2	通年	国際公共政策研究科（博士前期）	
310930	特殊講義（国際貿易論）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310778	特殊講義（開発と環境）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士前期）	
311265	特殊講義（地域統合）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
310518	演習（総合安全保障）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
311301	特殊講義（国際人道法）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士前期）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	履修する場合は、いずれか1科目のみ 2科目は同一科目
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
271075	発展途上国における感染症の現状と対策		1	不開講	薬学研究科（博士前期）	
360219	Global Threats and Sustainability *		2	2 学期	CSCD（院）	
211631	コンフリクトの人文科学特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
211632	コンフリクトの人文科学特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216002	国際協力学特講Ⅰ		2	1 学期	人間科学研究科（博士前期）	
216003	国際協力学特講Ⅱ		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720111	開発援助における評価の理論と実践		2	不開講	GLOCOL（院）	

プログラム名称	グローバル健康環境	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、医学系研究科、薬学部、薬学研究科、工学研究科、国際公共政策研究科、環境イノベーションデザインセンター	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>近年、薬・食の安全性、新興・再興感染症や院内感染の問題、地球温暖化や大気・土壌・水質汚染といった地球規模での環境問題と、環境の変化が人間の心身の健康に及ぼす影響に関する懸念が高まっています。本プログラムでは、健康に影響を与える物質的・社会的環境問題を理解し、それぞれの専門知識を生かしながら、その解決方法を導くことのできる人材を育成することを目標とします。</p> <p>本プログラムは、必修科目で、人間を取り巻く物質的・社会的環境とその健康影響に関して、基盤となる重要な知識を習得したうえで、受講生各々の興味に応じて選択科目を履修するように構成されています。選択科目には国際健康政策や国際協力に関するものから、環境工学、健康科学まで、理系・文系の枠にとらわれず、幅広く履修できるようになっています。</p> <p>食環境、住環境、自然環境、社会環境を含めた環境の変化が人間の心身の健康に及ぼす影響を、グローバルな視点から具体的に考察できるような場を設けます。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません。	
修了要件	8単位以上	本プログラムが指定する必修科目、選択必修科目を合わせて8単位以上取得することとします。
	(注) ※難民問題から世界を見ると特殊講義（難民問題から世界を見る）に関しては、いずれかを選択してください。(併願不可)	
ホームページ 問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 / E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ : http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	同一内容の科目を複数履修することはできません。 科目名に“*”記号が付けられているものは、英語での開講となっています。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
720102	グローバル健康環境	2		1 学期	GLOCOL（院）	
選択必修科目						
271015	衛生・微生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
271018	情報・計量薬学特別講義		1	不開講	薬学研究科（博士前期）	
271009	毒性学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
250506	疫学総論		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
255002	生涯保健学		2	1 学期	医学系研究科（博士前期）	
255003	環境保健学		2	2 学期	医学系研究科（博士前期）	
271075	発展途上国における感染症の現状と対策		1	不開講	薬学研究科（博士前期）	
251513	国際感染症学		2	1 学期	医学系研究科（修士）	
251515	国際健康政策学		2	2 学期	医学系研究科（修士）	
311277	特殊講義（国連政策エキスパート・キャリア形成論）		2	1 学期	国際公共政策研究科（博士前期）	
250507	疫学各論		2	1 学期 （集中）	医学系研究科（修士）	
720351	環境問題への回路 I		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	履修する場合は、 いずれか 1 科目のみ 2 科目は同一科目
281190	環境と社会特講－多様性と持続可能性		2	1 学期	工学研究科（CEIDS） （博士前期）	
720305	環境問題への回路 II 実践演習		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
720306	環境問題への回路 III		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
720307	Food Security, Globalization and Sustainability *		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
251503	健康政策学総論		2	不開講	医学系研究科（修士）	
216076	地域知識論特講 II		2	2 学期	人間科学研究科 （博士前期）	
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
720111	開発援助における評価の理論と実践		2	不開講	GLOCOL（院）	
720159	難民問題から世界を見る		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	履修する場合は、 いずれか 1 科目のみ 2 科目は同一科目
311313	特殊講義（難民問題から世界を見る）		2	2 学期	国際公共政策研究科 （博士前期）	
720504	オセアニアのグローバリゼーション A		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
720505	オセアニアのグローバリゼーション B		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	

プログラム名称	東アジアの地域環境	
プログラム実施部局	グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)	
連携部局	人間科学研究科、経済学研究科、薬学研究科、 環境イノベーションデザインセンター	
履修対象者	学部5、6年・修士・博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>東アジア地域は世界経済の“成長センター”と言われ、世界経済を牽引すると同時に、東アジア地域内でも巨大な市場を形成しつつあります。一方、東アジアが抱える環境問題は深刻化、複雑化、そして越境化しています。また、東アジア地域と世界、地域内の関係は、依存と協力、対立と衝突という相反するメカニズムによって、流動化と複雑化を深めています。</p> <p>本プログラムでは、地域環境をキーワードに東アジアの地域環境と社会および地域環境と社会の形成との関係を俯瞰的・構造的な理解に加えて、地域内で抱える様々な環境問題を地域研究及び学際的な研究によって示された多様で具体的な事例を通じて学び、地域環境の特徴、特質が近代化という理念、プロセスとの因果関係を把握することを目指します。また、本プログラムでは、日本における現地調査、地域の人々との交流、学生同士、学生と教員との討論などを通じて、より現実に近い形で問題、課題を把握し、実践を通じて環境問題を解決する可能性と方法を習得します。</p> <p>本プログラムは、ローカルとグローバル2つの視点から東アジアの地域環境を捉える方法論を学び、実践を通じて知識を検証し、そして最終的には自分の認識、価値観を再検討する、再構築することを目標にします。</p>	
履修資格・条件	資格や条件はありません。環境問題に関心がある、あるいはアジアの将来に関心を寄せたいすべての学生を歓迎します。	
前提知識の要否・目安	前提知識は特に必要ありません。	
修了要件	8単位以上	本プログラム修了には必修科目4単位、選択必修科目から4単位以上、合計8単位以上を取得することが必要です。
ホームページ 問い合わせ先等	グローバルコラボレーションセンター Tel.: 06-6850-5176 / Fax: 06-6850-5185 / E-mail: ghjm@glocol.osaka-u.ac.jp ホームページ : http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/	
説明会の日程	■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房	
特記事項	次のページの科目名で“*”記号が付けられているものは、英語での開講となっています。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
必修科目						
720402	東アジアの環境の現状と未来	2		1 学期	GLOCOL（学部、院）	
720351	環境問題への回路 I	2		1 学期	GLOCOL（学部、院）	履修する場合は、 いずれか 1 科目のみ 2 科目は同一科目
281190	環境と社会特講－多様性と持続可能性	2		1 学期	工学研究科（CEIDS）（博士前期）	
選択必修科目（これらの科目から4単位以上取得）						
216076	地域知識論特講 II		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
720305	環境問題への回路 II 実践演習		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
720306	環境問題への回路 III		2	2 学期	GLOCOL（学部、院）	
720307	Food Security, Globalization, and Sustainability *		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
720213	グローバルコラボレーション言語 I		2	2 学期	GLOCOL（院）	
720214	グローバルコラボレーション言語 II		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720201	グローバルコラボレーションの理論と実践		2	1 学期	GLOCOL（学部、院）	
271019	応用環境生物学特別講義		1	1 学期	薬学研究科（博士前期）	
232111	アジア環境・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232123	事例研究（アジアにおける環境保全活動）		2	2 学期	経済学研究科（博士前期）	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	
271075	発展途上国における感染症の現状と対策		1	不開講	薬学研究科（博士前期）	

プログラム名称	環境イノベーションデザイン学	
プログラム実施部局	環境イノベーションデザインセンター	
連携部局	工学研究科、人間科学研究科、経済学研究科、国際公共政策研究科、法学研究科、基礎工学研究科、医学系研究科、コミュニケーションデザイン・センター（C S C D）、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）、全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>低炭素・循環型・安全安心社会を実現する上では、将来ビジョン・シナリオを構想し、同時に相応しい科学技術や制度を一体になって創造するという「想創技術社会」の形成が求められています。そのためには、将来の社会のビジョンのデザインに加え、そのビジョンを実現するための様々な社会変革（イノベーション）を誘導することが必要となっています。本プログラムは、サステナビリティや環境問題に関連する様々な学問領域の俯瞰的・構造的な理解に加え、将来ビジョンとさまざまな分野の研究成果を結び付けイノベーションを誘導するための学問的アプローチ（環境イノベーションデザイン）について学びます。とくにコア科目の中では、グループワークやディスカッションの機会を設け、座学だけでなく実践力を身につけさせる構成としています。また本プログラムでは実地見学や短期プログラムなどを実施し、現場にいる人たち、他大学との学生と交流する機会も提供します。本プログラムを通じて、大阪大学の学生が、サステナビリティや環境イノベーションデザイン学の知識・考え方を身につけたそれぞれの専門家として、広く社会で活躍することを期待しています。</p>	
履修資格・条件	<p>環境・サステナビリティに関心がある人、自分の専門を生かして社会を変えたいと思う人、学内外を含めいろいろな人と交流の機会を持ちたい人、理系・文系を問わず全学からの学生を歓迎します。本プログラムを通じて皆さんのそれぞれの研究が持続可能な社会構築とどのように結びつくのか、ぜひ探求してください。</p>	
前提知識の要否・目安	特にありません。	
修了要件	8単位以上	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラム科目群（必修選択コア科目5科目、選択科目33科目）の中から4科目8単位を履修します。 2. 必修選択科目5科目の中から2科目4単位以上を履修します。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>担当：上須 道徳 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1 産学連携本部D棟6F Tel 06-6879-4150 E-mail : sus.edu@ceids.osaka-u.ac.jp URL : http://www.ceids.osaka-u.ac.jp/</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中) 平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田) 平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項		

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
C50202 281010	サステナビリティ評価・ 技術論	2		1 学期	全学教育推進機構（環境イノベ ーションデザインセンター）（院） 工学研究科（博士前期）	左記必修選択 科目5科目の 中から2科目 4単位以上を 修得すること
360219 281188	Global Threats and Sustainability	2		2 学期	CSCD（院） 工学研究科（博士前期）	
360413 281189	Frontier of Sustainability Science	2		1 学期	CSCD（院） 工学研究科（博士前期）	
720351 281190	環境問題への回路 I 環境と社会特講 - 多様性と 持続可能性	2		1 学期	GLOCOL(院) 工学研究科 (博士前期)	
C50201 281187	環境イノベーションデザイ ン実践	2		2 学期	全学教育推進機構（環境イノベ ーションデザインセンター）（院） 工学研究科（博士前期）	
C50207	サステナビリティ D ラボ： 地域の資源活用をデザインする		2	2 学期	全学教育推進機構（環境イノベ ーションデザインセンター）（院）	
720307	Food security, Globalization and Sustainability		2	1 学期	GLOCOL（院）	
C50206	環境イノベーションデザイン最前 線：エネルギーと社会		2	2 学期	全学教育推進機構（環境イノベ ーションデザインセンター）（院）	梅田オフィス で夜間開講
C50205	まちづくり最前線 I：地域イノベ ーションを創出する地域活性化		2	1 学期	全学教育推進機構（環境イノベ ーションデザインセンター）（院）	梅田オフィス で夜間開講
310778	特殊講義（開発と環境）		2	不開講	国際公共政策研究科（博士前期）	隔年開講
360131 /360226	科学技術とコミュニケー ション		2	1,2 学期	CSCD（院）	
210582	環境心理学特講 I		2	2 学期	人間科学研究科（博士前期）	
220409	法政策学		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
290051	科学技術論 B		2	1 学期	基礎工学研究科（博士前期）	
232111	アジア環境・マネジメント		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
232123	事例研究（アジアにおける 環境保全活動）		2	1 学期	経済学研究科（博士前期）	
281244	Energy Economics		1	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281042	生物資源工学特論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280849	需要端エネルギーシステム工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280845	共生都市環境論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280907	交通・地域計画論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280909	プロジェクトマネージメント論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280771	機能材料化学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280777	環境材料工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280067	加工数理解析システム論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280453	燃焼工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280947	機械工学特別講義 II		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280999	環境化学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280920	環境エネルギー化学特別講義 I		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280921	環境エネルギー化学特別講義 II		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
281138	エネルギーシステム・要素論		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280025	パワーエレクトロニクス理論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280681	電力システム工学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
280943	ライフサイクル工学		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280844	産業環境マネジメント論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
280658	都市・地域再生論		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
720102	グローバル健康環境		2	1 学期	GLOCOL（院）	
720304	環境問題への回路 II 実践演習		2	2 学期	GLOCOL（院）	

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士前期課程高度学際教育) 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(前期課程)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー学研究センター	
履修対象者	修士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>大阪大学大学院の各部局で従来個別に実施してきた学際性の極めて強いナノサイエンス・ナノテクノロジーに関連する大学院講義を部局横断型に再編統合し、複数の高度学際教育プログラムを編成してあります。これらの高度学際教育プログラムの履修により、従来の専門領域に加えてナノサイエンス・ナノテクノロジーの体系化された幅広い知識を修得させ、よって有能なナノ関連分野の基礎研究開発能力と社会での活用能力を持つ人材の育成を目的とします。</p> <p>カリキュラム構成は、ナノサイエンス・ナノテクノロジーに関わる学生が広く聴講すべき講義群を、基盤講義(基盤講義群)、個々の分野の専門性が強い講義(専門講義群)、及び、研究者として巣立つための講義群(アドバンス講義群)に分類して、これに社会におけるナノテクノロジーの活用実例や社会受容における課題を講義するナノテクキャリアアップ特論(必修、吹田・豊中遠隔中継)、同社会受容特論A/B、および同デザイン特論A/B(選択科目、吹田・豊中、中之島遠隔中継)を加えて、全学の学生に対して履修を推奨します。このプログラムでは講義のみならず夏期集中で部局横断的な演習、実験を含めた高度実習訓練(約30課題)を行うことを特徴としています。また、平成27年度より「国際ナノ理工学特論A」を開講します。</p> <p>大学院博士前期課程の高度学際教育副プログラムとして、以下の6つのプログラムを平成27年度に実施します。</p> <p>①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学 ②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学 ③超分子ナノバイオプロセス学 ④ナノ構造・機能計測解析学 ⑤ナノフォトニクス学 ⑥ナノテク文理融合プログラム</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	一般に、理工系の学部レベルの知識を必要としますが、理工系に強い関心を持つ文系出身者向けには、ナノテク技術活用を広く見渡せる、⑥ナノテク文理融合プログラムが準備されており、理系専門科目を必ずしも履修してなくてもプログラム履修が可能です(「修了要件」参照)。	
修了要件	9単位以上	<p>本プログラム修了認定には、1つのプログラムの中から講義科目8単位(うち所属の専攻または領域の授業科目にない講義科目4単位以上を含む)、および集中実習科目1単位を修得することが必要です。ただし、修得した単位(「ナノテクキャリアアップ特論」、「ナノテクノロジー社会受容特論A/B」、「ナノテクノロジーデザイン特論A/B」、「集中実習科目」を含む)のうち最低4単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります。</p> <p>文系出身者向け「ナノテク文理融合プログラム」については、ナノテクキャリアアップ特論(必修)、ナノテクノロジー社会受容特論A/B、ナノテクノロジーデザイン特論A/B、科学技術移転論の講義科目と、①～⑤のプログラムの中から実習1科目(必修)を選択すれば、理系専門科目を必ずしも履修しなくてもプログラム修了が可能です。</p>
ホームページ 問い合わせ先等	<p>本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行ってください。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。</p> <p>ナノプログラム事務局：豊中地区 文理融合型研究棟 3階 303号室 メールアドレス:nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL:06-6850-6398 内線(6398) ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/</p>	
説明会の日程	<p>■ナノサイエンスデザイン教育研究センター プログラム説明会</p> <p>【豊中】平成27年4月7日(火) 12時10分～12時50分 基礎工学研究科 G508 (G棟5階) 【吹田】平成27年4月9日(木) 12時10分～12時50分 工学研究科 U2-212 (U棟2階) 【豊中】平成27年4月14日(火) 12時10分～12時50分 理学研究科 G103 (G棟1階 塩見記念室)</p> <p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中)平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階 セミナー室1階 (吹田)平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部 C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	複数年度にまたがる履修を認めます。但し、2年目以降履修の場合には、ナノプログラム事務局への直接申請が必要となりますので「前期課程プログラム履修申請書」を事務局へ必ず提出してください。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290627	ナノテクキャリアアップ特論	2		1 学期	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	吹田・豊中 T V 配信
290730	ナノテクノロジー社会受容 特論 A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290734	ナノテクノロジー社会受容 特論 B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290705	ナノテクノロジーデザイン 特論 A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290706	ナノテクノロジーデザイン 特論 B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290735	国際ナノ理工学特論 A		1	集中	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
①ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学						
290433	理論物質科学		2	1 学期	基礎工学研究科 (博士前期)	
241256	ナノマテリアル・ナノデバイ スデザイン学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
②ナノエレクトロニクス・ナノ材料学						
280776	結晶成長工学		2	1 学期	工学研究科 (博士前期)	
240928	ナノプロセス・物性・デバイ ス学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
③超分子ナノバイオプロセス学						
290437	マイクロ分子分光学		2	2 学期	基礎工学研究科 (博士前期)	
240929	超分子ナノバイオプロセス学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
④ナノ構造・機能計測解析学						
280119	極微構造解析学		2	2 学期	工学研究科 (博士前期)	
240930	ナノ構造・機能計測解析学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
⑤ナノフォトンクス学						
280206	光量子工学		2	1 学期	工学研究科 (博士前期)	
240931	ナノフォトンクス学	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
⑥ナノテク文理融合プログラム						
290566	科学技術移転論		2	2 学期	基礎工学研究科 (博士前期)	
	①～⑤プログラム中の集中実 習のいずれかを選択	1		通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
	実習で選択した①～⑤プログラ ム中でリストされた講義科目					

※上記科目は、各コースの一部の科目のみ表示していますので、その他の科目については、ナノサイエンスデザイン
教育研究センターの発行する案内冊子を確認してください。

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程社会人特別選抜) 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(後期課程社会人)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高压電子顕微鏡センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー研究センター	
履修対象者	博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>博士課程におけるプログラムでは、将来の研究リーダーとして、ナノ関連の複数分野の最新科学技術を選択的に導入し統合する能力と見識の涵養、技術の社会受容の重要性を十分に認識した研究の立案や推進などの研究統括能力の育成を目指しています。そこで、ナノサイエンス・ナノテクノロジー関係に現在従事しているか、将来従事したいと考えている社会人特別選抜学生が、主専攻以外に付加価値としてナノテクの深化や多様化について副専攻的に受講することは、上記の視点で大いに役立つものと考えられます。また、社会人DCの場合、遠隔地勤務ではスクーリングによる講義受講・討論等は難しく、遠隔講義システムによるサテライト教室での受講は本人の負担を軽減することにも繋がります。</p> <p>そこで、本プログラムでは、現在社会人教育向けに開講されている講義群を社会人特別選抜学生にも開放し、1つのコースを選んで遠隔受講を許可し、土曜集中講座(社会受容特論A/B、デザイン特論A/B)、スクーリング実習も合わせて聴講可とする副プログラムを開講します。</p>	
履修資格・条件	博士後期課程に在学する社会人特別選抜学生を対象とし、職場の関係で来学が困難な者が遠隔講義システムを利用してサテライト教室にてライブ受講することが条件です。	
前提知識の要否・目安	一般に、理工系の学部レベルの知識を必要とします。	
修了要件	10単位以上	本プログラムの修了認定には、以下の①～④のプログラム群から1つのプログラムを選び、土曜集中講座、スクーリング集中実習を含めて10単位以上を修得することが必要です。なお、修得した単位のうち最低4単位は、所属研究科の修了に直接関わらない単位として修得する必要があります。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行ってください。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。</p> <p>ナノプログラム事務局：豊中地区 文理融合型研究棟 3階 303号室 メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 内線(6398) ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/</p>	
説明会の日程	<p>下記日時に説明会を開催しますが、3月27日の履修指導に引き続き特別講義から開始のため、事前の説明会は行いません。随時ナノプログラム事務局へ問い合わせてください。講義内容等は、ナノプログラムのホームページ上に掲載されている社会人教育の項を参照してください。</p> <p>■社会人教育プログラムH 27年度開講式(履修指導)及び特別講義 平成27年3月27日(金) 18:00～21:00 大阪大学中之島センター10F メモリアルホール</p> <p>■合同ガイダンス (豊中)平成27年4月8日(水) 11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階セミナー室1階 (吹田)平成27年4月10日(金) 11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>いずれのプログラムも、所属研究科の博士研修(主専攻)とは別に副プログラムとして付加的に受講するものですので、十分な意欲が必要であり、現在博士後期課程1、2年に在学中が最もふさわしい時期と言えます。希望者は本プログラムの趣旨とテーマ内容の概要を参考にして、説明会開催時期、課題内容、履修条件などの詳細をホームページ上で必ず確認の上、説明会での指示に従って主専攻の指導教員の許可を得て、添付の履修申請書(後期課程用)をナノプログラム事務局へ直接提出してください。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290730	ナノテクノロジー社会受容特論 A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	1 科目 選択必修
290734	ナノテクノロジー社会受容特論 B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290705	ナノテクノロジーデザイン特論 A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290706	ナノテクノロジーデザイン特論 B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
① ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学						全 3 科目
290593	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン A	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290594	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン B	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
241256	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学		1	通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
② ナノエレクトロニクス・ナノ材料学						全 3 科目
290700	ナノエレクトロニクス・ナノ材料 A	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290701	ナノエレクトロニクス・ナノ材料 B	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
240928	ナノプロセス・物性・デバイス学		1	通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
③ 超分子・ナノバイオ学						全 3 科目
290702	超分子ナノバイオ・フォトニクス A	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290703	超分子ナノバイオ・フォトニクス B	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
240929	超分子ナノバイオプロセス学		1	通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
④ ナノ構造・機能計測解析学						全 3 科目
290599	ナノ構造・機能計測解析学 A	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290600	ナノ構造・機能計測解析学 B	4		通年	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
240930	ナノ構造・機能計測解析学		1	通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	集中実習
⑤ ナノフォトニクス学				開講せず		

プログラム名称	ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム (博士後期課程教育研究訓練プログラム) 【略称：ナノ高度学際教育研究訓練(後期課程)】	
プログラム実施部局	ナノサイエンスデザイン教育研究センター	
連携部局	理学研究科、医学系研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、生命機能研究科、産業科学研究所、接合科学研究所、超高圧電子顕微鏡センター、太陽エネルギー化学研究センター、レーザーエネルギー学研究センター	
履修対象者	博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>所属研究科の博士研修(主専攻)とは別に副プログラムとして付加的に受講する教育研究訓練プログラムで、主専攻の研究以外に複眼的に幅広く企業の研究開発手法を経験したり、異分野の研究を経験することにより、博士人材として必要なスキルアップを図ることができます。将来、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの分野の教育研究開発に携わる場合に不可欠な知識を身につけるために、講義と討論からなる土曜集中講義「ナノテクノロジー社会受容特論A/B」(1科目選択必修)、「ナノテクノロジーデザイン特論A/B」(1科目選択必修)を修得すると同時に、以下の2種類のプログラム(1年間にわたる週1回の教育研究訓練)のいずれかを選択して履修します。また、平成27年度より「国際ナノ理工学特論A」(欧州とのTV交換講義)を開講します。</p> <p>1.「産学リエゾンPAL教育研究訓練」 産学リエゾンPAL教育研究訓練は、1週間に1回程度(集中の場合もあり)の割で企業併任特任教授と学内教員の共同指導の下に、企画討論、研究実施、中間報告、企業でのインターンシップ、企業の若手研究者との交流等を経て、最終報告書作成に至る1年間の長期プログラムです。次段階の研究訓練では、より企業との共同研究的色彩が強くなります。</p> <p>2.「高度学際萌芽研究訓練」 高度学際萌芽研究訓練は、1週間に1回程度(集中の場合もあり)の割で学内教員の指導の下に、異分野の大学院生がナノサイエンスラボラトリーに集まって、企画討論、研究実施、中間報告等を経て、最終報告書作成に至る1年間の長期プログラムです。</p>	
履修資格・条件	特になし。	
前提知識の要否・目安	一般に、理工系の学部レベルの知識を必要とします。	
修了要件	8単位以上	「産学リエゾンPAL教育研究訓練」(5単位)あるいは「高度学際萌芽研究訓練」(5単位)のいずれかを選択し、同時に「ナノテクノロジー社会受容特論A/B」(2単位：いずれか1科目必修)、「ナノテクノロジーデザイン特論A/B」(2単位：いずれか1科目必修)を組み合わせ、8単位以上を修得することが必要です。
ホームページ 問い合わせ先等	<p>本プログラムの全般についての問い合わせは、ナノプログラム事務局へ行ってください。電子メールの際には、必ず所属研究科・専攻・研究室名、履修プログラム名を記載してください。</p> <p>ナノプログラム事務局：豊中地区 文理融合型研究棟3階303号室 メールアドレス：nano-program@insd.osaka-u.ac.jp TEL：06-6850-6398 内線(6398) ホームページ：http://www.sigma.es.osaka-u.ac.jp/pub/nano/</p>	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス (豊中)平成27年4月8日(水)11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階セミナー室1階 (吹田)平成27年4月10日(金)11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階e-square さいえんす工房 上記とは別にテーマ説明会を開催予定です。詳しくは上記ナノプログラムホームページを参照のこと。</p>	
特記事項	<p>いずれのプログラムも、所属研究科の博士研修(主専攻)とは別に副プログラムとして付加的に受講するものですので、十分な意欲が必要であり、現在博士後期課程1、2年に在学中が最もふさわしい時期と言えます。希望者は本プログラムの趣旨とテーマ内容の概要を参考にして、説明会開催時期、課題内容、履修条件などの詳細をホームページ上で必ず確認の上、説明会での指示に従って主専攻の指導教員の許可を得て、添付の履修申請書(後期課程用)をナノプログラム事務局へ直接提出してください。</p> <p>複数年度にまたがる履修を認めます。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
290730	ナノテクノロジー社会 受容特論A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	AまたはBを 選択必修
290734	ナノテクノロジー社会 受容特論B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290705	ナノテクノロジーデザ イン特論A		2	不開講 (偶数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	AまたはBを 選択必修
290706	ナノテクノロジーデザ イン特論B		2	集中 (奇数年開講)	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
290735	国際ナノ理工学特論A		1	集中	基礎工学研究科 (専攻・領域外科目)	
241325	産学リエゾンP A L教 育研究訓練		5	通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	いずれか 1科目を選択
241326	高度学際萌芽研究訓練		5	通年	理学研究科 (専攻・領域外科目)	

プログラム名称	知的財産法を修得した人材育成	
プログラム実施部局	知的財産センター	
連携部局	法学研究科	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>「知的財産立国」が国家目標とされている現在、日々生み出される知的財産を活用・発展させることのできる人材が求められています。そこで、本プログラムは、理系・文系を問わず、様々な領域の研究を行っている大学院生に対して知的財産法の高度な教育を提供することにより、知的財産法に関する知識・理解を社会の発展に役立つように駆使することのできる各分野における専門家を育成することを目指しています。具体的には、科目表を参照してください。</p>	
履修資格・条件	<p>本プログラムの科目は、基本的に双方向的な授業方法で行われますので、受講生は欠席・遅刻しないことが必要です。成績は、平常点2割、期末試験（筆記試験）8割で評価しますが（ただし、演習科目である「産業財産権法特論」、「産業財産権法分析1」及び「著作権法分析」については、平常点4割、期末試験6割で評価します）、欠席に関しては、理由の如何を問わず、欠席回数が4回（「特許法1」については、8回）を超える場合は不合格とします。また、遅刻に関しては、3回の遅刻で1回の欠席として扱い、15分以上の遅刻は欠席として取り扱います。</p> <p>本プログラムの科目のうち、「産業財産権法基盤」、「産業財産権関係条約1」及び「産業財産権法分析1」は、「特許法1」、「意匠法1」及び「商標法1」を履修済みであることを履修資格としています。「著作権法分析」は、「著作権法概論」を履修済みであることを履修資格としています。その他の履修資格等については、KOANのシラバスを参照してください。</p> <p>なお、本プログラムは、弁理士試験短答式一部科目免除制度に対応するものではありません。</p>	
前提知識の要否・目安	<p>授業は、受講生が知的財産法の基礎的な知識を有していることを前提として進められますので、本プログラムを受講しようとする方は、事前に、知的財産法の基礎的な知識を取得しておくようにしてください。たとえば、知的財産法の教科書を少なくとも1冊は読んでおいてください。また、各回の授業について、受講生は予習・復習を各2時間程度行うことが求められることに注意してください。</p>	
修了要件	8単位以上	対象科目から、8単位以上を取得してください。
ホームページ 問い合わせ先等	大阪大学知的財産センター（濱口 太久未） E-MAIL epi@iprism.osaka-u.ac.jp	
説明会の日程	<p>■知的財産センターの単独説明会 平成27年4月1日（水）20時30分～（時間厳守） 大阪大学中之島センター講義室201（2階）</p> <p>■合同ガイダンス （豊中）平成27年4月8日（水）11時30分～13時30分 基礎工学国際棟1階セミナー室1階 （吹田）平成27年4月10日（金）11時30分～13時30分 産学連携本部C棟3階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	<p>*本プログラムの全ての科目について、受講人数の制限が設けられています。詳細は、KOAN登録の前に、担当教員に確認してください。</p> <p>*本プログラムの科目の内容は、KOANのシラバスと各科目の第1回目の授業時にガイダンスがありますので、それを参考にしてください。</p> <p>*本プログラムの科目を履修しようとするときは、やむを得ない事情がある場合を除き、第1回目の授業に参加してください。</p> <p>*本プログラムの科目を、やむを得ない事情（例えば、同じ時間帯に他の科目を履修しなければならないこと）により履修できない場合には、豊中キャンパスでの受講を認める可能性があります（ただし、豊中キャンパスで「特許法1」を受講することはできません。）。その際は、速やかに担当教員に相談してください。</p>	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
221345	特許法 1		4	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221351	意匠法 1		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221353	商標法 1		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221358	不正競争防止法		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220488	著作権法概論		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
221359	産業財産権法特論		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	
220482	産業財産権法基盤		2	1 学期	法学研究科（博士前期）	夏期集中
221355	産業財産権関係条約 1		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
221360	産業財産権法分析 1		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220509	知的財産経営		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	
220508	著作権法分析		2	2 学期	法学研究科（博士前期）	後期集中

※本プログラムの科目は、「産業財産権法基盤」及び「著作権法分析」を除き、大阪大学中之島センターにおいて、平日夜間に開講されます。**豊中キャンパスでは開講されません。**「産業財産権法基盤」は、夏休みの土曜日に集中的に開講されます。「著作権法分析」は、2 学期の土曜日に集中的に開講されます。

プログラム名称	実学主義 ～企業の視点から科学する～	
プログラム実施部局	産学連携本部	
連携部局	全学教育推進センター、理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、国際公共政策研究科、コミュニケーションデザイン・センター（C S C D）	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>実学主義は、企業と大学が協働して、主として実践型教育プログラムを提供する講座です。この講座では、実学の現場に重点を置き、大学で学ぶ理論が社会の中でどのように利用されているのか、また実際に社会で利用する上で、どのようなことを追及する必要があるのか、という点については、実践の中で理解することを目的としています。</p> <p>また各科目を通じて、複数の企業に参加いただき、それぞれの企業の視点でどのように製品開発が成されているのか実体験してもらい、大学院生に幅広い分野の製品に関わる素養の獲得と、実社会に通用する高度な専門性の習得とその活かし方を学ぶ契機とします。</p>	
履修資格・条件	一部理系大学院生対象の授業がある	
前提知識の要否・目安	特になし	
修了要件	8 単位以上	
ホームページ 問い合わせ先等	産学連携本部 e-square ホームページ http://e2handai.jp/school/program1/s1_about	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス</p> <p>(豊中) 平成 27 年 4 月 8 日 (水) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>(吹田) 平成 27 年 4 月 10 日 (金) 11 時 30 分～ 13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	実習場の都合による人数制限がある場合があります。実習を行いますので、学生教育研究災害傷害保険に加入は必須です。ガイダンスを行う予定です。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
C50301	製品企画：発想の源を探る		2	集中	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
C50302	製品開発：ニーズ調査と発想法 を学ぶ		2	集中	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
C50303	製品開発：プログラミングと制 御を学ぶ		2	集中	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
C50304	製品開発：先端技術開発現場体験		2	集中	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
C50305	製品評価：測ることで見える製 品アイデアへのフィードバック		2	集中	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
C50306	ソーシャル・イノベーション： 社会ニーズを世界で学ぶ		2	不開講	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
C50307	製品開発：商品アイデアを練る		2	集中	全学教育推進センター （産連本部）（院）	
281027	レーザー分光学		2	2 学期	工学研究科（博士前期）	
241420	先端機器制御学		2	集中	理学研究科（博士前期）	
280697	時空間フォトニクス		2	1 学期	工学研究科（博士前期）	
290712	高度な学びの職業への接続を考 える		2	不開講	基礎工学研究科（博士前期）	
241421	分光計測学		2	集中	理学研究科（博士前期）	

プログラム名称	大阪大学未来の大学教員養成プログラム	
プログラム実施部局	教育学習支援センター（T L S C）	
連携部局	全学教育推進機構	
履修対象者	修士 ・ 博士	
プログラム概要 及び教育目標	<p>将来大学教員を目指す大学院生の皆さん、教育力のトレーニングは十分ですか？研究科の枠を超えた、「教育」でつながるネットワークを築きませんか？</p> <p>今、大学現場では、研究力はもちろん、教育力も求められています。採用面接の際には、シラバスの提示や模擬授業の実践を課すところも多くなってきました。「大阪大学未来の大学教員養成プログラム」では、大学教員として教壇に立つための様々なノウハウや就職時の公募書類の書き方・面接対応を学びます。大学教員志望の方はもちろん、人材育成や人を教えることに興味がある方を募集します。すべての研究科の大学院生が履修できますので、研究科の枠を超えて様々な方と交流してください。</p> <p>〈本プログラムでは、以下の5つの科目が設定されています〉</p> <p>①大学授業開発論Ⅰ【必須】 （授業デザインと基本的な教育技法に関わる知識学習と技能トレーニング）</p> <p>②大学授業開発論Ⅱ【必須】 （高度な教育技法のトレーニング、授業実習、授業参観）</p> <p>③大学授業開発論Ⅲ【必須】 （アカデミック・ポートフォリオの作成）</p> <p>④学術的文章の作法とその指導【選択】 （ライティング指導のトレーニング）</p> <p>⑤現代キャリアデザイン特論【選択】 （大学院生向けのキャリアデザインの方法と実践）</p> <p>〈本プログラムの到達目標〉</p> <p>【知識】 大学生を教える上で必要な教育・学習理論ならびに教育実践に関わる基本的な知識を習得している。</p> <p>【技能】 わかりやすく、記憶に残り、動機を高め続ける授業や文章指導ができる。</p> <p>【態度】 学生の深くて積極的な学びに強く関心を持ち、それを促そうとする強い意欲を持っている。</p>	
履修資格・条件	特になし	
前提知識の要否・目安	不要	
修了要件	8単位以上	
ホームページ 問い合わせ先等	プログラム詳細と Web エントリーはこちら→ http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/ffp 問い合わせ先：office@tlsc.osaka-u.ac.jp（阪大 FFP 担当）	
説明会の日程	<p>■合同ガイダンス（個別相談に対応します。是非参加ください。）</p> <p>（豊中）平成 27 年 4 月 8 日（水）11 時 30 分～13 時 30 分 基礎工学国際棟 1 階 セミナー室 1 階</p> <p>（吹田）平成 27 年 4 月 10 日（金）11 時 30 分～13 時 30 分 産学連携本部 C 棟 3 階 e-square さいえんす工房</p>	
特記事項	初回の授業までに必ず上記 Web サイトでプログラムの詳細を確認して、Web エントリーを済ませてください。人数が定員を超えた場合、エントリー内容を基に、選抜を行う可能性があります。	

構成科目

時間割 コード	授業科目名	単位数		開講 学期	開講部局（課程）	備考
		必修	選択			
C50401/ C50402	大学授業開発論Ⅰ	2		1 学期 2 学期	全学教育推進機構 (TLSC) (院)	
C50403/ C50404	大学授業開発論Ⅱ	2		1 学期 2 学期	全学教育推進機構 (TLSC) (院)	
C50405	大学授業開発論Ⅲ	2		2 学期	全学教育推進機構 (TLSC) (院)	
C50104	学術的文章の作法とその指導		2	2 学期	全学教育推進機構 (院)	
C50406	現代キャリアデザイン特論		2	1 学期	全学教育推進機構 (TLSC) (院)	

学際融合教育科目について

平成 25 年度から、本学における学際融合教育（研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育）のより一層の充実を目指して、大学院横断教育科目（※）の新たな科目区分として「学際融合教育科目」を設置しました。

学際融合教育科目は、文系の学生でも理系の学生でも受講しやすい科目です。副専攻プログラムや高度副プログラムを受講していなくても、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」として全学の大学院生に提供していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※大学院横断教育科目の既存の科目区分としては、コミュニケーションデザイン科目（コミュニケーション教育及び高度教養教育に関する授業科目）とグローバルコラボレーション科目（真の国際性を備えた人材養成のための教育に関する授業科目）があります。詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

【平成 27 年度学際融合教育科目一覧】

時間割コード	授業科目名	単位数	開講学期	曜日/時限	構成科目に含むプログラム	実施組織
C50101	学際科目（国際ビジネスと標準化）	2	1 学期	集中	高度副「国際標準化」 P 62	全学教育推進機構
C50102	学際科目（高度な学びの意味を考える）	2	1 学期	集中	高度副「キャリアデザイン」 P 60	
C50103	日本の進路をデザインする	2	1 学期	集中	高度副「持続可能な日本の進路を考える」 P 34	
C50104	学術的文章の作法とその指導	2	2 学期	木 3	高度副「大阪大学未来の 大学教員養成プログラム」 P 120	
C50601	データマイニングの基礎と実践	2	1 学期	集中		産業科学研究所
C50501	上級専門日本語（アカデミック・コミュニケーション）A	2	1 学期	月 4		国際教育交流センター
C50502	上級専門日本語（アカデミック・コミュニケーション）B	2	2 学期	月 4		
C50503	上級専門日本語（アカデミック・プレゼンテーション）A	2	1 学期	水 4		
C50504	上級専門日本語（アカデミック・プレゼンテーション）B	2	2 学期	水 4		
C50505	上級専門日本語（アカデミック・リーディング）A	2	1 学期	月 5		
C50506	上級専門日本語（アカデミック・リーディング）B	2	2 学期	月 5		
C50507	上級専門日本語（アカデミック・ライティング）A	2	1 学期	火 5		
C50508	上級専門日本語（アカデミック・ライティング）B	2	2 学期	火 5		
C50701	実践ミュージアムコミュニケーション学	2	1 学期	集中		

時間割コード	授業科目名	単位数	開講学期	曜日/時限	構成科目に含むプログラム	実施組織
C50201	環境イノベーションデザイン実践	2	2学期	木 4、5	高度副「環境イノベーションデザイン学」 P 108	環境イノベーションデザインセンター
C50202	サステナビリティ評価・技術論	2	1学期	木3		
C50203	環境イノベーション最前線：エネルギーと社会	2	2学期	水 6、7		
C50204	サステナビリティDラボ：地域の資源活用をデザインする	2	2学期	火 6、7		
C50205	まちづくり最前線：地域イノベーションを創出する地域活性化	2	1学期	集中		
C50301	製品企画：発想の源を探る～現場担当者によるトークリレー	2	通年	集中	高度副「実学主義 ～企業の視点から科学する～」 P 118	産学連携本部
C50302	製品開発：ニーズ調査と発想法を学ぶ	2	1学期	集中		
C50303	製品開発：プログラミングと制御を学ぶ	2	1学期	集中		
C50304	製品開発：先端技術開発現場体験	2	2学期	集中		
C50307	製品開発：商品アイデアを練る	2	1学期	集中		
C50305	製品評価：測ることで見える製品アイデアへのフィードバック	2	通年	集中		
C50306	ソーシャル・イノベーション：社会ニーズを世界で学ぶ	2	不開講	集中		
C50401 C50402	大学授業開発論Ⅰ（※）	2	1学期 2学期	木6、7 集中	高度副「大阪大学未来の大学教員養成プログラム」 P 120	教育学習支援センター
C50403 C50404	大学授業開発論Ⅱ（※）	2	1学期 2学期	集中		
C50405	大学授業開発論Ⅲ	2	2学期	集中		
C50406	現代キャリアデザイン特論	2	1学期	集中	高度副「キャリアデザイン」 P 60 高度副「大阪大学未来の大学教員養成プログラム」 P 120	

※大学授業開発論Ⅰ、Ⅱについては、同一内容の講義を1学期、2学期それぞれで開講します。

※各研究科での学際融合教育科目の取り扱いについて

学際融合教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。修了要件としての選択科目や他研究科科目等のように単位認定される研究科と、修了要件には含まないとする研究科がありますので、修了要件に算入できるかどうかについては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口を確認してください。

はじめに

昨今、社会の複雑化により、一分野の主専攻のみでは対応できない状況が増えています。この状況を鑑み、本学では、学際融合教育（学部・研究科の枠にとらわれない教育）を推進しています。その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程（カリキュラム）以外の教育プログラムを履修できる体制として「大阪大学大学院副専攻プログラム」、「大阪大学大学院等高度副プログラム」を用意しています。

大阪大学は、多数の研究科・研究所・センター等からなる総合大学です。提供されているプログラムは、それぞれの専門分野を組み合わせられており、多様かつ膨大です。この教育環境を最大限利用してみませんか。

このプログラムを履修することで、今までより大きな視野で物事を考えることができるようになり、主専攻にもプラスに作用すると確信しています。

副専攻プログラム・高度副プログラムは、主専攻の教育課程（カリキュラム）に加えて、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うための教育プログラムです。

履修に際しては、主専攻の科目の履修計画、研究室での研究活動計画などをよく確認して、プログラムの履修計画を立てるようにしてください。

各プログラムの詳細については「プログラム紹介」の各プログラムの問い合わせ先にご照会ください。

(全般的な問い合わせ先)

大阪大学 全学教育推進機構等事務部大学院係

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-16

TEL 06-6850-6214

Mail zenkyo-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp

